建築と社會

13

四月號

第二十一輯　第四號・昭和十三年四月一日

日本建築協會

登録 OHNO SHUTTER PATENTED 商標

日英米特許三一個・實用新案登錄六三個併用

大野式防火捲上ヶ戸

〔特許大野式シヤツター〕

主要製品

大野式シヤッター
大野式ルーブルシヤッター
大野式融金付自動閉鎖戸
大野式工場用軸承
大野式轉子入軸筐・戸車
大野式廻轉軸抵抗測定機
各種防火扉・鋼製建具類
應用特殊機械類設計製作

日英米佛獨特許三七個・實用新案登錄八四個併用

特許不二サッシ

東京市大森區新井宿七丁目
株式會社不二サッシ製作所提携

合資會社 **大野製作所**

東京市芝區三田四國町二番地 ・ 電話三田(45)三七三七・三七三八・三七八七

取付出張員詰所・大阪市此花區上福島中二・電話福島(45)五八八

大阪都市計畫防火地區圖を頒布す

今回下記內務省告示に依つて大阪の防火地區が廣範圍に渉つて追加指示されましたに就いて、同防火地區圖を次の通り實費にて頒布しますから御入用の方は至急お申込下さい

大阪都市計畫防火地區圖(二萬分ノ一)1部

●實　　費　15錢　(外に送料2錢)

●送金方法　振替　(振替口座大阪39975)

內務省告示

大阪都市計畫防火地區追加變更ノ件

昭和十年十月二十八日附議　議事第一一九號　第六〇四

內務省告示　第百八十八號

大正十二年七月十三日內務省告示第二百二十七號大阪都市計畫防火地區追加變更ノ件昭和十一年四月四日內閣ノ認可ヲ受ケ昭和十一年四月二十九日ヨリ之ヲ施行ス其ノ關係圖面ハ大阪府廳及大阪市役所ニ備ヘ置キ縱覽ニ供ス

昭和十一年四月九日

內務大臣　潮　惠之輔

申込所　社團法人 **日本建築協會**

建築と社會

第21輯　第4號　昭和13年4月發行

四月號

目　次

住宅の防護室……住宅委員會（1）
百貨店に對するスプリンクラーと自働火災警報裝置……永野貞次（19）
大工徒弟問題並に資格檢定制に關する座談會……（23）
度量衡制度改正の諮問から答申まで……岡實（27）

・武田博士を憶ふ・

武田君を憶ふ……片岡安（35）
亡き父武田五一……飯島猛夫（36）
武田先生の思出……坂靜雄（37）
先生の思ひ出……村田治郎（38）
慈顏を偲ぶ……大倉三郎（38）
不言の訓へ……元眞勳（40）
武田先生……新名種夫（41）
恩師の俤と線……霜鳥之彦（43）
武田博士を追想す…松本儀八（44）
武田五一先生……藤原義一（45）
武田先生を憶ふ……岡田孝男（45）
武田先生……吉田信武（46）
永遠の青年……東畑謙三（47）

・時　報・

防空展覽會開催……（50）
本協會指導支那防毒室模型出品……（53）
中支方面防空施設視察員派遣……（53）
ブツク・レビユー……堀口甚吉（54）

・新建築欄・

港區役所（大阪）　大阪市防疫事務所　大阪市立野里質舖　泉尾託兒所
Foreshore 海水浴場の娛樂設備（イギリス）　映畫館（イギリス）
自動車庫（ドイツ）　レセスター街の事務所建築（イギリス）
海岸のアパートメント（イギリス）　Vatavia のCampana 工場（アメリカ）
コラムビヤ・ハイスクール（アメリカ）　給油スタンド實例（ドイツ）
チエース・ナシヨナル銀行の新支店（アメリカ）　Hang の家（ドイツ）
ケント州の住宅（イギリス）　Centerville の邸宅（アメリカ）
パーム・スプリングの住宅（アメリカ）　コラムバラの住宅（アメリカ）
マサチユーセツツ州の住宅（アメリカ）

會　報……（57）

住　宅　の　防　護　室

住　宅　委　員　會

本稿は住宅委員會の本年度研究項目の一つとして討議せるものの一部を編輯したものであるが、住宅研究の資料として技術家並に一般都市居住者の參考となれば幸甚である。尙進んで防護室の具體的な研究は現下の急務であるから專門技術家の努力は勿論のこと一般市民としても大なる關心を有つて進むべき問題である。

目　次

Ⅰ、序　論
Ⅱ、防護室の目的
Ⅲ、防護室の耐彈性
Ⅲ、防護室の計畫
Ⅴ、防護室の備品及用具類
Ⅵ、鐵筋コンクリート造防護室
　1、位置、環境
　2、室の大さ
　3、前　室
　4、收容室
　5、屋根、(天井)、壁、床
　6、窓
　7、換氣孔
　8、出入口
　9、防毒幕
Ⅶ、木造防護室
　1、位置、環境
　2、室の大さ
　3、前　室
　4、收容室
　5、構　造
　6、窓、出入口、換氣孔
Ⅷ、簡易防護室
　1、位置、環境
　2、天井、壁、床
　3、建　具
　4、其　他
Ⅸ、防毒蚊帳
Ⅹ、結　語

Ⅰ　序　論

航空機の止む處を知らない進歩は各國相互間の距離を益々短縮することを意味する。之れと新しい國勢の變遷とを併せ考へるとき誰か吾國都市の空襲に對する絶對安全性を保證し得る者があらうか。此處に於てか政府でも近い將來に愈々都市に空襲防護室の建設を實行せんとしてゐるのである。

都市建築物の內、住宅は全數の約七〇%を占めてゐると云ふ。都市並びに其の近郊の住宅は個人住宅、集合住宅、官舍、宿舍等いづれも空襲の危害を多く被るものと考へなければならない。

吾國の樣に木造の家屋が密集し非常の際の避難所さえも充分でない都市及其の近郊の住宅で最も恐ろしいものは無數に投下される燒夷彈に依る火災と毒瓦斯のための殺傷の被害とである。小型の燒夷彈ならば一臺の飛行機に數百千箇を積むことが出來ると云はれてゐる。之等の燒夷彈が所選ばず投下され、一時に數十百箇所より火災が起り、而かも交通の杜

絶と水道の破壊のため消火作業が充分に行はれない時を考へれば、全く膚に粟する感がある。故に之等の住宅、家族の安住の城たるべき住宅には防護室は必要であると考へる。

適當な指導のもとに最も實狀に即した、最も適當な防護室を設けて家族の生命を護り國民防空の一半を全うすることは急務であり、寧ろ義務であると云ふも過言ではあるまい。

Ⅱ 防護室の目的

防護室は空襲の間、人畜命を防護すべき目的を有つて生れたものである。防護には各個防護と集團防護とがある。各個防護は最も確實なものであるが爆彈、燒夷彈に對しては防護は不可能であり、且相當多額の經費を要する。又老幼病弱者には不適當である爲家族全體に實施することは不可能である。しかし少くとも防火、防毒、其他の任務を有する主人主婦位は防護に從事し、外部との連絡や警戒に當るため防毒マスク及衣具が必要である。其他の家族も萬一の場合の避難及び防護のために出來れば防毒マスク、衣具を備へて置きたい。止むを得なければ應急的な手製の防毒面とゴム靴、ゴム手袋でも結構である。

集團防護として家族特に老幼病弱者を避難せしめ、尙餘力があらば一般の民衆をも之れに避難せしめて、比較的長時間に渉り收容するため、又防護勤務者の主人、主婦の休息や活動の根據點として一住宅に一防護室又は防護設備（例へば防毒蚊帳の如きもの）は必要である。

殊に附近に小學校、公園、廣場其他の完備せる防護室や避難所の無い場合、又吾國の様に木造住宅が密集し、一度の空襲にも爆彈、燒夷彈に依り忽ち破壞され火災を惹起し、更らに其後に來るべき毒瓦斯の襲擊を考へるとき、建築費の幾パーセントかを以て防護設備を整へることは必要である、と言ふよりは寧ろ各自の義務ではあるまいか、特に中流以上の住宅にして、單なる裝飾、贅澤なる設備を持ちながら人命を護るべき防護室を持たぬに至つては大いに恥ずべきである。一般に住宅に於いては建物全體を防護せんとするより、其一部を可及的完全な防護室として家族の生命を護る方が得策である。殊に地下室や倉庫の地下室を利用する場合などは其の要する經費は比較的輕小であつて、此の程度の費用は不必要な裝飾費を節約することに依り容易に捻出することが出來ると考へる。防護室は空襲時のみならず地震、暴風等の天災に際し避難し得る、又平素は物置、倉庫等として充分利用出來るものである。「何時あるか又無いかも知れない空襲のみに備へるために防護室を造るに及ばない」と云ふ說は以上の事項で充分反駁出來ると考へる。

密集せる都市及郊外住宅地及其他軍事上重要な施設（例へば一般軍事施設、變電所、水源地、發電所、瓦斯タンク、貯油タンク等）工場、（軍需及生産工場）交通、通信の要點、（例へば鐵道、停車場、港灣、運河川、橋梁、無電臺、放送局等）に近接せる住宅、宿舍等は爆擊の危害を被る危險率が甚だ多い。次ぎに住宅防護室を新設する場合を述べる。現存のものを改造する場合も之れに準じ、可及的之れに近似せる條件を具有せしめたい。

Ⅲ 防護室の耐彈性

住宅の防護室では破壞爆彈に對しては爆彈の重量及び投下高度等に依り、絶對安全を保し難いが鐵筋コンクリート造であるときは或程度爆彈の遠距離作用に耐え得られる。しかし木造のときは殆んど安全を保し難い。燒夷彈に對しては鐵筋コンクリート造は殆んど絶對安全であるが、木造の場合には耐火又は準耐火構造となすべきである。毒瓦斯に對しては鐵筋コンクリート造、木造を問はず絶對安全を期すべきであつて、木造の室等で目張りを完全に出來ないときには、防毒蚊帳等を用ふべきである。要するに防護室は成るべく鐵筋コンクリート造となし、或程度の耐彈性を與へ、且、燒夷彈及び毒瓦斯彈に對しては絶對的な安全性を與へるべきである。

註

1 防　　彈

航空機から投下される爆彈を大別すれば次の三種類に分類出來る。即ち

A、人馬殺傷用爆彈

B、破 壞 用 爆 彈

地雷爆彈、破甲爆彈

C、特 殊 爆 彈

燒夷彈、毒瓦斯彈、發煙彈、照明彈、細菌彈、液體空氣彈等

此の中人馬殺傷用爆彈は其の破片を以て人馬を殺傷する目的を持つもので 主に野戰場に使用されるため此處では省略する。

又特殊爆彈中燒夷彈と毒瓦斯彈に關しては防火及防毒の項に後述することゝし 此處では破壞用爆彈に就いて略述して見たいと考へる。

イ、破壞爆彈の種類

(1) 地 雷 爆 彈

一般に都市の空襲用として選ばれるもので非常に多量の火藥が充塡されてゐて其の爆發の力に依つて破壞せんとするものである。普通都市空襲に用ひられる爆彈の重量は 50瓲より300瓲位のものである。

(2) 破 甲 爆 彈

主として敵陣地及特殊掩護物の爆破に用ひられるが時に都市空襲の際特殊目的に用ひられることもある。目的物を突拔いて破壞せんとするものであるから、火藥の量は比較的少量であるが彈體特に頭部を强厚にしてある。普通に用ひられる爆彈の重量は 200瓲乃至 300瓲位のもので時に 500瓲以上の大型のものも用ひられる。

ロ、破壞爆彈の威力

破壞爆彈の威力は非常に强力なものであつて投下される高度や重量の違ひにより一定しないが一般に次の様な諸作用をなすものである。

(1) 爆彈の近距離作用

イ、侵 徹 作　用……命中した物體を侵徹する作用

ロ、爆　壓　作　用……爆發のために生するガスの壓力で破壞する作用

ハ、崩壞物の作用……爆彈のために崩壞する崩壞物が地物を破壞する

ニ、放　火　作　用……爆彈が命中したとき附近に可燃物があれば燃燒する

(2) 爆彈の遠距離作用

イ、風　靡　作　用……爆發の際の空氣の壓縮衝動波で破壞する

ロ、地　震　作　用……爆發の震動で破壞する

ハ、破片の作用……爆彈の破片で破壞する

要するに吾國の住宅では木造、コンクリート造を問はず普通に空襲に使用される小型の破壞爆彈に對してすら殆んど抵抗力は無く其の安全を保し難い狀態であるから、せめて次ぎに述べる燒夷彈と毒瓦斯に對しての安全性が確保されねばならないのである。

ハ、破壞爆彈と住宅

耐彈建築として阻止法、制禦法、防彈壁法、安全隣法、避彈屋根法等、種々研究なされてゐるが之れを吾國の住宅に利用することは經濟上其他の點から直ちに望み得られないことが多い。故に殘念乍ら破壞爆彈に對しては住宅としては絕對安全と云ふことは斷念しなければならない現狀である。

2 防　　火

木造家屋が建築物の大部分を占めてゐる吾國の都市が空襲されたる場合の最大の缺陷は、燒夷彈其他のために惹起せしめられる火災に對し殆ど抵抗力を有たない事である。殊に密集せる木造住宅の如きは最も危險と云はねばならない。住宅の防火を考究する前に、先づ燒夷彈に關する大略の豫備智識が必要であらう。

イ、燒　夷　彈

(1) 普通の場合燒夷彈は 15糎（5寸）厚ノコンクリート造の屋根は侵徹しないが瓦葺、スレート葺又は亞鉛鍍鐵板（ナマコ板）葺きの木造の屋根は侵徹する。又普通の天井も貫通するが屋根裏の母屋や梁は侵徹しない。

(2) 屋根の勾配を急勾配にしても彈を跳飛させることは出來ない。

(3) 2000度乃至 3000度の高熱を 20秒乃至 30秒以内に發し、約 10分間燃燒を續ける。

(4) 消火方法としては、先づ落下した燒夷彈の周圍に水を注いで延燒を防ぎ、次ぎに燒夷彈自體に水又は砂をかけ又は水に濡らした莚や蒲團類を被覆して注水すればよい。此の時燒夷彈が完全に消火する迄注水せねばならない。燒夷彈に直接水を注いでも危險ではない。

ロ、住宅と燒夷彈

鐵筋コンクリート造住宅ならば、その屋根で燒夷彈を防止することが出來、且つ附近から延燒する危險も少いが、木造住宅の場合には最も危險である。先づ燒夷彈が家の附近に落下した場合に延燒を防止するために家の外壁は成るべく大壁の耐火又は準耐火構造でなければならない。又庭などに池や砂場を造つて平時は遊び場とし有事の際に防火に役立しめるのも一案である。燒夷彈が住宅に命中した場合には先に述べた様に木造屋根では之れを防止することが出來ないから天井を強いものを用ひず、寧ろ直ちに燒け抜ける弱いもの（例へば日本間の竿縁天井の様なもの）とし

屋根裏や押入又は家の周圍等監視に不便な箇所で知らぬ中に發火延燒することの無い樣注意し燒夷彈は床の上で消火するのが最良の方法である。注意すべきは燒夷彈は非常に强い光を發して發火するから恐れ狼狽して防火に努めずに逃げ去ることが最も危險と云はねばならない。過信する程危險なものではないから、落着いて充分消火に努めねばならない。

3 防　　毒

都市の空襲に際して毒瓦斯を撒布するには航空機から毒瓦斯を雨下する方法と毒瓦斯彈を投下する方法との二方法が普通行はれる。

毒瓦斯は一般に空氣より重いため低い處所に流れ溜る性質があるから避難する時は必ず風上の高所に向つて行かなければならない。又降雪の日、降雨の日、强風の日、猛暑の日等は毒瓦斯の効果が少いと云はれてゐる。

イ、毒瓦斯の種類及性狀

區分	生理作用	主なる毒瓦斯	工業品(常溫) 形態	工業品(常溫) 色	毒瓦斯發生時 形態	毒瓦斯發生時 色	毒瓦斯發生時 臭氣	除毒劑
窒息性	呼吸器系統を侵し、主として肺水腫を起し窒息致死せしむ	鹽素	氣體	黃色	瓦斯狀	黃色又は白色	刺戟臭	(酸素吸入) 次亞硫酸ソーダ液(10%)
		ホスゲン	氣體	無	瓦斯狀	無色又は白色	堆肥臭	
		ヂホスゲン	液體	淡黃	瓦斯狀	無色又は白色	堆肥臭	ウロトロピン液(2%)
クシヤミ性	鼻咽喉の粘膜を刺戟しクシヤミ咳嗽、嘔吐等を發せしむ	ヂフエニルクロルアルシン	固體	淡黑褐	微粒子	白色	殆無	苛性ソーダ液(5%)
		ヂフエニルシアンアルシン	固體	褐	微粒子	白色	苦扁桃油臭	重炭酸ソーダ液(5%)
		アダムサイト	固體	黃綠	微粒子	黃色又は白色	無	
中毒性	中樞神經及血液に作用中毒致死せしむ	靑酸	液體	無	瓦斯狀	無色	苦扁桃油臭	ウロトロピン液(2%) カメレオン液(0.1%) 苛性ソーダ液(2%)
		一酸化炭素	氣體	無	瓦斯狀	無色	無	
催涙性	眼の粘膜を刺戟して催涙せしめ一時視力を障碍せしむ	クロルアセトフエノン	固體	黃褐	微粒子及瓦斯	無色又は白色	芳香性刺戟臭	次亞硫酸ソーダ液(5%)
		クロルピクリン	液體	淡黃	瓦斯狀	無色	刺戟臭	
		ブロムベンジル	液體	黃褐	瓦斯狀	無色又は白色	芳香性刺戟臭	
		ブロムシヤンベンジル	固體	黃褐	微粒子及瓦斯	無色又は白色	芳香性刺戟臭	
糜爛性	皮膚を發疱糜爛せしめ其蒸氣は皮膚の外眼、呼吸器等をも侵し吸收毒の爲致死せしむ	イペリツト	液體	褐	液狀及瓦斯狀	液は褐色 瓦斯は無色	芥子油臭	苛性ソーダ液(2%) 晒粉泥
		ルイサイト	液體	淡黃褐	液狀及瓦斯狀	液は黃褐色 瓦斯は無色	天竺葵臭	除毒粉

ロ、防毒の二大別

防毒を大別すると次の通りである。

(1) 人畜命防護　イ、各個防護
　　ロ、集團防護
(2) 物料防護

(1) 各個防護

防毒面や防毒衣、靴、手袋、帽子等を着用して各個人毎に防護する方法で最も確實な防毒方法であるが經費が相當多額を要するのと老人、子供や病弱者には不適當であるため國民の全般に

實行することは不可能である。故に主として活動する防空勤務員即ち軍隊、警察官、消防夫、防護團員及び家庭では主人、主婦其他防護に從事する人々が採るべき方法である。

防毒面や衣具類は其の有効性に限度があり又確實な品物を迅速確實に着用する訓練が必要である。防毒に使用した後には完全に消毒すべきは勿論である。

(2) 集團防護

防護室を設けて多數の人々を集團的に防護する方法で各個防護に比し確實性は稍劣るけれども經濟的であり、又平時には物置き其他の用途に使用出來る。防護室に就いては後に詳述するが大規模な公共用防護室から小規模な家庭用防護室及防毒蚊帳に至るまで種々の程度のものがある。各個防護に不適當な老幼、病弱者等を防護し、又防空勤務者の活動の根據ともなる。

Ⅲ 防護室の計畫

住宅の防護室を設けるにあたり、其の有効性に就いては勿論、使用上の便、不便及平時に於ける利用價値をも充分研究し、實際工事經驗者とも相談の上、經濟上の條件の許す範圍に於いて最も有効な計畫をなすべきである。

此處に防護室の計畫上一般的に共通な諸條件を述べる。

防護室の位置環境は成るべく、其の地方に於ける最多風向の風下方面の通風の良い箇所にて且隣家等よりの延燒の危險が少く、又破壞爆彈や燒夷彈、毒瓦斯等の危害を受けること少い場所を選ぶべきである。即ち中庭等に設ける事は避けるべきである。鐵筋コンクリート造ならば地下室が最も良く、木造ならば浴室又は成るべく家の中央にある大壁の部屋（所謂洋室）が良い。

大きさは三時間收容するものとして一人當り三立方米の容積と〇・六平方米の面積とが必要である。

間取りとしては、本家地下室より直接防護室に避難出來るのが理想的であつて、鐵筋コンクリート造の倉庫の地下室等を利用するのが一般的であらう。

防護室は之れを二分して前室と收容室とする。避難者は先づ前室を通過して、此處で消毒又は治療等をなし、且毒瓦斯が外部より直接收容室に流入することを防ぐ。前室を通過した避難者は次ぎに收容室に入り此處で事務を執り休養する。

尙、普通出入口から成るべく距つた位置に非常口を設け、又便所の設備も必要である。

Ⅴ 防護室の備品及用具類

收容人員、防護室の規模構造及經濟上の條件を考慮し、成るべく必要性の大なるものより具備すべきである。備品はすべて良く整頓し、混雜時、暗所にても直ちに利用出來る準備が必要である。又引火性、爆發性、有毒性の危險物は一まとめにして防護する。

附　　備　　品

テーブル、腰掛、ラヂオ、時計（成るべく夜光）、電燈、電話又は電鈴、懐中電燈、ロ

ーソク及手燭、マツチ、水道、用水貯藏壺、洗面手洗器、便器、毛布、密閉出來る有蓋の容器、食器、飲料水容器、閃光除ケ不燃性眼鏡、ゴム手袋、タオル、土砂、水、石鹸、洗濯盥、貯水槽、黒布、白木綿、粘土、パテ又はメリケン粉、ゴム、布、紐、ラシヤ、フエルト等の密閉用品、消火器、密閉出來る毒物棄捨て鑵、高下駄、シヤベル、娯樂具（積極的運動を要せざる）簡單な酸素發生器、電熱、蓄電池、風方向指示器、溫度計、濕度計、水中眼鏡。

消毒用藥用品、救急材料

晒粉——眼に入ると危險なため水中眼鏡又は不燃眼鏡をかけて撒布す。晒クリーム……消毒膏……四分以內にすり込んで消毒する。次亞硫酸ソーダ液（5%）（10%）ウロトロピン液（2%）カメレオン液（0.1%）苛性ソーダ液（2%）炭酸ソーダ液（5%）除毒粉

ガーゼ、白布、タオル、脫脂綿、密閉ゴミ捨て鑵、擔架、豫備服類、患者用マスク、中和藥噴霧器、石灰用シヤベル。

防　　毒　　具

防毒マスク（隔離式と直結式とがある）、衣、帽、靴、手袋。

應急修理用材料用品

鋏、古新聞、厚紙、糊、テープ、木片、釘、金鎚、錐、捻廻し、鋸、シヤベル、土嚢等

Ⅵ　鐵筋コンクリート造防護室

充分建築豫算のある住宅、即ち全建築鐵筋コンクリート造及中級以上の木造住宅には必ず鐵筋コンクリート造防護室を設けるべきである。又中級以下の木造住宅にも少くとも數戶に一箇の鐵筋コンクリート造の防護室は必要と考へる。鐵筋コンクリート造防護室、殊に地下防護室は或程度破壞爆彈に依る被害を防止し得ると同時に充分耐燒夷彈、毒瓦斯彈的である。

1　位置、環境（第1圖、第2圖）

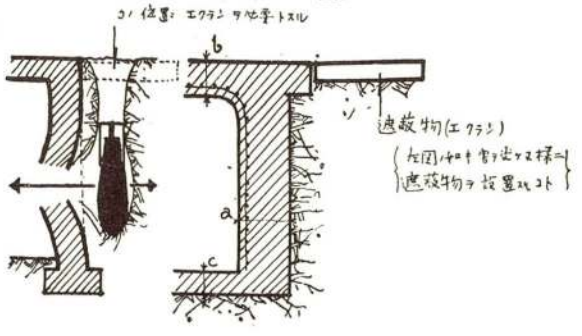
（1）成るべく破壞爆彈、燒夷彈、瓦斯彈其他に對し被害を受けることの少い所。例へば地下室が最もよい。

（2）成るべく毒瓦斯が速く逸散する所、即ち通風の良い所、附近に毒瓦斯が永い間滯溜しない場所がよい。

（3）成るべく建物に對し、地方風方向の風下方面の箇所が良い。

（4）附近の家からの延燒の危

（第　1　圖）

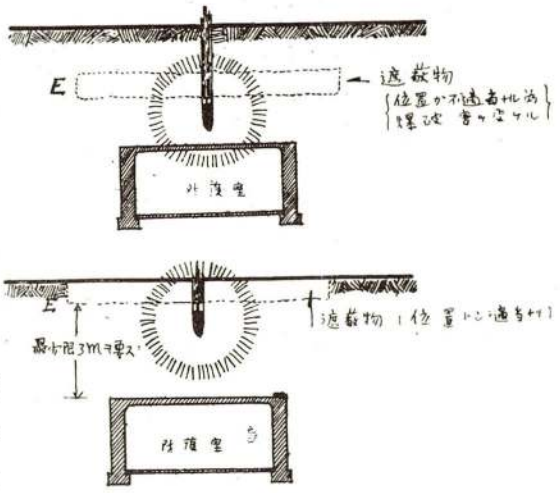


險が少い所。

（5）成るべく短時間に避難出來る所。

（6）成るべく避難する經路が簡單で混雜時や夜間でも容易に避難出來る所が良い。

（7）上の階に成るべく重いもののない所が良い。



第 2 圖

2 大さ（面積、容積）

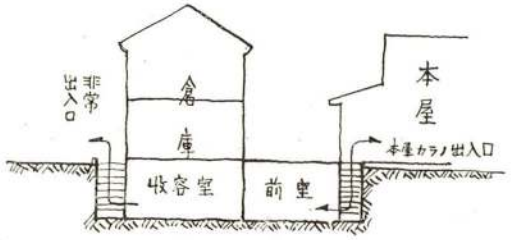
（1）三時間收容する場合を標準として一人當り三立方米の空氣量が必要である。人工換氣裝置の完備せる場合には一人當り一立方米でよい。

（2）一人當り〇・六平方米の面積が必要である。

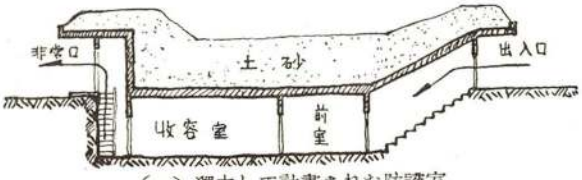
（3）大體、普通の室で疊一帖當り一人で七時間の空氣量があるから疊一帖約二人と見做してよい。

（4）室の容積が不足なときは人工換氣を考へねばならないが相當な經費が必要である。（第3圖）

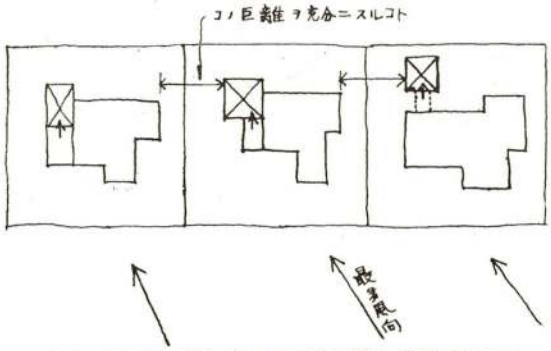
（5）人間が棲息可能な限界の空氣は、炭酸瓦斯のためにマツチが點火し難くなり、假令點火しても容易に消える。蠟燭も亦同樣である。



（イ）本屋から離れた倉庫の地下室に計畫された防護室



（ロ）獨立して計畫された防護室



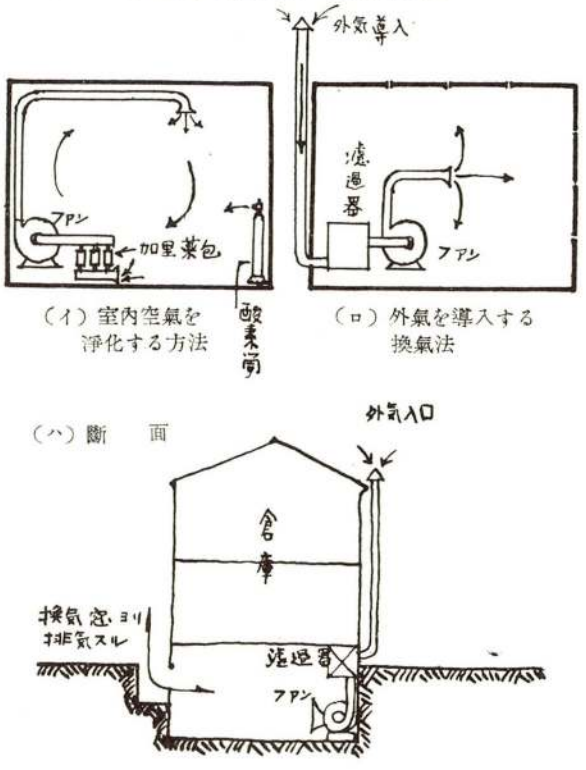
（ハ）其地方に最も多い風の向に對して風下の方に防護室をとる

3 前　　室

防護室は、主に家族を收容する收容室と、之れに入るまでに一つ以上の室、前室を通つて避難する樣にする。即ち收容室と前室との二室が必要である。この前室は絶

對に必要であつて、止むを得ないときは、廊下の一部分などを利用する場合もある。前室は避難者の消毒や應急救護をなし、毒瓦斯が收容室へ侵入するを防ぐ。前室の廣さは三乃至五平方米、長さは二米、若し擔架を用ひるときは三、五米必要である。尙前室への入口と、前室と收容室との間の入口とを同時に開放してはならない。其他前室には外部及收容室との連絡用電鈴を取付け、更衣所（出來なければ屏風、衝立でもよろしい）及び水道の斷水を豫想して水槽を設け、シヤワー、洗面手洗所（出來なければ盥又は洗面器でもよい）。物入（更衣や消毒、治療藥品類及び補修用器具類を格納する）机、椅子等が必要である。

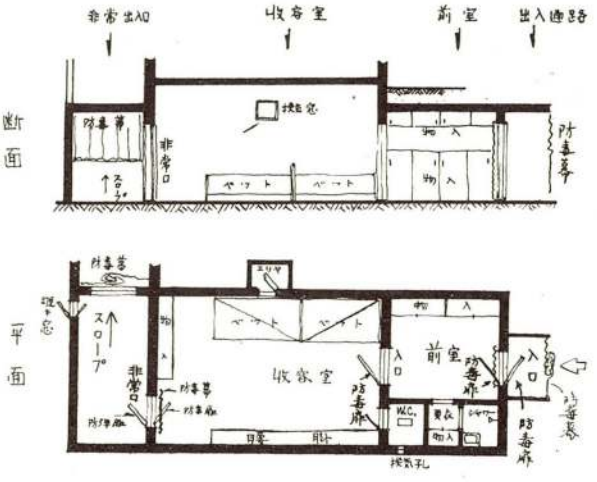
第３圖　防護室内の換氣法を示す



4　收容室（第4圖）空襲中、避難者は收容室に收容されて家庭の仕事を續行し又は休息する。又室外で防空に勤務する者の活動の根據點ともなる。

收容室の收容人員には或程度の餘裕を見て、其れに必要なだけの容積、面積があり、休息設備や貯水槽、飲食料品等設備される。

第４圖（イ）倉庫の地下室を利用せる防護室の例



室の形は成るべく長方形としその兩端側に出入口と非常口とを設ける。尙出入口や非常口は出來ればスロープにした方が良く、出來なければ非常口は鐵梯子で垂直に室外に出ることもある。其他に、寢臺や、机、椅子類及び便所（出來なければ置便器）が必要である。

此處に注意すべきは、換氣及

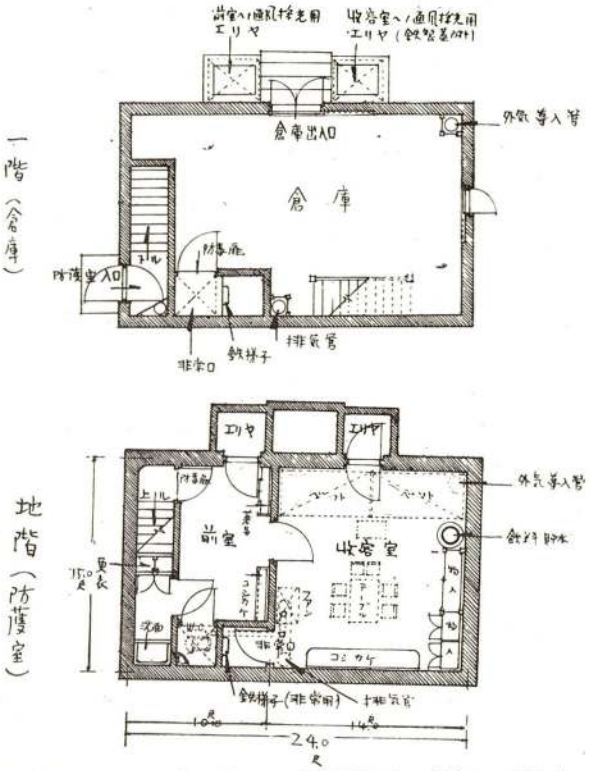
防濕の點であつて、殊に多人數を收容し、平素物置き等に使用する場合は相當の考慮が拂はれなければならない。即ち、小窓は成るべく室の兩側に設けて通風に便にし、出來れば燈火管制中でも、開き得る換氣窓が欲しい。

又收容人員に對し室の容積が不足な場合には、毒瓦斯炉過機を取附けた換氣裝置が必要である。

5　屋根（天井）壁、床

防護室の屋根（天井）は、上層コンクリート床版がある場合（例へば二階建以上の倉庫の地下室等）は床版のコンクリートの厚さの合計が40糎乃至65糎以上あればよい。防護室の屋根が最上層なるときは耐彈的には厚さ30糎乃至40糎又耐燒夷彈的には厚さ15糎あれば良い。又天井床版の配筋には下部にも補助筋 6—9φ 又はラスを入れて破片の落下を防ぐ。

第4圖（ロ）設計例（鐵筋コンクリート造）



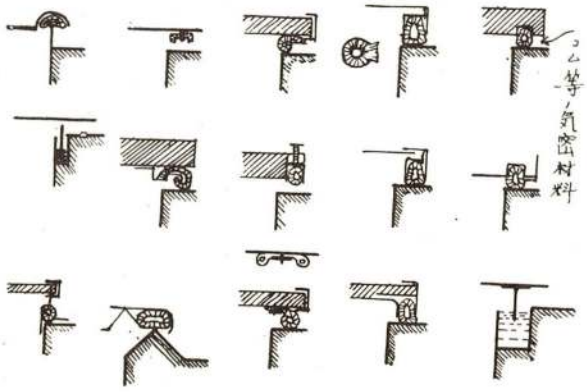
壁は30—40糎の厚さがあれば爆彈の遠距離作用に對し安全である。

床はコンクリート床版モルタル仕上げ、又は轉根太板張り又はタヽミ敷きがよい。

木造床のときは床下の換氣孔を閉塞し、且つ床板上に數層の紙、防水布、リノリウム等を敷き氣密にする必要がある。又特に閾の下を氣密にすべきである。一般に水洗に便利な方が良い。

天井、壁、床共に仕上材料は

第5圖（イ）開き戸の氣密法



（ロ）引違ひ戸の氣密法



水洗に便利で、且毒物の吸收透過が少いものがよい。

第5圖（ハ）



6 窓（第5圖）

耐爆彈、耐燒夷彈、耐瓦斯彈的ならしむるために外部には片外開の鐵扉(倉庫用のもの)を取付け、内部には内開きの金網入厚板ガラス入りの障子を設ける。ガラスの兩面にはセロハン又は紙を貼り一部分をのぞき小窓とする。

空襲時は密閉して防毒し、空襲去らば開放して換氣する。

燈火管制用遮光設備を完備すべきは勿論である。

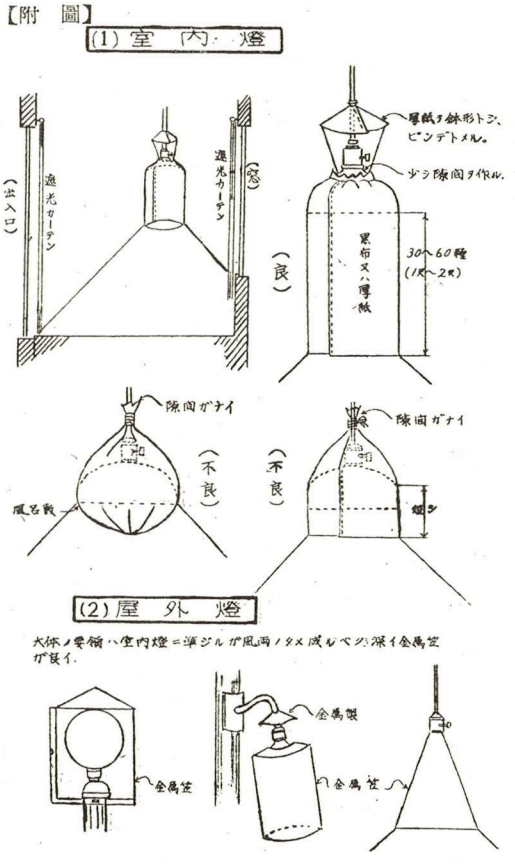
註

燈 火 管 制（附圖參照）

機上から大都市を望瞰するとき天候にも依るが百粁乃至二百粁の遠方からでも都市の燈火が認知出來ると云ふ。從つて夜間襲來する敵機に爆撃の目標を與へないためには完全な燈火管制が必要であり且つ最も有効な方法であると云はれてゐる。

此處に注意すべき事は燈火管制は相當長期間に亘つて實施されるものと考へられるから「燈火管制中は早寢する。」と云ふのでは日常生活を持續して行かれない。特に空襲を受ける様な非常時には殊更生業に精勤しなければならないのであるからよく燈火管制の眞の目的を知り細心の注意を拂つて燈火管制の完璧を期せねばならない。

【附 圖】



（イ） 燈火管制の種類

(1) 警戒管制

警戒警報中の夜間に實施せられる燈火管制であつて日常の民衆生活に必要な燈火や生産、交通等の火は支障の生じない程度に制限される。又日常生活に直接必要のない廣告燈などは全部消燈されるのである。

住宅等では管制用の電球を用ひ直接上空に光を投射せしめない様にする。但し窓カーテン類は開けておいてもよい

(2) 非常管制

空襲警報中の夜間に實施せられ、敵機に目標を與へない様燈火は全部消燈又は雨戸、鎧戸、カーテン等で隱蔽され

なければならない。門燈や外燈は消燈しなければならない。

（ロ） 燈火を隱蔽する實際方法及注意

（1） 室　内　燈

金屬笠のものはよいが普通の硝子笠を用ひるときは、黒布又は厚紙等を以て覆ひをする。覆ひの深さは 30糎乃至 60糎（ 1尺乃至 2尺）とし黒色布は厚地の木綿布を用ひ30ワット以下の電球ならば1枚、それ以上ならば 2枚重ねが標準である。又電燈は成るべく低い位置に下し必要以上の明るさの電球は使用せぬ様にし且つ投光面積を制限するために覆ひの裾を絞る様にすれば便利である。注意すべきは覆ひの上部を電線に固く締めることは熱のため發火する危險があるから不可である。又風呂敷や新聞紙等の遮光性の不充分な覆ひも勿論不可である。

（2） 屋　外　燈

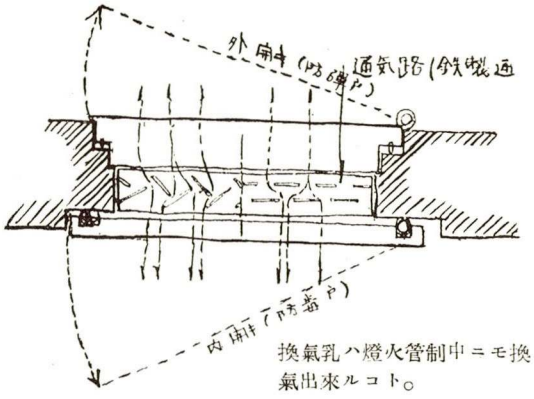
新設する場合には種々の工夫が施されるが成るべく金屬笠を用ひ、應急的に覆ひをする場合には室内燈の覆ひに準じて作る。

（3） 遮光カーテン又は紙類

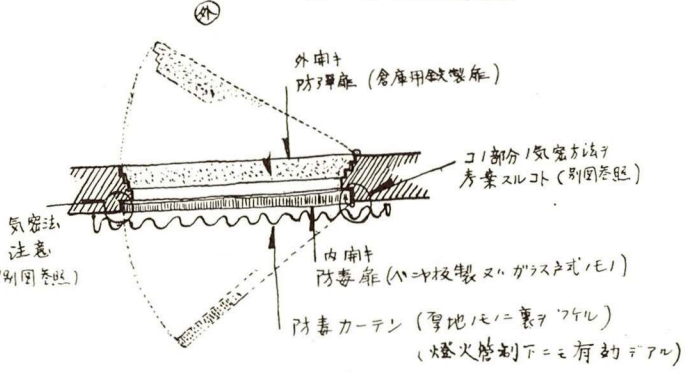
遮光カーテン、紙類は充分遮光性のあるものを用ひるべきは勿論であつて鎧戸や雨戸を締切るのも有効な方法である。

遮光カーテンは厚地黒木綿二重のものがよいが注意しなければならない事は、カーテンと壁との隙間から光が漏れることが非常に多いからピン又は其他の方法を用ひて隙間をなくすることが肝要である。又鎧戸や雨戸もその間隙から漏る光に注意すべきである。

第6圖　換氣孔



第７圖（イ）出入口詳細圖



7 換 氣 孔（第6圖）

遮光換氣孔を設け燈火管制中も絶えず換氣する。又室内側に密閉し得る開戸を付け、空襲下の防毒に備へる。

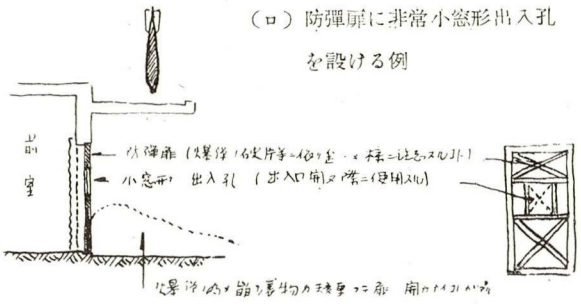
8 出入口（第7圖）

防護室への出入口は片外開きの防彈扉と片内開きの氣密扉とを設け地階の倉庫に隣接する地下室、又は倉前等を前室とし、之れを通じて屋内より直接（屋

外へ出ないで）避難出來る様にする。但し獨立倉庫等を利用せる場合は止むを得ない。

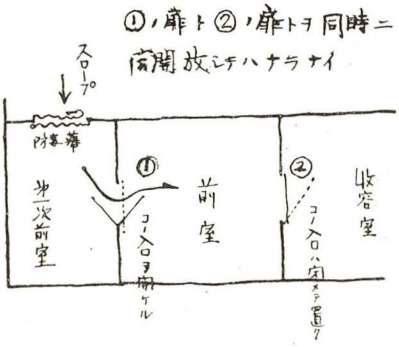
普通出入口の成るべく距つた個所で且つ直接外界に出られる非常口が必要である。扉は外開きとす。非常口は鐵梯子にて垂直に室外に出ることもある。

（ロ）防彈扉に非常小窓形出入孔を設ける例



普通及非常出入口に到る經路は簡單にして成るべくスロープを利用し且擔架が通り得られる様考慮を拂ふこと。

（ハ）扉開閉の順序



扉はすべて耐彈、耐火、耐毒瓦斯の開扉とし、破片崩壞物等に依り開閉不能にならぬ様注意を要す。即ち密閉出來る鐵扉が最も良いが、爆彈の破片で歪み、又崩壞物のため開閉不能になることがある。

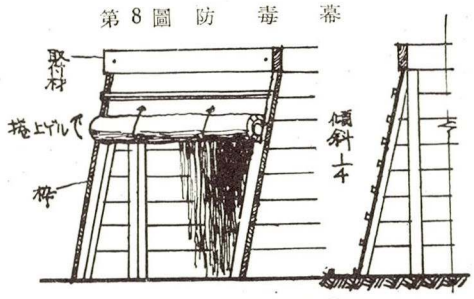
燈火管制用の設備を完備すべきは窓の場合と同様である。

第8圖 防 毒 幕

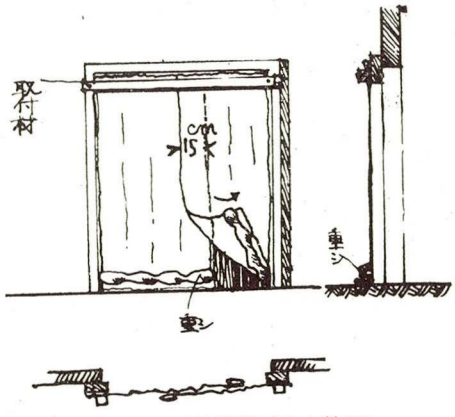
9 防 毒 幕（第8圖）

防護室の出入口扉と併用して防毒の効果をより完全ならしめる。

布地質は密なるゴム織布、亞麻仁油とパラフインの混合物又は消毒藥、水等を浸ませた毛布、布類等を用ひて作る。



（1）排開式防毒幕（多人數用）



（2）捲上式防毒幕（小人數用）

(1) 排 開 式

イ、多人數用

ロ、操作簡單

ハ、兩開きとし15糎(5寸) 以上を重ねる

ニ、幕の裾に重りをつけて、自然に閉塞出來る様にする。

(2) 卷 上 式

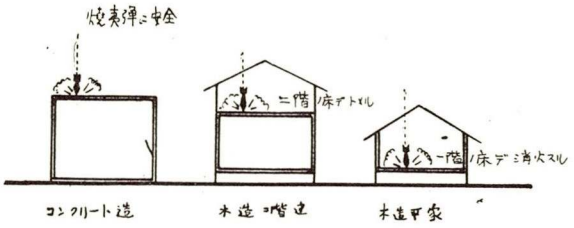
イ、小人數用

ロ、操作複雜なるも完全

ハ、枠を傾斜させて上部及兩側を通路壁に固定し布は長さを枠より幾分長くし

布端を貫などで止める、又巻き易い様に木桟を附ける。

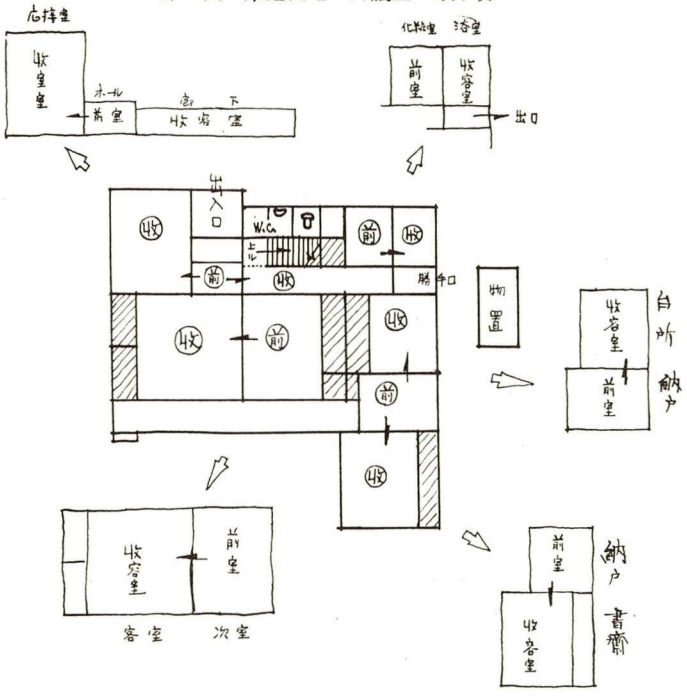
第9圖　燒夷彈と防護室



Ⅶ　木造防護室

經濟的に鐵筋コンクリート造防護室を設け得られない場合には止むを得ず木造防護室を設ける。木造防護室は破壞爆彈に依る被害は殆んど防止することが出來す、燒夷彈に對して或程度の安全性が得られるに止まる。但し毒瓦斯に對しては充分安全であるべきである。又燒夷彈は防護室の上階の床で防止して消火し、若し上階なき場合には防護室の床で消火する。即ち燒夷彈は屋根裏等の發見、消火に困難な場所で發火せしめない様に考慮すべきである。（第9圖）

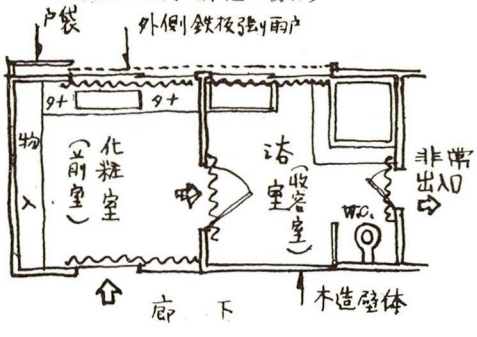
第10圖　木造住宅の防護室の取り方



1　位　置、環　境

（第10圖）構造上、設備上の諸點より考へて、相當の廣さの空地を有する外界に面せる浴室が最も便利と考へられる。（第11圖）脫衣室よりの入口と、直接外部に出られる外開きの潜り戸の出入口の非常口とが欲しい。其他の室を選ぶ場合には成るべく大壁の室を之にあてる。

第 11 圖
浴室（收容室）と化粧室（前室）を防護に設計せる例（木造の場合）

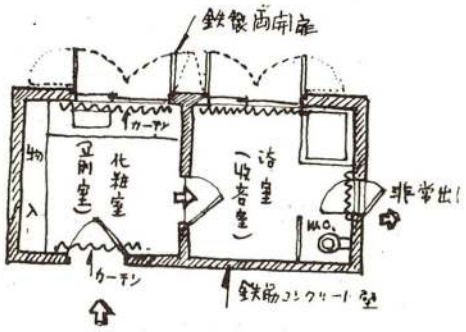


2　室　の　大　さ

一人當り 3 立方米の空氣が必要として、假りに天井高 2.5米、床面積 6平方米（約3帖大）とすれば家族五人を三時間收容する能力を有する。從つて設計に當り、家族人數に應じ少し餘裕のある浴室を作れば普通

の場合充分である。若し上述の大きさの浴室を、造り得ない場合には應接室等の洋室（大壁の室）を之れにあてる。

（ロ）鐵筋コンクリート造の場合



3 前　　室

浴室を防護室に利用するときは化粧、脱衣室が前室に利用出來るだらう。その節化粧品棚等は消毒藥品棚に應用出來る、其他は鐵筋コンクリート造防護室の場合に準ず。

4 收　容　室

浴室は水道の便があり且床面は水洗に便利である。又壁天井共大壁で且つ氣密性であり水洗に便利である。

其他の室を利用する場合は特に大壁の室にて天井は漆喰、又はモルタル仕上がよく化粧梁、格天井、テツクス、モリノイド類貼り、網代、竿緣天井は氣密ならざるため成るべく避けるべきである。

壁は內外共にモルタル又は漆喰塗り等氣密なる大壁とし出來れば水洗に便にする。パネル壁等は氣密ならざる故目張りを要する。

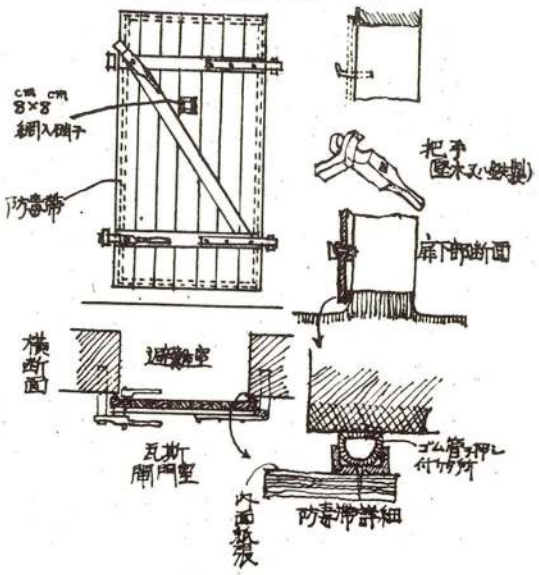
床は成るべくならば盛土の上をコンクリート打ち轉根太板張りがよく、木造束立ての床の場合、タヽミ敷きの場合其他はコンクリート造の場合に述べたる如し。

5 構　　造

基礎、軸部は爆彈の遠距離作用に成るべく耐え得る様、充分の大きさと適當なる鐵物に依る補强と相伴つて堅固に構築すべきである。

浴室を利用する場合には成るべく窓下迄コンクリートを打ち上げる事、是れは破片を防ぎ、氣密性を增し、軸部の腐朽を防ぐに有効である。

第12圖　木造入口扉の一例



6 出入口、窓、換氣孔等（第12圖）

一般に鐵筋コンクリート造防護室の場合に準するが、木造防護室の出入口窓換氣孔等は燈火管制時の遮光と防毒の完全とを主目的とすべきものであつて、防彈を主目的となし、必要以上に頑丈鐵扉などを取付けることは、防護室の主體構造との釣合上無意義なことがある。故に出入口、窓、換氣孔の建

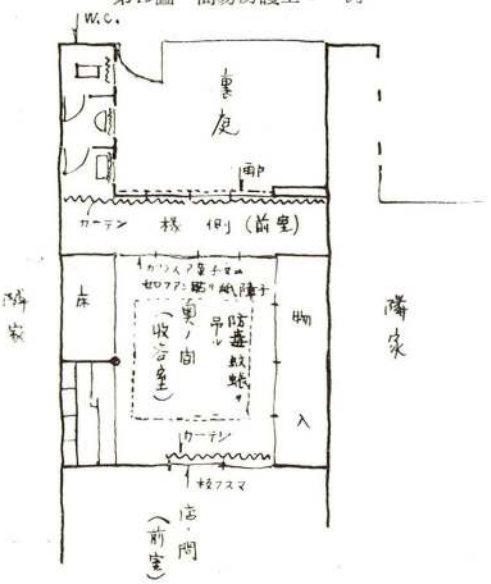
具は隙間や、面積の大きなガラス面のあるものは不可であつて、建込みについても氣密性を保たしめることが大切である。即ち引違戸や上げ下げ障子は嚴重な目張り以外に防毒施工は殆んど不可能であるから、建具は必ず片開き又は兩開きとなすべきである。

Ⅷ　簡易防護室（主として借家建築程度の和室防護室）

此の場合は既に建築せられたるものの改造、或は不完全箇所の應急處置の範圍を出でないもので、元來かゝる建物に於いて完全な防護室を求むることは期し難い所である

又、居住者の經濟的負擔力等を考慮すれば、到底滿足なる結果は望み難い。依つて數戸に一個所の共同防護室を持つか或は最も簡易な防毒蚊帳を吊るか又は最寄りの防護室に避難するかゝ捷徑であるかも知れない。然し乍ら次に述ぶる程度の防護處置は各家庭に於いて眞面目に考究されるべきである。

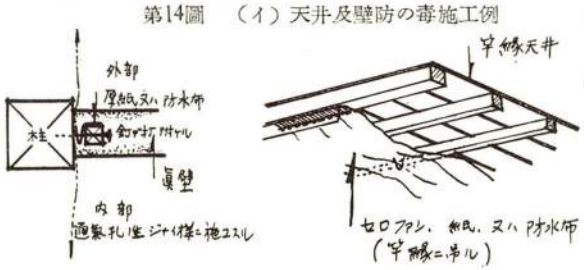
第13圖　簡易防護室の一例



1　位置、環境（第13圖）

彈片、破片の被害を少くするために鋪裝道路に面せざる階下がよい。一般借家の間取上、奥の間が適當で椽側があれば雨戸を閉め、是れに連る便所と椽側部分とを前室の如く取扱ふ

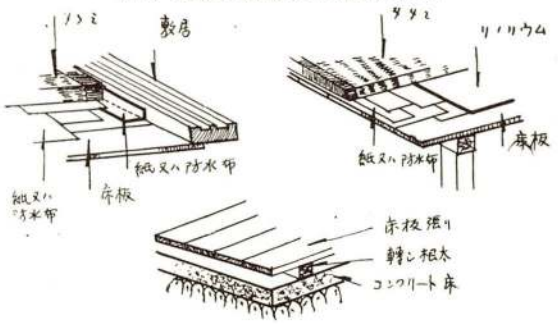
第14圖　（イ）天井及壁防の毒施工例



2　天井、壁、床（第14圖）

眞壁の場合、柱に四分一を打ち壁ちりをなくし、細い間隙は目貼りする。この場合注意すべきは、砂壁は目貼りに困難である。竿縁天井は間隙を目張りするか、又はセロハン防水布等を竿縁の下部に水平に吊し、四圍を廻緣に目貼りして防毒天井幕とするもの一案である。其他研究の餘地多し。床は疊下に防水布又は建築用フエルト紙又は强

（ロ）疊敷キ木造床の防毒法施工例



い紙類を數層に敷き込む。之れは氣密ならしむるためであるが、平時冬季の隙間風を防ぎ夏季の防虫にも役立つ。又防毒蚊帳を吊るときは防毒敷布を用ふるのも良い。床下の換氣孔を閉塞するのは前述の通りである。

3 建　　具

雨戸は雪國で見らるる如く一部に硝子を嵌めて覗き窓、或ひは採光用とすれば良い。或ひは通氣用の無双戸を附けるも良い。椽側と座敷との間の障子は一枚のみを自由に動く様にし、他を一本の溝に建込み、目張り等で密閉する。

紙障子は消毒劑、氣密劑を塗布し、或はセロファン貼りとし氣密にする。尙硝子面は前述の如く紙又はセロファンを兩面より貼付して補強する。

4 其　　他

大きな間隙はボロを塡めたり、新聞紙を水に漬けたるパルプ等にて充塡し、その上を目貼りするがよい。備品として飮食料、其他を容れるため鐵板製の米櫃、石油鑵等を備へる必要がある。又目貼り材料は速かに使用出來る様手近に準備すべきである。

IX 防　毒　蚊　帳

防毒蚊帳は空襲を受けた場合に各家庭に於て家族を集團的に防護するため一番簡單な方法として用ひられるもので、空襲を受ける虞れがあるに至れば速かに防毒室に避難し、若しくは防毒蚊帳を吊ることが肝要である。此れは敵の空襲に際して皆が公共避難所へ避難するのは大變な混亂を惹起する許りでなく其の家に火災や盜難等の災害が發生した場合にも之を防止出來ないからである。

尙各家庭には少くも一箇以上の市民用防毒面を備付けて、假令毒瓦斯の襲來を受けても防毒面着用者が外に出て內外の連絡や火災、盜難の防止に努力すべきは既に述べた通りである。

防毒蚊帳の大きさは之に家族全員が避難出來て尙多少の餘裕がある位が良く、これを吊る位置は家屋の構造其他を考慮して避難するに便利な家屋の中央に近い一室を選定するのが良い。

防毒蚊帳を吊つた時は書籍、座蒲團等適宜の物で其の下部を押へ隙間が出來ない様にしなければならない。又、防毒敷布を敷くことも簡便であらう。尙、防毒蚊帳の透明の窓は外の様子を見るためで避難者の不安を減ずるために設けられてある。

毒瓦斯の來襲に際しては假令防毒室若しくは防毒蚊帳があつても成るべく雨戸、障子、襖等を閉めるべきである。防毒蚊帳內の棲息可能時間は一帖吊一人當り三時間半であつて價格は次の通りである。但しセロファン製防毒蚊帳は稍破損し易い恨みがある。

（防毒蚊帳の棲息可能時間及價格表）					
大　キ　サ	收容人員	セロフアン製價格	特殊紙製價格	棲息可能時間	セロフアン敷布
10　疊　吊	10　人	円 15.00	円 11.50	3.5時間	円 5.00
8　〃　〃	8　〃	11.00	10.00	〃	4.00
6　〃　〃	6　〃	9.00	8.40	〃	3.00
4.5　〃　〃	4　〃	7.50	6.50	〃	2.25

X　結　　語

以上を要するに「備へあれば患へはなく」「百の後悔より一の用意」である。空襲に際し悠々防空に當り得るだけの家庭防護の完璧を期したいものである。

百貨店に對するスプリンクラーと自働火災警報裝置

永野貞次

內務省令第31號に依り百貨店の內1萬平方米以上床面積を有するものに對し適當にスプリンクラーを設備せしむることゝなつた。勿論適當との意味に於ても又實狀よりして現在では最も危險なる場所を除き自動警報裝置に消火栓を組合せ設備せしむることゝなつたと聞いてゐる。私は多年こうした高層建築或は劇場等就中百貨店に對する防火消火設備に携り特にスプリンクラーの精細なる調査研究を遂げ尙消防實戰に望み親しく體驗したる結果を綜合するに、現在我が國の諸種の狀況よりして今日直にスプリンクラーを强制設置せしむる事は聊か時期尙早の觀を有し、一部危險ケ所を除き全部自働警報裝置と消火栓を設置せしむる方を適當と考え所感の一端を述べることにした。

現在この方針の向も各府縣に次第に多くなつたと云ふことである。

（1） 果してスプリンクラー本來の性能を發揮し得るやを疑ふ

スプリンクラー其のものは已に數十年の歷史を有し歐米に於ては汎く實用に供せられ其の效果亦普ねく認められて居るが、之が爲めには其の製品から施工から運用から維持に到る迄一般製造家、施工者、火災保險業者、消防當局者を初め施主其のものに至るまで本品に關する根本的觀念が充實徹底して居ると同時に裝置の試險、管理等に對する社會的組織が完備して居つて裝置其のものゝ機能を發揮せしむるに適して居る事を忘れてはならない

然るに我國に於ては未だ官民一般に之裝置に關する根本觀念の認む可きもの少なく、適切なる何等の社會的國家的機構の備はるなく唯一つ火災保險協會に於て其の公認せる舶來品の一部に對し或種の試驗を行つて居る始末であるが、其の內容たるや疎漏不徹底全く不完全なる一形式以外の何ものでもない。如斯狀態下に於て本裝置の性能を發揮せしめんとするは甚だ困難な事で全舘スプリンクラーを裝置しながら全燒した例を見る事もある所以である。

（2） 水害の問題

乾式を用ふれば其弊害は省けるけれども次に述ぶる理由により矢張り濕式スプリンクラーが大部分を占める事と思ふ。然るに濕式裝置に於ては第一項に述べた如く裝置の性質並に工事の不備等に因り天井裡其他あちこち貫通して居るパイプから漏水する事は普通に考

へられる問題であり、事實上我國に於ける極めて少數なる裝置個所に付てすら漏水のため當事者の惱まさるゝ事少なからず、時に天井の落脫となりて顧容に危害を與へた例すらあり、此裝置は相當多額と費を投じた完全なる工事の樣に聞及ぶが若し現在の如き大した智識も經驗もなく又恐らく全然自覺なんかあるまいときへ考へられる大部分の業者間に於ける激烈なる競爭の結果安價なる裝置が出來上つたと假定せんか、其結果は到底前記の比ではあるまいと想像せらる。而も百貨店業者に於ては商賣の性質上漏水に因る被害は案外火災害に優る可なりの苦痛と聞及んで居る。其處で乾式スプリンクラーの問題となる。此式はバルブの構造に因て差働式と機械式との二つに分かれ普通に用ひられ且つ比較的正確と考へられるのは差働式であるが、之等のパイプの中には安全率を見た所で先づ三十乃至四十封度の氣壓を保たしめ火熱のため頭部が熔解すると同時に氣壓の降下によつて、バルブを開き給水栓を開口せしむるものであるから、平時はパイプ等から漏水する恐れは全くない。從つて百貨店等には適して居る樣に考へられるが事實は次に述ぶる如き欠點があつて凍結の恐れある極寒の地等に於て局部的に利用せらるゝ外、米國に於ても一般に可成之を用ひぬ方針であるらしい。

（イ） 施工上の困難

試驗又は噴水後パイプ中の水を原位置即ち給水辨迄呼戻す必要があるためパイフ工事は凡て正確の傾斜を保たしめ、已むなき場合には特に水溜を設ける等の面倒を生じ且つバルブの設置個所も自から限定せらるゝ事となる。

（ロ） 維持上の困難が加重せられる

充分法意しても尙漏水の恐ある處へ、此式に於ては相手が空氣であるから其工事たるや相當困難なもので、經驗によれば如何に完全に施工してもある程度の空氣漏れは免れぬらしく、其爲め少く共一週一回以上氣壓の點檢を必要とし其際一定量（普通十封度）以上の漏洩があつたら直ちに再塡して置かぬと萬一の場合役に立たぬ事となる。而して此事たるや已に歐米に於てすら困難を感じて居る位であるから、我國の現狀では事實上滿足な結果を擧げ得るとは考へられない。

（ハ） 噴水に約 3倍の時間を要する

濕式に於ても 5、6分乃至 7、8分を要するのが例であるが、此式に於ては更に其作働に要する時間は延長せられるから已むを得ざる場合の外其實施は考へものである。

（ニ） 設備費一層嵩む

濕式に比して遙かに多額を要する事は前述の事情によりて自ら考へられる。

（3） 多額の設備費を要す

スプリンクラー其のものは假りに英米の規定に準じて材料を撰擇し工事を嚴重にし各種の保守裝置を完備せしむる時は非常なる設備費を要する筈である。加之我國に於て特に困

る事は百貨店の多くは、外觀の美を競ふ必要上パイピングの如き凡て露出工事を嫌ふため、自然天井を二重にしたりする場合多く其のために裝置其ものゝ外に建築自體に於て莫大なる不經濟を演ずる。之は今日各百貨店が同業者間の激烈な競爭の結果不要とさへ考へられる贅を極めた各種裝置の實施を余儀なくせられ、相當困つて居る矢先き更に其加重を見る事は當業者直接の苦痛は兎も角夫が巡て商品價格の昂騰の原因を作る事となつては甚だ遺憾である。

（4） 機能維持の困難

スプリンクラーは出火に際し自働的に噴水消火する裝置であるけれ共其ためには材料の撰擇、設計の正確、工事の親切、等と共に維持の徹底が必要條件である。一般に此裝置の事故に付て注意す可きものは

1、 設計の正確
2、 ヘツドパイプ、其他機器各部の腐蝕
3、 水の供給と其壓力の正確と保持
4、 各種バルブの働作正確
5、 凍結に對する處置

等であるが以上述べた現狀に於て果して正確が期しられるだろうが、殊に頭部、パイプ部及機械各部の腐蝕は豫防的考慮を多分に要する點であるが果して各業者は夫等の點充分なる確信と準備ありや。又何人が夫等の監理をして居るか。假りに施主に於て自發的に保守する事は理想であるが事實は中々困難であろうし、而も頭部の如き事實上試驗の方法がないに至つては大に考へさせられる。若し百貨店當事者が命令なるが故に已むなく裝置すると云ふ一片の形式に了つては切角發布せられた法の趣旨に添ふ所以でないと思ふ。

以上の理由により假令スプリンクラーを强制設備せしむるとしても之に伴ふ各種の必要事項を欠いて居つては所期の目的に合せざる場合不勘やに考へられ、設價費其他の犧牲が多い丈け夫れ丈之が强制に付ては尙研究して見度いと思ふ次第である。

自働火災警報裝置

此裝置に付て當縣の觀る所は大體次の通りである

（イ） 本裝置と完備した消火栓裝置との組合せにより恐らくスプリンクラーと同樣或は夫れ以上の好結果を擧げ得ると思ふ。尤も之がためには整然たる警備組織を必要とし且平素の訓練が大切である。

我國で自働火災警報裝置の實施せられたのも最早十數年前以來の事で、其有効有要なる事は當然管內百貨店の火災に際しても立證された體驗あり此點疑ふ餘地もないと思ふ。只之もスプリンクラーと同樣其製品、工事は無論施工後に於ける運用維持に付て充分の準備ある事を絕對必要條件とする。

（ロ） 設備費に多額を要しない

此裝置はスプリンクラーに比し非常に廉價であるため百貨店としても之を設備するに大した苦痛はあるまいと思ふ。

(ハ) 維持容易

此裝置は式によりては既設たると新設たるに拘らず建物自體に何等損傷を與ふる事なく極めて容易に工事が出來るのみならず、施工後の維持試驗は裝置の全部に亘つて容易に且つ存分に來出るから機能上の信賴が得られる。

以上の理由により各府縣に於ては床面積合計1萬平方米を超ゆる百貨店の全館に對し、自働火災警報裝置設備をなさしめ特に危險と思はれる個所に濕式スプリンクラーを裝置せしむると同時に、床面積1萬平方米以下の百貨店にありても正に同一であると思ふ。

大工徒弟問題並に資格檢定制に關する座談會

大工組合側

岸本信治（大阪府大工建築業組合聯合會副會長）
上田辰造（同　副會長）
吉田彌三郎（同　理事・朝日橋）
佐野定治（同　理事・天滿）
長谷川九平（同　理事・網島）
八木圓次郎（同　理事・曾根崎）
古谷寅市（朝日橋組合事務擔當者）
沖平吉（築港組合事務擔當者）
長谷川角次郎（今宮組合事務擔當者）
藤本欣三（大工組合聯合會書記）

協會側

井上福藏（會長代理・常務主記）
永澤毅一（敎化委員會委員長）
篠原太郎（同　幹事）
鈴木忠五郎（同　委員）
坂本啓一（同　委員）
中澤誠一郎（會　員）
横田道夫（同　）
本多正道（同　）
久保田種吉（同　）
左谷陽光（同　）
矢野藤一（同　）
小川陽吉（同　）
松久保敬三（同　）
道田泰治郎（同　）
秋田喜代治（同　）
高津壯太郎（特別賛助員）

（次第不同敬稱略）

井上主記會長代理として開會の挨拶あり次て永澤敎化委員長司會の下に座談會を開く。

永澤——大工徒弟の養成に關する事は既に過去に於いて議題に上り一部は雜誌に發表もされてもゐるが、徒弟養成の問題は緊急の事で、幸この問題を現實に經驗されてゐる方々を御迎へして御意見を聞き徒弟養成の問題を協力して、研究して此問題の解決に努めたいと存じまして座談會を開催する事になつたのであります。從つて今夕の座談會は決議や其他決定的なものを得るに非すして、各種の問題につき自紙的に御申出願ひたいのであります。先づ徒弟養成方法の改善如何と云ふ問題でありますが、これも現在は徒弟となる人の敎育や考へ方も昔と異り、又働く場面も木造のみでなく適用範圍も雜多であり、本人の素質、社會の要求、從つてその資格も見方により相違があるわけでありますから、各位白紙に立返へつて現代を認識して考慮の必要があると思ひます。

永澤——では最初に大工徒弟の本質、本領、即ち技術家そのものにつき總體的御意見を。

長谷川——此問題の成就が大工業者の生活の向上、技術進歩の重要點なりと考へて努力して來たので此問題で協會側と意見を交換する事は本懷であります。元來大工と云ふのは衣食住の中の一つを擔當するもので、昔は士農工商の順序から考へても特別階級にあつたのでありますが、現在では一般大工は昔よりも社會的地位が低下してゐますその原因は大工の敎育程度が低い爲に社會の進運に伴はぬ樣になつたのが主な原因と考へます。從つてその指導宜しきを得ば昔の立場に還り得ると存じます。尤も現在でも技術者氣質を持つて居りまして賃金を問題にせすと云ふ一面を持つて居りますので大工をして生活に憩ませたいのが念願です。技術に於いては昔よりも低下してゐます。仕事の狀態も亦生活も低下してゐるので、大工に進むべき道を與へ技術に專念し得る樣に指導する要があると思ひます。

永澤——大工徒弟養成に關し昔と今との差異と云つた樣な點を。

岸本——總括して昔の大工徒弟は其の仕事が常備の仕事が多かつたのでありますが、現在は請負工事が多く傳統的仕事を親方より命ぜられない限り所謂能率的仕事をする。單價の定まつた仕事であるから自然その樣になります。一般的には從來より技術の低下してゐる事は事實でありますが、依然文明の進むにつれて建築も進歩し、これに感化されて大工も覺めてはゐるのであるが、只日時を急がれ追はれ勝の仕事である故、永久的仕事、

完全な仕事を成し得ないために技術が自然低下する事になるのでないかと思ひます。昔は日數が問題とされず、從つて氣永に技術に專念し得るし、道具の手入と技術と並行して、親方師匠の口傳を守り、廻り遠く仕込まれたのであります。現代は書籍等によつて敎育されるのでこれも能率的であり、同時に仕事も速急を要求されるのでこれが技術向上の缺點かと考へられます。

永澤——現代の建築に從事する大工としては單に昔の技術本位のものゝみならず、現代の仕事に適するものが必要ではないのでせうか。

岸本——事實特別なもの以外昔式のものはあまり歡迎されず、寧ろ現代の能率的なものが歡迎される樣に思はれます。

永澤——そうすると徒弟養成の方針は如何なる點を目標にしたらよいでせうか。

岸本——完全な技術者を養成したいのですが、社會の要求が少い爲やむを得ぬと存じます。

永澤——資格試驗を制定すると云ふ問題に關して御意見を。

佐野——大工の形はしてゐるが仕事は部分的のものしか出來ないのに大工と稱してゐるものが多い。眞に立派な昔式のものを要求するよりも大工業を一般的綜合的に修業したものを要求するのが本當だと思ひます。關東大震災以來急仕立の大工が生じて業界を害する事甚しくなりました。

鈴木——昔の技術的なものも現代的能率的なものも共に必要で判然と區別し得ないではないでせうか。要は完全な仕事を知悉する事が要求されなければなりません。

永澤——何れだけのものが出來るものを要求するか具體的に御意見を。

長谷川——一人前の大工と云ふのは量は別として技量の方は棟上の一人前に出來る大工を標準としなければなりません。仕事には得手不得手があり。削り、取付け、何を爲せても出來るものを要求するけれども量の方は判然しませぬ。

先づ四戸建十坪內外のものならば十二、三人で仕上げられ、且つ棟梁を離れても仕事の出來るのを一人前としなければならぬでせう。

現在は徒弟になる者が僅少で、このまゝ進めば後に大いに大工が不足して困る時が來はしないかと思ひます。何とかして大工を優遇してやる必要があると思ひます。

永澤——徒弟志願者の少いのは待遇の惡いのが原因でせうか。

長谷川——技術が簡單で叩き屋又は手傳同樣の待遇であるならば、苦しむで徒弟となる必要が無いと云ふ考から志願者が少いのではないかと考へます。

永澤——師匠に敎はつた仕事なら棟上まで出來るが、現代の仕事は變つてゐる爲圖面を見ても仕事が出來ぬ者が多い、從つて仕事は棟上までを標準としても、新しい仕事は理解する樣要求したいです。

長谷川——自ら進んで講義錄でも研究すれば宜いのですがそれが少いです。

鈴木——機械工の一人前と云ふのは圖面を見て仕事が出來得るを云ふのですが、建築も圖面を見て仕事が出來るのが一人前ではないでせうか。

久保田——大工は圖面を讀む事が下手で困ります。

鈴木——仕事の手配をする一人前と云ふのは何位を標準にしますか。

長谷川——上番匠と叩き大工とでも場合によつて違ひます。要は仕事に應じて文句を聞かずに仕事が出來れば宜いと思ひます。

永澤——徒弟の氣質、氣分に關して昔と今との相違についての御觀察を。

八木——昔は弟子入りすれば親方指定の年限の外御禮奉公をして年期が開くのですが現在は年數を過せば御禮奉公などは考へない。又印判纏を嫌ふ、辨當を嫌ふ、そして卑下をする。大工と云はれる事をも嫌ひます。

八木——試驗制度があれば智識敎育が出來ると思ひます。

中澤——徒弟の氣分の上に强制組合がある方が宜いのではないですか。

永澤——業者の方では强制組合を現在要求されますか。

沖——强制組合存在中はそれ程に感じなかつたけれど、之が解かれてより組合の有りし時鑑札に威嚴が有つた樣に思ひます。鑑札又は免許が無いと手傳と同一視され待遇上遺憾な點が多いので、やはり試驗、免許制度にして頂きたいものです。

長谷川——强制組合の存在中は業者がこれに取締られてゐるのだと考へてゐたのですが、解かれて見ると寧ろ保護されてゐた事を痛感します。か

ゝる制度の下に業者を奮發せしめ、免許制度を確立して頂きたいものです。

鈴木——免許制、試驗制の認定條件を如何にするかゞ問題であります。

永澤　——資格試驗となれば別の問題ですが、現在徒弟は幾何の年月を經て一本立となるでせうか、認定の年月はどんなものでありませうか。

上田——現在までゞは高等小學卒業十五六歲より徵兵適齡までが一人前としての年開けであります。檢查後合格した者が御禮奉公の三ケ月も勤める者は稀な狀態でありまして、それでも年開けまで勤め上げる者は半數以下であります。

永澤——尋常小學校卒業者と高等小學卒業者と何れがよろしいか。

上田——體力を要しますので高等卒業の方が良いと思ひます。

永澤——徒弟の立場からすれば御禮奉公をせずに逃げ出す者や、辨當、法被を嫌ふのは時代の流れかも知れません。

長谷川——現在では眞の徒弟は一割もありません。昔と今と信念が異つてゐますからでこれは何れの業に於いても同樣と存じます。又、これには棟梁や親方の方も其取扱について再考しなければならないと思ひます。又、これに代るに適當な技術6學業4と云つた樣な學校を設けるのも良いし大工徒弟養成所を設けこゝを出た者が將來一人前の大工となるのが本當ではないでせうか。

鈴木——學校も良いが塾を開く方が良いと思ひます。

中澤——塾を設けて徒弟養成をする事は大變良い事と思ひますが、塾にはバツクが必要であつて若し社會と孤立した場合に困りはしないか、社會が其必要を認めて援護するとすれば好都合だと思ひます。現場を持つてゐる方面や、棟梁が率先して業界が協力すれば最良の方法と思ひます。

篠原——學校で技6學4の一人前の大工を養成すると云ふ事は、他の製造工業と異り土木建築等は實習が學校で行ふものは單なる實習程度のものでしかありません。從つて學校で養成するにしても必ず業界の協力が無ければ到底目的が達せられません。此點で寧ろ大きな請負會社や、或は組合經營の下に養成所又は塾の如きが出來れば良いと思ひます。

岸本——尋常小學卒業でも高等小學卒業でも徵兵檢查までを限度として養成するのでありますが棟梁や請負の現場も親方と徒弟との經濟關係より考ふれば、最初の一年二年は親方より援助する形となり、漸く仕事も程度が高くなつて、穴堀釘打の程度を超へて來ると三年位で漸く役に立ち、僅に四年目位に主人に報ゐてゐる狀態であつて親方は徒弟の養成に可成の犧牲を拂つてゐるのです。

篠原——今の御話で親方は徒弟養成に可成犧牲を拂つてゐる樣に承りますが、親方又は棟梁は絕對的に徒弟が必要なのでありませうか、それとも徒弟として弟子入りを賴まれるのでやむを得ず習慣上養成してゐられるのでせうか。

長谷川——棟梁が徒弟を養成するのは、寧ろ徒弟を養成してゐる爲に社會的信用を得ると云ふ事と、使ひ歩き位が純益かと考へられます。從つて徒弟志望者があれば歡迎します。

篠原——單に信用と云ふ丈けなれば本質的に考へて技術工を養成すると云ふ見地から云へば、徒弟が絕對的に必要なのでせうか、それとも若し何等かの方法で一人前の大工を供給する事が出來れば、必ずしも徒弟を抱へる必要が無いのでせうか

長谷川——それは經濟問題で一般に大工を志望する樣な子弟は學校を卒へる資力の無いものが多いので徒弟養成は必要なりと云ふ事になると思ひます。

鈴木——經濟問題では現在寧ろ進んで親方の方に謝禮して徒弟の禮を採つてゐるものもある位で敎育程度も向上してゐるのではないでせうか。

中澤——塾を設けると云ふ事は大變良い方法と思ひますが養成年齡は何歲位を理想としますか。

鈴木——十七八歲より三四年かと思ひます。

中澤——尋常小學卒業して二年間位基本的なものを養成してこれを卒へたものを徒弟として採用する。それを一ケ年位仕込んで又塾に入れると云ふ組織にしては如何なものでせう。

長谷川——大工は年を取つても體力を必要とすること、同時に一人前になつても一定の場所で出來る仕事でない。移動性のものであるので社會から蔑視されるものと思ひます。

井上——强制組合が五年間府の統制下にあつて鑑札を受けてゐたものは何割かであつて撰擇せられた大工であつた。即ち技術の所有者であると云ふ標識で業者の中堅であつたのです。それが解かれて標識が無くなつた。將來は如何なる方法を取

るにしても技術に對する優劣の基準を設けて免許制度となし、資格を與へ賃金等も向上させる事が必要であると思ひます。

中澤——前組合は當局は保護の意味でやつたのであるが、後で見れば保護になつてゐなかつた。逆に組合は當局に依存してゐた樣である。資格につきては社會的に認められる標準が出來て將來其一部は當局の力を以てするも可なりと思ふが、之が未だ許可證を下附するに到るには社會的に一般に檢討されて後の事に屬すると思ひます。

長谷川——大工徒弟の後繼者が少い現代にこそ何か適當の養成機關があつて然るべきだと思ひます。又機械工が圖面によつて仕事をする如く大工も亦圖面を見て仕事をするに非らざれば一人前とは云へない。從つて大工としての常識を或程度まで養成し得る機關が欲しいものです。

中澤——要するに大工となれば木造に對する經驗が大切であるにも拘らず、木造の理論が一番遲れてゐる。これまでの規格寸法を踏襲する反面に發達が阻害されてゐるのです。

永澤——種々御意見を御發表下さいましてありがたう存じます。

（昭和12年11月25日・於本協會倶樂部室・11月例會）

本號執筆者紹介

五十音順

飯島猛夫	司法技師會計課
大倉三郎	京都帝國大學營繕課長
岡　實	法學博士大阪每日新聞社取締役會長
岡田孝男	三越住宅設計部技師
片岡安	工學博士・本協會々長
霜鳥之彥	京都高等工藝學校教授
新名種夫	大阪市經理部營繕課設計係長
東畑謙三	東畑建築事務所主
永野貞次	兵庫縣警察部消防交通課
坂靜雄	工學博士・京都帝國大學教授
藤原義一	姫路市建築課・技師
松本儀八	內外木材工藝株式會社常務取締役
村田治郎	工學博士・京都帝國大學教授
元良勳	大阪市土木部橋梁課・技師
吉田信武	地方技師・大阪府警察部防空課・本協會常務

4 月 號

度量衡制度改正の諮問から答申まで

岡　　實

目　　次

1　熱のある委員會
2　現行制度は尺貫法併用
3　答申の言はんとする所
4　何れを主とし從とするか
5　難　　詰
6　議事の出發
7　論議の分立
8　政治解決已むを得す
9　卑見の概要
一　對立する二つの事象
二　メートル法の絕對區域
三　メートル法の相對區域
四　三種の違つた區域A、B、C
五　Aの範圍
六　B、C、の範圍
七　兩屬區域の細別
㈠の場合及㈡の場合
八　行政方針のいろいろ
a の場合
b の場合並に㈡の場合
九　尺貫法保存の區域
10　結　　論
11　最後の總會
12　最善の解決期待

1　熱のある委員會

度量衡制度調査會は隨分永い間委員諸君が仲々勉强して討議を凝らされ、總會から特別委員會、小委員會、起草委員會と言ふが如き數段の會議を重ね、時として熱論沸騰近來稀に見る活氣ある會合でありました。

私は時々地方に行つたりするので兎角缺席勝ちではありましたが、其の經過には不斷の注意を拂ふて居りました。

小委員會の最後の會にも缺席しましたが、後で聞くと委員長が各種異論の調和と包容に努力された結果、やつと出來上つた案が即ち今回總會で決議になつた案だとの事であります。即ち答申案の本文は次の如きものです。

「現行度量衡制度ハメートル法專用ヲ企圖シ居ルモ之ガ實施ノ成績ニ鑑ミ速ニ同法ノ外尺貫法ヲ併用スルコトニ改ムルヲ可ト認ム其ノ實行ノ方法ニ付テハ政府ハ我國ノ實情ニ適應スル樣處理スヘシ。」

右答申の說明は次の如きものであります。

「現行度量衡ノ基本ヲ定ムルニ至レル事情ヲ考察スルニ工業特ニ軍需工業動員法運用ノ圓滑ヲ圖ランガ爲メ從來多岐ニ分レタル度量衡ヲ統一スルノ緊要ナルヲ認メ大正十三年現行度量衡法ヲ實施シ爾來十數年ヲ經過シタル今日ニアリテハ相當廣範圍ニ亘リ之ガ使用ヲ見ルニ至レリ。然ルニ我國民ハ尺貫法度量衡ヲ永年慣用シ來レル結果尺貫法制度ハ我國民生活上一朝一夕ニ改廢シ難キ事情アリ。特ニ祭祀ニ關スル事項ハ我國民ノ精神生活ニ密接不離ノ關係ニアリ、又農地關係事項ノ如キハ今之ヲメートル化スルコト至難ナ

ルモノアリ、依テメートル法度量衡ノ專用ニ依ラズ尺貫法度量衡ノ併用ヲ認ムルヲ可トス。其ノ實際ノ運用ニ當リテハ或ハ一種ノ度量衡ニ統一シ或ハ兩種度量衡ニ付選擇ノ自由ヲ認ムル等政府ハ宜シク詳細ナル調査研究ヲ遂ゲ我國ノ實情ニ適應スル樣遺憾ナキヲ期スヘシ」

と言ふのであつて答申も說明も極めて抽象的であり、寧ろ茫漠たるの憾なきを得ないものであります。

此の程度の案をデツチ上げるため永い間あれ程の熱論が闘かはされたのかと思ふと其の收獲の比較的貧弱なるに對し各委員は勿論世間でも甚だ物足りない感があろうかと察せられます。

2 現行制度は尺貫法併用

答申の本文を文字通り解釋しますと現行制度に何等の改正を加へないでも、其れですむ事になるのです。

何故なれば現行制度と雖も專用企圖の下に現に勅令ではあるが尺貫法を認めて居り、何のことはない併用制度に外ならぬのであります。唯本法から尺貫法をしめ出して餘り繼子扱ひにしてゐるといふ點と、其の上これにも一定の期限がついていると言ふのが難點なのであり、而も其の期限が間近に迫つて來たのが、尺貫法運動が起つた直接の動機と見るべきです。

3 答申の言はんとする所

答申は何等變つた主張をして居ない。

然らばどんな所に答申の言外の意義があるのかと言ふと「尺貫法を勅令などで認めないで本座敷に案內して法律を以て正面から堂々と認めてほしい。尤も是れに期限をつけるとか或はその適用區域をどう決めるとか言ふ問題は、委員會は觸れないが、政府はその見る所に從つて自己の責任において宜敷く決めてほしい」といふのであろう。

4 何れを主とし從とするか

答申の重點は併用と言ふ點にある。而してこの併用にはメートル法、尺貫法のいづれを主とするかといふ事には觸れてゐないが「速ニ同法ノ外尺貫法ヲ……」とあるから自然メートル法を本とし尺貫法を副とするの意味が言ひ現はされてゐると思はれるが、併し委員長は總會の席上「兩者の間に輕重の差別を立てたものでない」と口頭で說明された。併し此の趣旨は總會の認めた說明書中には見へないから解釋の餘地は他日に殘されてゐる譯であります。

5 難　　詰

いづれにせよ答申はまるで甘くも辛くもない言はば淡々水の樣なものであるから、委員の中には此んな案で果して政府諮問の本旨に對へ得ると言へるかと難じ、或は又委員會は果して遺憾なく其の任務を果したと思ふか等と言ふ非難めいた議論をした人もあつた。

6 議事の出發

以下議事の經過等につき御話するが委員會の初め私はまず次の様な質問をしました。

「大臣諸問ノ說明ヲ拜見スルト「現行制度ノ下ニ於テハメートル法ノ施行ハ漸進主義ヲ採リ度量衡ノ統一ヲ最モ必要トスル方面及最モ容易ニ統一ノ實ヲ擧ゲ得ベキ方面ヲ先ニシテ先ツ統一ノ實ヲ擧ゲンコトヲ期シタリ」トアリ。

此ノ文章デ明カナル如ク大臣ハメートル法ノ統一ニツキテハ最モ之ヲ必要トスル方面ト比較的必要トセザル方面アリ、同時ニ又統一ガ容易ナル方面ト然ラザル方面ガアルコトヲ認メラル様デアル。ソコデ、私ガ伺ヒタイノハ其ノ後ノ部分即チ統一ノ比較的不必要ナル方面若クハ絶對的不必要ナル方面トハ如何ナル事項ナリヤ。又統一ノ比較的容易ナラザル方面若クハ絶對的容易ナラザル方面トハ何ナリヤ。此ノ兩方面ヲ可成具體的ニ御說明相成タシ。」

といふ様なことを述べて見た。

此の質問にハツキリ答へて貰ひさへすれば問題全體の解決は比較的容易にその緒を見出すことが出來ると思つて樂んで待つてゐたが、數ケ月の長きに亘り、何等の答辯も出なかつた。

結局答辯があるにはあつたが玆に述べる値打もない程に漠然とした不得要領のものであつた。

7 論議の分立

委員中の保守派とも見るべき方はメートル法は佛國革命の產物だから、これは廢めるのが本筋だと論じ、假りに認めるにしても尺貫法の上に置いてはならぬと述べ、或は又日本精神振興の必要を繰返して外國到來の單位は望ましからず、と大仕掛な國體論や精神主義又は道德律とでもいふべき點から出發して一氣にメートル法の粉碎を試むる人もあつた。是等の人達は國際交通や計量上の便宜論、學術研究の必要などといふ實際問題から離れ、又我國度量衡制度發達の沿革などは一切顧みないで、一途にメートル法を排除せんと欲するのであつた。

これに對抗して起つたのは主として工學者又は、理學者等いはば科學系統の方々と不偏不黨を以て自任する法經派又は常識家とでもいふべき方々であつた。尤も科學者中意外にもメートル法に同情なき例外の方もあつた。

8 政治解決已むを得ず

私は最初より「現行度量衡法はこれを改正する必要なし。唯勅令の猶豫年限が迫つてゐるから、これを延ばしさへすればそれで充分だ」との考へを持つてゐた一人であつたが、併し世間を見渡すと衆議院では一再ならず度量衡法の全面的改正を議決したのみか、院內院外の建議は勿論その他尺貫法復舊運動も中々熾烈の様に見へ、事の眞相は兎も角、表面丈けの情勢から見ると、動もすればメートル法の牙城が一朝にして覆えされはしないだら

うかとの危惧心もなきに非す、萬一にも此の表面の形勢が最終の勝利を制する場合には、それこそ天下國家のための一大事で、この際、餘り出し惜しみをすると所謂寸を惜しんで尺を失ふ結果となるかも知れない。如かず保守論者の面子の立つ限りに於て實害なき程度の妥協をなさんにはと窃かに考へるに至つた。それで小委員會の席上試みに左の如き陳述をして各委員方の一考を促した。

9 卑見の概要

【一】 對立する二つの事象

私はこの問題の取扱を國體問題その他精神上の主義問題と關聯せしめることは絶對に避けたいと思ふのであります。

尚ほ私は少時純理を離れ、世間の情勢即ち當面の情勢を基礎として問題の解決を考へて見たいと思ふてゐる。現狀とは(一)メートル法が相當國内に普及して居り牢乎として拔くべからざる根を卸ろしたといふ事實、この事實と正反對に(二)衆議院が再三度量衡法の全面的正案を議決したといふ、此の二つの事實である。この對立する二つの事象を前にしては、メートル論者も尺貫論者も相互的に讓歩すべき理由がある様に思はれる。

【二】 メートル法の絶對區域

言ふ迄もなく度量衡は統一する方が便利である。從つてその必要がある。國内的には勿論、國際的にも統一したい。統一するにはメートル法に統一する外はない。

【三】 メートル法の相對區域

だが、永年尺貫法を慣用した我現狀から見て、メートル法の適用には、その便利の程度及必要の程度が自ら異る區域が分立してゐると思ふ。即ち……

【四】 三種の違つた區域A、B、C

(A) 絶對的に統一が便利なる區域

(B) 絶對でなく比較的に便利な範圍

が分立する。更らにこれ以外に

(C) 便利と必要から或る程度離脱した區域

もあらうと思はれる。

【五】 A の 範 圍

この(A)の範圍は、即ち最初大臣の諸問理由の説明中に見ゆる「メートル法を最も必要とする方面」であり、又同時に「最も容易に統一の實を擧げ得べき方面」である。而して此の區域は

(イ) 陸海軍、鐵道、遞信省の管掌する事務の範圍

(ロ) 學術方面就中物理化學方面

(ハ) 醫療、輸入工業等

の如き其れである。

以上例示の區域では學術研究や海外交通の關係等よりして、度量衡を取引上又は證明上に用ゐると否とを問はず尺貫法との競爭は起らぬ。

從つて尺貫法を保存せんとしても事實保存し得ないのではないかと思ふ。即ち尺貫法は自然適用上から消滅して、必然的にメートル法に統一されて行き又既に統一されてゐると言ふてもよいのである。この區域は問題なしの區域である。

【六】 B、Cの兩屬區域

かくて問題は自然殘餘の區域にのみ限られる。此の兩屬區域は、更らに㊀及㊁の二に分れる。

【七】 兩屬區域の細別——㊀と㊁

㊀ の 場 合

㊀、メートル法に統一する方利便であり、從つて其の必要が現存するに相違ないが、偖て實施の問題となると抵抗があり、摩擦もあり、統一の實を擧げるに時日を要する、事情がある。

例へば(ア)不動產關係(イ)農業關係(ウ)紡織業關係(エ)外國貿易の或る部分等の如きそれがである。不動產關係の如きは特にその顯著なるものである。併しこの區域に於ても

(い)統一は割合に容易である領域

(ろ) 相當困難で左迄容易でない領域の別があると思ふ。次に……

㊁ の 場 合

㊁、㊀とは違ひメートル法は實用上例外なく便利といふわけに參らぬ。從つて必要も㊀の如く大ならず、即ち便利と必要から或る隔離に於て游離してゐる區域、これは答申の說明書中にも見へる純粹の祭祀品の如き又は在來の日本文化の中に蝸居して國際性の乏しい趣味品、嗜好品の如きそれである。

【八】 行政方針のいろいろ

偖て兩屬㊀㊁の二つの場合につきその內容に對する行政方針を檢討すると

㊀の場合に於て(a)メートル法と尺貫法との自由競爭に一任しておいてよい區域(當事者の考へにまかす)と(b)公益上から見て統一促進の必要が大であるため一定の年限の後には是非をいはせずメートル法を强要する方がよい區域の二つに分れる。

(a)の 場 合 は

(a)においては自由競爭が行はれて自然メートル法の領域が擴張して來る場合があるべきも、その上に少しく法令の力を加へさへすれば比較的短時日の間に統一の實を擧ぐることが出來るであらう。唯殘餘の容易に優劣勝敗の決らぬ區域中公益上の必要大ならざるものに對しては或る年限內は自由競爭狀態に放置し尺貫法の殘存を認めておくの已むを得ざるものがあらう。尤もこの區域と雖も政府の決心如何でどうにでもなるのである。

(b)の 場 合

(b) の場合に對しては現に年限を延長してゐるものゝ中、その或る事項は斷然期限後メートル法に據らしむべく、政府財政の都合（例へば土地臺帳改正は巨費を要する）その他已むを得ざる場合は年期を延長して或る期間依然尺貫法を保存せしむるの外はない。

さて又前に例べた兩屬㈢の場合はメートル法統一が一概に便利とは言へず、必要とも言へない區域であるから、これはその儘放任するのが本道である。惟ふにメートル法單一論者と雖も、この區域において強いて尺貫法の適用を不可としないと考へる。

此の區域においては經濟交通が少いか又はよし經濟交通あるも取引證明に度量衡を用ゐることなきか又は少いのであるから是は在來の儘放任しておいてよい。

【九】 尺貫法保存の區域

以上㈠の場合の或る部分及㈡の場合全部に對して、尺貫法を保存し（一時又は永久に）器物に對しては檢定を（永久に）與へてやつてよいではないか。

私はこの意義において、よし大小廣狹の別があるにせよ、尺貫法を全然我國から消滅さすことは出來ないと信ずるのであります。この點において絶對メートル論者に對しては勢ひ限定的併用說を以て對立せざるを得ないのであります。

【10】 結　　論

之を要するに私の意見は左の如き結論となるのであります。多少重複して讀者には恐縮ではありますが左に述べる事にします。

（一） 我が國ではメートル法を基本とすべきも在來の尺貫法を根本的に一掃してしまはなくてもよい、それは少しく潔癖に過ぎ社會の實情に副はない點がある（ほんの少し許りだが……）

（二） 尺貫法を限定的に保存すると共に尺貫法では、どうも國際的にも國內的にも不利不便である事が明白なる場合に對してはメートル法は自ら尺貫法に代るべきも其の新陳代謝が遲くして公益上打ち捨ておき難き場合は從來の如く一定年限內に國家の力でメートル法に依らしむる事としたい。

（三） 自餘の區域即ち

（一） 左迄便利ならず、從つて必要も左迄大ならず

（二） メートル法は絶對に便利ならざる區域

是等に對しては其の儘放置或は年限を延ばして尺貫法を認めればよい。

政府は餘り積極的に干涉しなくてもよいと思ふ。

以上現狀を基礎として考へる時はメートル法、尺貫法の兩者は共の運用の範圍に廣狹大小の別こそあれ一以て他を全廢し去る事は出來ないものである。

尺貫法如何に不便と雖も此れを根本的に我國から驅逐し去る事は事實出來ないと言ふ事になる。そうすると兩者は各その領土を有すべきもので尺貫法は假令小領土と雖も又一城の主たるべき資格をもつ。以上略言すれば區域をきめて併用已むを得ずと言ふ事になるの

である。以上を法令の關係で何うすればよいかと云ふと

（A）メートル法と尺貫法を法律に並べては認めない。況んや尺貫法を基本とする事には絶對に反對である。

言ふまでもなく（一）メートル法は十進法で便利であること。（二）名稱が揃ふてゐて覺え易い。（三）長、容、重に簡單なる連絡があつて解り易い。（四）單位が長大より微細迄行き渡つてゐる等の一般的理由の外、我國の原器はメートル法に依つてゐる。從つて尺貫法もメートル法から割り出されてゐる事、日本が段々國際的になること、列國も追々メートル法に歸一されつゝある事等を考へ來る時は、メートル法を基本とすべきは問題でない。

その上軍需工業動員法上の必要もあり又我國實業界學界も現に續續メートル法に轉移しつゝあり（尺貫法に逆戻りした例は鮮い）其の上我國の法令も總てメートル法を以て公式の基本として制定されてゐる。

（一）郵便法

（二）船舶積荷測定法

（三）國有鐵道建設規程

其他の法令は云ふも更なり、

畏くも　皇室の御法令もメートル法にお依りになつてゐる。

皇室陵墓令の如きその著しき事例であります。

是等の理由により私は現狀から判斷して「兩者の分野を明にした上に、その併用を已むを得ず」とし此の主義を法律を以て認めてもよいと思ひます。

基本は勿論、既に述ぶるが如くメートル法に置く事にして。

以上は純理解決と政治解決の中間を行くものであるから自然兩方からの非難を受ける事は豫期する所であります。

【11】最後の總會

大分話が長くなつたから最後の總會の話をして打切ります。

私は其後差支あつて小委員會にも特別委員會にも缺席勝であつたが最近遂に前揭の如き答申案が總會の議に上つた。

此の席上佐野利器博士から特殊の場合にのみ尺貫法を認むる趣旨の修正動議、私からは特別法を以て尺貫法を認むる修正動議を出した。兩者いづれも輕重正副若くは主從の別を案の中に明らかにして置きたい趣旨から出たのである。

私は大凡左の様なことを總會の席で述べて見た。

「答申案は極めて抽象的なものであることは先刻田中委員の述べられた通りで遺憾ながら私はこの說には全然共鳴するものであります。併し私は總會、特別委員會、小委員會等の經過から考へて斯の如きは全く已むを得ない結末と考へますのみならず異論簇生の

間に此の程度迄會の意見を纏められた委員長及委員諸君の御苦心を深く拜察するものであります。私は佐野君の「特殊ノ場合ニ尺貫法云々」の修正意見に贊成を表し是れを一つの動議として採決を希ひ更に別に一つの修正案を出して御贊成を得たいと思います。それは案の中に「併用スルニ改ムルヲ」とあるを「併用スル特別法ヲ制定スルヲ可ト認ム」とすることであります。

特別法を以つてと言ふ意味は現行度量衡法の本體には觸れず其の勅令に讓つた尺貫法の公認を法律を以てするといふ意味です。現行度量衡法は只今岡本君から縷々述べられた通り實に多數の學者、實際家の甚大なる努力の結果ヤツト出來上つたものであつて、多少でも其の基本に觸るゝが如き改正は避くべきであり、よし、やるにしても本法以外の特別法でやるべきだと思ひます。云々」

總會となつては提案の時期既に遲く、此の動議も佐野君の動議と同じく少數で成立しなかつた。

【12】 最善の解決を期待する

委員會の結末は泰山鳴動して鼠一匹の感があるが、其の意圖する處は法律を以て尺貫法を有期又は無期に認むるといふに在るのである。これは、其のこれを認むる範圍の大小廣狹によつて其の利害得失を檢討すべきものであつて一概に此の方針を頭から非難し去るべきでないのは無論である。

案が茫漠であればある丈け、其れだけ政府は自由である。

自由の在る所責任がある。

法律を議會に提出する迄には十分に考慮され最善の方策に出て貰いたい。

私は政府が本末輕重を謬らず、結局此の問題に善處せらるゝことを期待するものであります。

終りに私は岡本本會々長の絶へざる努力に敬意を表すると共に日本度量衡協會としては其の設立の本旨に從ひ、今後も倦まず撓まず其の正しき主張の貫徹に努め本問題の解決に有終の濟美を齎らされんことを祈るものであります。（終り）

（本稿は日本度量衡協會の承諾を得て轉載したものである）

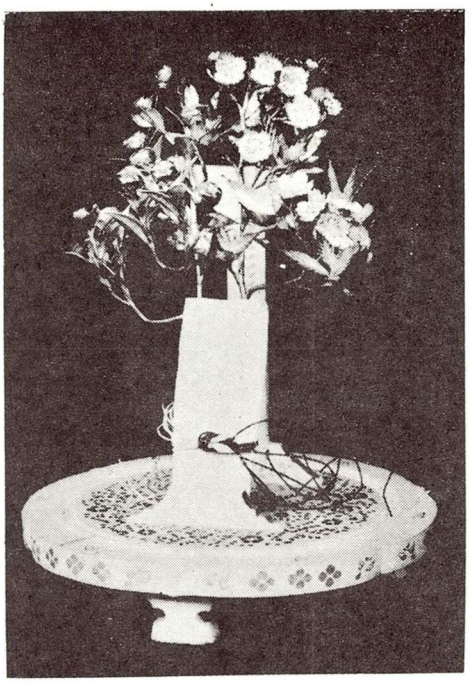
武田博士を憶ふ

武田君を憶ふ

片岡安

武田君と私とは明治廿七年東大の建築學科に同時に入學した時から前後足かけ四十五年間の交遊を續けて來たので追想すべき事は餘りにも多いのである。今それを書き綴るにはどの事柄を主體にすべきやに就ては考をまとめる暇はないが、此の篇にはその中尤も無邪氣であつた學生時代のことを一二追憶して見たい。

武田君は學生の時分から普通の人と趣を異にした或る性質を持つて居つた。それは一生を通じて變らなかつたようだ。その變つた點といふのは冷靜なる批判力が餘りにも多量に凡ての行爲につき纏つて居つたことである。その批判力は藝術家としてはまことに尊い特色であつて、君が建築家としての一偉材であつたことは全くその性質から出來上つたのであるが、日常の無邪氣な遊戯的の行爲にまでその性質が支配するとそこに一種の矛盾が生ずるので、却つてそれが滑稽化する場合が出來るのである。學生仲間の旅行中君はその爲に數次滑稽な場面を演じたことを追想すると今更ながら爆笑を禁ずることが出來ぬ。當時クラス仲間は七人であつたが常に家庭的の交游を續けつゝあつた際に君の超然たる態度は一面には同勢を支配するが折々突拍子もない爆笑の種子を蒔くことがあつた。大學一年を終りて一同夏期修學旅行に出掛けた際千葉縣の大洗のさる旅館に宿泊した。やがて就寢の時に女中が寢具の襟を直さんとせし時、突如として君は大聲で悲鳴を擧げ、一同を驚かした。それは恐らくその女中が同衾を求めるものと想像したらしく、忽ち一場の爆笑劇を演出した。その後數月の間はその時の君の悲鳴談で話に花が咲くを常とした。その當時我々クラスの學生連數名が旅行する時に生意氣にも一等の旅館料亭に宿泊又は飲食することは數次であつた。その爲めに思はぬ失態を演ずること多く、今にその時の思出が殘つて居るが、連中の中で最も多くの珍談を殘したのは君であつたことは事實である。我々建築學科の學生はその當時第一年の終りに日光へ約一ケ月餘の修學旅行、第二年の終りに京都、奈良に矢張り一ケ月餘の修學旅行を命ぜられ、相當の旅費を支給されたのであるから、その連中のはしやぎ方は相當のものであつて、到る處で無邪氣な失敗を數多く作つた譯である。



御大典釵子臺（遺作）

京都と奈良ではその當時日本建築の指導者であつた伊東忠太博士が吾々連中へ長老格として參加された。伊東氏はまだその時は少壯學者で氣焰萬丈一同を煙に卷くを常としたが、武田君だけは中々煙に卷かれないといふのは、君の特性である冷

靜なる獨自の批判力を片時も棄てないから、無邪氣な連中の如く先輩の說教に容易に感服せず、むしろ冷評するまでの態度さへ見へたのである。しかしそれは冷評する態度に見へるだけで決して感情的に冷評するのではなく、大體に共鳴しても感激的に引入れられることがないといふに過ぎなかつた。一寸その時は冷評するのではないが甚だけしからぬ奴だと對談者に不快の感じを與へることも多かつたが、數次對談すれば君の冷靜なる批判力の閃きであることが理解されるのである。君は學生としては常に沈靜であつたが憂鬱でなく極めて明朗であり恰かも成業せる紳士のようであつた。學生にはあり勝な茶目氣分の極めて少い方であつたから、玉突やその他の遊戲はもとより勝負事や運動一切は嫌であつた。

亡き父武田五一

飯島猛夫

公人としての父については他に語る人も多くある事と思はれるので、一私人としての亡き父に關して少し許り書かして頂く事にする。

父は昭和十三年二月五日午後五時突如京都の自宅にて亡くなられた。一月の末頃東京に出て來て家にも寄り、子供達と元氣に遊んでくれた父がまさかなゞならうとは、私は五日の夕刻京都から電報が來るまでは夢にも知らなかつた。五日の夜行で急遽歸宅して知つた事は次の通りである。二月一日に法隆寺に行き會議中氣分が惡くなつたと云つて自動車で歸つて來られたが、別に熱もなく唯胸が痛いと云ふだけなのでそのまゝ自宅で靜養しておられたが、自分でもとても元氣で少し氣分が好くなつたら會にも出よう、旅行もしやうと考へてゐられたらしい。五日の午前に神戸の兄が見舞に行つた時もとても元氣で、自分も家のものもまさか命が亡くなるものとは夢にも思つてゐなかつたらしかつた。それがその日の午後五時頃痰が出ると云つて咳をせられると容體が急變して、五六分間苦しまれまして、遂に亡くなられたとの事だつた。

京都帝大の中西、眞下兩博士に診て頂いたのであるが原因は判然としなかつた樣だつたが、六日に病理の教室で解剖してみた結果、心臟より少し出た所の大動脈が切斷してゐたさうで、この樣な事は甚だ稀な事で、如何とも手の盡し樣がないものだとの事であつた。二月八日京都百萬遍に於て告別式を行ひ同日夕刻火山火葬場に於て一片の白骨と化してしまはれた。戒名は竹風院殿天來大建居士とつけられた。私達は餘りにもあつけない父の死に夢とばかりしか考へられない。

生きておられる間は種々と云ひ度い事もあつたが亡くなられてみると父のよかつた思ひ出だけが殘されるのは私一人の場合だけであらうか。まだまだ生きてゐて欲しかつた。法隆寺の仕事にもとても打ち込んでおられた樣だし、もつともつとさせて上げたかつた事は澤山あつた。

大學を停年で退いてから父は、これからは少し暇になるだらうからこれまで仕度いと思つてゐて出來なかつた仕事が出來ると云つてとても喜んでゐたが、矢張り相當以上に多忙の樣だつた。京都の趣味の會には殆んど總て入會してゐた樣だし、用事で東京に出て來られた時は新らしい空氣を吸ふのだと云つて芝居とか映畫などをつとめて見ておられた樣だつた。とにかく年をとつたとか弱つたとか云はれたり、見られたりする事が大きらひで何か變つた事や珍らしいものがあると直ぐ見に行つてみないと氣が濟まない性質だつた。

いつも何か變つたものを持つてゐて我々に見せて吳れたり、展覽會で見て來たと云つて、あれを買つて來て吳れと賴まれたりしたものだ。

父の時代は自由主義の時代だつたので我々も、ほんとに自由に育てられた。寧ろ放任過ぎると考へられる程だつた。しかし陰ではいつも種々と心配して考へてゐられた樣だつたが、面と向つては

何とも云はれなかつたので却つて物足りない位だつた。ごく氣持のあつさりした善良な氣の小さい父だつた。

父は若い時から餘り病氣をした事がなかつたので自分の病氣にも他人の病氣にも餘り同情がなかつた。自分が少し位氣分が惡くても餘り養生もしなかつた樣だし、じつとしてゐる事が嫌いな性質だから相當肉體を酷使したきらひがあつた。實際より若く見えるとか、いつも元氣だとか云はれてゐる間に年齡は爭はれないもので、大分弱つておられたらしいが、我々がいつも餘り無理をしない樣に身體を大切にする樣に忠告しても氣にもされなかつた樣だつた。そして遂に悲しい時が來てしまつた樣に思はれる。私は今何と云つてよいか解らない氣持がする。父が亡くなつてから種々と考へさせられる事が多くなつた。父のほんとの氣持我々がもつともつと努力しなければならない事、其他萬感交々胸に迫るものがある。

しかし父の葬儀も皆樣の力に依りあの樣に立派に行はれ、多くの人々に惜しまれつゝ大體に於てやり度いだけの事はやつて亡くなられたのだから我々も有難い事と思はなければならない。この上は我々三人兄弟協力して、しつかりやり、父の名を恥しめない樣に努力する事が亡き父に對する我々の義務と思ふ。

亡き父の生前の知己、友人、弟子の方々に對してこの紙上をお借りして厚く御禮申し上げる次第である。昭和十三年二月二十二日

武田先生の思出

坂　靜雄

京大建築學教室の同僚のある宴席であつた。仲居はなかなか人を見る明があつた。武田先生は何に見立てられたか今思ひ出せないが、天沼先生は校長さん、故三浦先生は音樂家、私は秘書官といふことだつたが、おそらく武田先生の鞄持に見立てられたことゝ思ふ。スマートで萬事に氣が利いた人間なら尤もの事と思ふが、無精で頓馬な私の鞄持だけは一寸おかしかつた。嘗て武田先生のお伴をして鞄持格で京都驛に行つた事がある。入口に近付くと一歩先に立つておられた先生が、切符を買つて來やうといはれて、サツサツと走つて窓口へ行かれて私の分迄買つて下さつた。頓間な鞄持が失敗した一つの例であるが、武田先生はこんな風に格式張らない、親父が子供に對するやうな溫情があつた。

大正11年から昭和6年迄足掛け10年、私は學校で武田先生の室の隣りに席を貰つてゐた。玄關番が自らつとまる位置であつた。朝の出勤は私の方が早かつたが退出も私の方が早かつた。先生は隨分遲く迄何かやつておられた。それに來客が實に多かつた。武田先生が御出張中等は其の應接で惱まされたもので、遂に其の煩に耐へず私は部室の扉に「武田先生へ御用の御方は受付へ御出下されたし」と書いて貼り付けておいた事がある。恒久的に此の紙を貼り付けて玄關番をまぬがれる計畫であつたが、武田先生が歸つて來られて「やあ失敬失敬」の一言と共に紙はむしり取られてしまつて、計畫は畵餅に歸した思出もある。其頃御來客との御用談や、學校の事務を一人で（天沼先生の海外御留守中は建築學教室の教授は武田先生だけであつた）やつておられる御多忙の間にも、圖板についておられる先生を屢見掛けたものであつた

武田先生は意匠方面に時の動きを注視しておられたと同樣に構造方面にも特に新らしい試みに理解をもたれた。本邦の鐵筋コンクリート發達の初期を飾つた京都岡崎の商品陳列館は明治41年着工明治43年竣工で武田先生の設計、日比博士の構造設計である。（右建物が明治37年に出來たやうにセメント界彙報昭和9年12月號に武田博士談として出てゐるが、これは武田先生が37年頃といはれたのを誤つたものであることを、後日武田先生に伺つて承知した。私が着工及竣工をお尋ねしたと

ころ、書棚から近代建築圖譜をぬかれて上述の年代を教へて下さつた）此の建築物は御大典記念の京都美術館が建てられるに際して取り毀たれて、床構造の一部が記念物として京都帝大工學部建築學教室の裏庭におかれてゐる。それは兎も角として明治40年頃既に鐵筋コンクリートの使用に率先されたことは、直前日比博士と共に佛國にあつてアヌビーク式鐵筋コンクリートを理解された先生としては當然のことかも知れないが、當時の我が技術から見て、よほどの決斷を要せられた事と思ふ。先生が京都帝大の營繕課長事務を取扱つておられた頃、何か構造上の新しい試みでもあれば、學内の建物にやつて見てはどうかとの御意見を伺つたが、私達の怠慢で遂にこれといふものを試みて見ることは出來なかつた。然し先生が關與せられた大阪の江商ビルや、京都日本赤十字社病院、京都電燈本社等では當時の習慣からは稍かけ離れた構造の採用を許された事は、構造方面を心掛けてゐる私としては誠に感謝に堪へない所である。

先生の思ひ出

村田治郎

武田先生と言へば、あの張り切つた御健康そのものから受けた強い印象のせいだつたらうか、何時とはなしに殆んど死の蔭を思ひ浮べることさへ出來ない永遠の生命の持ち主であらせられるやうに、腦裏では扱つてゐたことを、突然の御逝去によつてしみじみ覺えたのであつた。

悲しくも今は總てが思ひ出といふ言葉で述べなければならなくなつた。しかも我々の心の裡では先生は今も尚ほ老ひを知らぬ潑溂たる御姿の儘で活きてゐられるのであるが。

私の學生だつた頃の先生は、未だ可なり嚴格な威壓を感ぜしめる御方だつた。これは多分私が學生的な憶病な所を當時多分に持つてゐた所から來た印象だつたかも知れない。とにかく怖かつた。いつも製圖提出の期限を延期して下さいと御願ひに出る役目に當つて、私はオドオドして先生の御部屋の扉をノツクしたことを記憶する。

その頃多分元眞動君などが言ひ出したかと思ふが、仲間ではひそかに先生のことを「絕對」と呼ぶことにした。つまり先生の御言葉は絕對に服從すべきで、これを變へることが出來ないといふやうな意味に基くので、その一事によつても判る通り、私共のは單なる畏怖ではなくて、敬服敬慕の念をそこに伴つてゐたのであつた。

愈々學窓を巢立つて私は滿洲へ行くことになつたが、その時の先生は溫情溢れるばかりで、私の擔當する學科の内の建築計畫の時間數を見積つてその時間の中の何時間に○を教へ、次の何時間には△を教へるといふやうな、こまかい點まで御配慮下すつた。それで後になつて始めて、教室に於ける嚴格秋霜を思はしめた所は、單に先生の採られた教授方法に過ぎなかつた事を感するに至つた。もう昭和の初年頃からの先生は、學生に對しても全く融通無礙、圓滿そのものだつたと聞いてゐるので、一寸昔のことを記して見たのである。

先生が洗練された通人であつたこと、宴會の席では墨繪で藝妓の姿をぬたくる癖があつたこと、下手物趣味のものを喜ばれたことなど、思ひ出は盡きない。先生作の日本畫色紙を持つてゐられる御方は多からう。所が繪では私に一つ殘念な話がある。私が結婚した時のこと、設樂貞三君を通じて自作の掛け軸を御祝として下さるといふ御話だつたが、私が滿洲に居て御目にかゝる機會の少なかつた爲でもあらうか、中々實現せず、とにかく先生の大傑作を鶴首して待つこと十餘年、それが遂に永久に頂戴出來なくなつて了つたことである

慈顔を偲ぶ

大倉三郎

昔チアルス・マツケーといふ詩人は、柚人の伐

る巨木が倒れる様を見て、大聲をあげて號泣したといふことである。見知らぬ人の不幸に逢つても思はず襟を正す、まして故武田先生の如き巨大な、その樹蔭に多くの子弟達を、庇ひ育み、宿らせてゐた大樹が、一朝卒如として不歸の客となられるとは、建築界の大損失なるは勿論、吾等子弟にとつては、惜しみてもあまりあるところ、まことに言ふべき言葉を知らない。

故先生は建築界の巨木にふさわしく、亦巨大なる體格の持主であつた、六尺近い豊かな偉容と大きな手の平、帽子を心もち斜めにして、肩をやゝいからしつゝ、いつでも先きに立つて後左右に頓着なく大股に歩かれる先生の姿は、印象に深く殘るところである。しかしその巨大なる風姿から、しかつめらしいものは殆んど見つからない。大禮服の姿などあまりに先生離れしてゐる感がある。

學生時代には再三叱責されたことを覺えてゐるが、どうもその時の顔が思ひ出せない、古い寫眞の眞面目臭つた顔が、やゝそうであつたかと思はれる位で、武田先生といへば、微笑の風姿だけしか記憶に殘つてゐない様に思ふ。

微笑にも色々ある。先生の微笑は物に頓着しない抱容と達觀のそれであつた。晩年にはその微笑が益々どうに入つた様である。一雨年來いつになく老境に入られたかと思はれる様になつてから、どことなく口元に前の元氣さは消えてなくなつたが、圓熟した先生の風格には、一層その微笑に親しみと温情を感じたものである。

先生の弟子の薫陶は、すべてその達觀的微笑から出て來る、教壇からにらみつける氣むつかしい教育者流ではなく、座して共に語る式の導き方であつた。教壇から學んだものは、案外に何も殘つてゐないで、座談に聞いた言葉の中に多くの啓發されるところがあつたのは、よく之を示してゐると同時に、却つてそれが吾々に畏敬の念を深くさせたことは、先生の人格の然らしめたところに違ひない。更にその先生の話が時に脱線するところに、先生の小事に無頓着な風格が偲ばれ、一層吾等にとつて印象深く、親愛の先生を腦裡に刻みつけたものである。

先生の抱容力の大きさ、無頓着さといへば可成有名であつた。子弟の間で先生の噂話となると、突飛な逸話が續出したが、これ等がすべて他人の前で肉身の嬉しい失策を話し合ふ子供の無邪氣な心持ちであり、子弟にとつてはまことに先生といふより、むしろ愛し慕ふ親であり、肉身以上の感であつた。

それだから多少甘える心持ちも手傳つて、色々の難題や身の振り方などを持ち込んで、先生にすがることも一通りではなかつたが、先生の引受け好き、といふより子弟の願望を無條件に受入れる寛容さから、いつ如何なることにでもNo.といふことはなかつたのである。あまりに多くのトラブルをかけたことに今更汗顔乍ら、先生の慈愛、寛大には全く頭の下る思ひである。

これ等の温情は先生の人間としての半面であることは勿論で、一方先生の屈することなき精力、廣範な知識、技術的精悍さは、專ら建築の仕事の上に火華の様な活躍を示されたことは衆知のことであるが、これは全く生前先生の心身共の健康から來てゐると思ふ。

晩年にあられても先生の知識慾の旺盛さは若者を凌ぐものがあり、同時に專門に關しては勿論、專門外のあらゆる方面に亘つても、先生の博學さ智惠袋の大きさは、全く唖然たるばかりであつた。先生の氣魄は思考より先づ進取であり、計畫より先づ實行であつた、如何なる事物、如何なる環境をも先生獨特の方式に攝取し、消化して手早く自身の知識、技術、生活の量とせられた先生の容積の大きさは全く驚くの外はない。

先生は平常繁忙のため酷使し乍らも肉體にはまるで無關心の様であられたが、それだけに先年先生の健康は人も知る巖の様であつた。そして旅行好きで、夏は暑いところへ、冬は寒いところへ行

くのだと言はれ、事實寸暇を利用しては、それを實行してをられた。その頃の潑溂たる先生の俤を思ひ出すと、まことに暗然たるものが湧いてくる

しかし昨年來急に疲れが見えた樣に思はれ、どことなく老境に入られたかに感ぜられてゐた昨年暮に、たまたま法隆寺管長の不慮の重態が傳えられた時、先生は餘程之に心を動かされてゐられた樣で、その數日後、人は何時不幸に逢ふか解らない、常に健康には注意せねばならぬ、とつくづく述懐せられたのを思ひ起す。「佐伯管長はよく助つた、普通人であれば到底助からないところだがやはり高僧には、肉體的訓練の外に、特種の偉大なる精神的力があるからだ、人の健康には生理的と同時に、精神力が必要だ」と語つてをられた。

そしてあの不慮の日の數日前迄靈燦たる微笑を見せてをられたのに、今や幽明境を隔てゝ、再びあの慈顔に接せられないとは、まことに惜しみてもあまりあるところ、前後を考へ合せて再び暗然たらざるを得ない。謹んで冥福を祈り度い。

（昭13, 2. 18）

不　言　の　訓　へ

元　良　勳

未來への希望に生きるのを青年の特徴とするならば、正に武田先生は永遠の青年であつた。

人間敎えて老境に入らすとも、所謂「好き昔」をのみ喋々と語る者の何んと多い事だらうか。過去を懐しむ心持ちは元より誰れにだつてある。記憶の美化は人間通有の感情でもあらう。しかし、現前の仕事とガツチリ取り組んで、その將來への展開を望み樂しむ者にとつて、過去は單に過去である。現實との因果的關聯に於いてのみ意味を持つてはゐるが、切り離された過去と云ふものは思慮の外にある。たゞ、展開せられんとする未來こそ、其の人の希望であり、又生命であるのだ。

過去の思ひ出にのみ優越を感じ、甘美な慰安を見出すと云ふやうな事は、此の現實の苦闘を逃避して殊更らに眼を外らさうとする最も卑怯な態度である。とは云ふものゝ、既に人間としての務を一通り成し遂げた老人にまで、未來に生きよと云ふのは酷であらう。しかし若くして尙現實を逃避しやうとする人々の何んと多い事か。

武田先生のあの力強い肉體は老人を以つて遇するには餘りに若すぎたかも知れない。しかし、七十に垂んとする御歳は老人として考へるのに不足はなかつた筈だ。しかも尙、先生は決して過去を語られなかつた。

私達は先生の生ひ立ちを知つてゐない。先生の學生時代の逸話めいたものも聞いてゐない。又高等工藝時代の事に就いても殆んど知識を持ち合はしてゐないのである。實に10數年殆んど20年に近く先生に師事し、先生と語り、先生を眼の當りに見てゐながら尙且つ之れだ。勿論他の人の口を通して多少の昔のお話しも承知はしてゐるものゝ、先生の口を通して語られた先生御自身の思ひ出なるものは、先づ一つも無いと云つて好いだらう。

之れは驚くべき事である。

吾々若輩から先生の御心境を臆測するなんかは誠に僭越至極ではあるが、此の事實を通じて之れを見るとき、先生には常に、誠に突然の御逝去の其の時まで、將來へ對する希望に燃えてゐられたものと斷ぜざるを得ないのである。

驚くべき向上心である。

吾々は先生によつて專門的にも亦人格的にも數へきれない程多くの事を敎へて戴いた。しかし此の過去を語られなかつたと云ふ不言の訓へこそ、最も大きな御敎訓ではなかつたのだらうかと思つてゐる。

今、吾々は此の一つの強い、大きい、そうして常に潑溂と躍動して止まなかつた人格を、遽に此の地上より永久に失つてしまつたのである。此の悲しむべき事實に直面して、私は一私人として、又弟子の一人として、此の偉大な先生を偲ぶより

も、もつと大きい立場から廣く日本文化への損失として博士の御急逝を悼み度いのである。

(13.2.15)

武　田　先　生

新名種夫

×

武田先生は大阪市の囑託として、市の事業のいろいろな方面へ關係して居られたから、學校を出てからも、私は技術上絕えず先生の薫陶の下にあつた。

その間、先生に接する毎に常に先生に見習はねばならないと思つてゐたことは第一に先生の盡きない精力であつた。

滿洲から飛行機で歸られたと思ふと、その翌日には上京してゐられる。東京から夜行で歸られて大阪や法隆寺の午前中の會合に疲れも見せないで出て來られる

何んな手紙にも折返し、時に依ると旅行先からさへ返事を頂くばかりではなく、先生の方から旅の繪葉書などが來て、私の方が却つて手紙の借越しになることさへあつた。

偶々の短い旅行に疲れ、二三通の手紙の返事をさへ重荷と感じたりする先生の若い後繼者達は、先生の前に正に慚死すべしであつた。

×

僕等が輕蔑したり、喰はず嫌ひであつたり、又は卒業した積りで居たりするいろんな展覽會などに對しても、先生は常に興味を以て、努めて見てゐられた様であつた。僕等が近くに居ても見落し勝の朝日會館の催物など、先生の方が餘計に見てゐられた。

×

乘物の中では何か必ず讀書してゐられた。大抵會員が封を切るだけで屑籠行とする學士會月報のなどまで、先生は目を通して居られた。

珍しい挿繪があると書物にぎりぎりに目を近づけて、詳しく細部を吟味せられるのは先生の特徴ある癖であつた。

集會の話の絕え間や人を待合せなどの間に、一つの建築のスケツチが立派に出來上つてゐた。

×

先生の知識の幅はこの様にして廣まり、この様にして進んで行つたのであらう。

だが、これは單に先生の肉體的精力ばかりに依るのではなく、常に時代と共に進み時代と共に歩まうとする、先生の不斷の努力の現はれであつたと思ふ。

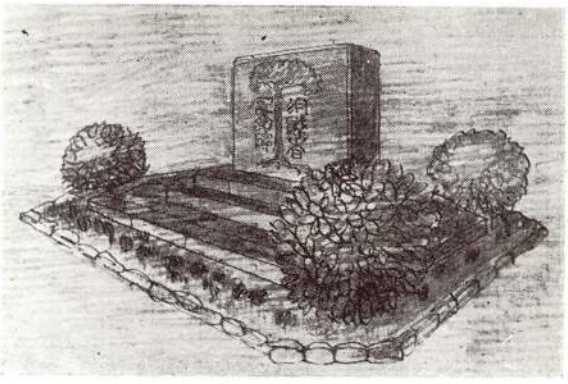
×

教室に於ける先生の講義が先づそうであつた。

一貫した講義の合間々々に、昨日到着したばかりの外國雜誌のスクラツプが新時代の匂ひを織り込んで行つた。

「建築は凍れる音樂であるから、よき建築はよき音樂の理解の下に生れる」と、體のいい理窟を附けて、建築學教室に蓄音器を備へ附けることを申出ると、心よくこれを許されたばかりでなく、教授の諸先生からレコードの寄附さへあつたのは、全く武田先生が居られたお蔭であると思つてゐる

セセツシヨンを初めて我國に紹介せられたのも先生であつた。否、セセツシヨン以前の海外の新建築は殆んど總て先生に依つて紹介せられたと言



昭和12年11月武田博士スケツチ
「桃山病院殉職者慰靈碑」

つてもいいであらう。

ライトやサリバンの紹介に關して先生の拂はれた努力は餘りにも人の知る所である。唯最近までの合理主義的新建築運動に對しては、先生は或程度の反對を表明してゐられたが、最後の外遊から歸朝せられてからの先生は、やはり現代の新建築に對してのよき理解者であつた。

外遊の少し前、大阪市電氣局のI君が地下鐵の停留所の壁に巾木を附けてないのを先生に指摘せられたが、先生の歸朝直後、丁度設計が完了したので、圖面を携行して先生の指示を仰いだ所、「今時こんな所に巾木なんか意味ないよ」と言はれたとI君の話であつた。

×

建築以外の知識に就いても、僕等が飛び切り新しい所を仕入れて持參しても、先生は先にそれを知つてゐられるのみか、僕等の知識の上に更に多くを附加へられるのが常であつた。

但、時に感嘆久しくした後から、先生の知識のお里が知れてダアとなることも無いではなかつたが。

曾て「デイーゼル・エンヂン」が船舶に用ひ初められた頃、生半可な僕の言ひ出し屁に對して、先生の專門的に詳しい說明に接して恥しくも恐縮したことを今でも忘れないでゐる。

×

先生が新しい發明品や特許品などを進んで推奬せられたことは寧ろ先生の趣味に近かつた樣である。

最近の特許だといふ樣なものを、折に觸れてポケツトから取り出しては、一入溫顏を崩されながら用法など說明せられた。

ローロステイブルとかラピツド・ルール等の名稱で今日ではいくらでも賣つてゐる、あの鋼鐵製の物尺がまだ獨逸でしか出來なかつた頃、みんなの前でスルスルと延して見せて、羨しがらせたのも先生であつた。

新大阪ホテルの現場の箱番で、暗闇でも字が書ける樣に、點燈裝置のある萬年筆を見せて下すつたのも先生であつた。

一應說明したあとは、暫し樂しそうに一人で裝置をいぢくつてゐられる先生の姿が今尙瞼にある

夏の食料品の店頭にくるくると廻つてゐる50糎位の鐵力の片を飴棒の樣に捻つて、兩面を赤や青に染めた蠅除け、あれで發明者が四萬圓儲けたといふ話から、日本に於けるビロードの消費額は下駄のはな緒が筆頭であるといふ話まで、先生の知識は凡そこんな方面にまで廣がつてゐた。

×

天華靴が初めて賣出された頃である。先生は非常にこれを推奬せられ、久しい間自ら進んで穿いて居られたから、先生のお宅を訪問する學生達は玄關の天華靴の存在に依つて、先生御在宅の有無を判斷したものである。

武田先生と天華靴、これは今も尙僕等の記憶の中に消えやらぬ一つの聯想である。

×

先生は亦、新しい建築材料の優劣を判斷し、これを世に紹介することが、建築家の一つの任務であるとして居られた。それが先生の樣な立場にあるものゝ建築界の進步に貢獻する所以であるといふのが先生の持論であつた。

こうした意味から、新材料が現はれると進んでその工場を視察し、その製造工程まで研究せられた上、よいものはどんどん人にも紹介せられた。

從つて先生を名附親として世に現はれた新材料は決して少ない數ではない。

全然アメリカ製であつたテラコツタを、我國のものとする爲に先生が如何に力を致されたかは、普く人の知る所である。

×

本年正月號のアーキテクチユラル・フオーラムは、自らの編輯になるフランク・ロイド・ライトの特輯號であるが、その冒頭と最後にタリーシン

の工房に於て、ライトを中心として和氣藹々たる弟子達の寫眞を掲げ、そのヘヂイングに——

「タリーシンの、朝な夕なに行はれる意味深き光景」——

といふ様な意味が書かれてゐる。

叡山を遠望するあの押し潰した様な製圖室の圖板を圍んで、4Bの鉛筆をT定規と同時に動かしながら、瞬く間に美しい繰型を描き廣げて行つた先生の手許を、みんな驚嘆の眼を以て眺めてゐた

それは京都の建築學教室で、先生を中心として「朝な夕なに行はれる意味多き光景」であつた。

今先生既になく、世に據り所を失つた感じは決して僕一人のものではないであらう。

恩師の俤と線

霜鳥之彦

恩師武田先生御在世の時の事を憶ふと、先生の姿が色々の形ちで今私の記憶のスクリーンの上に浮び上つて來る。

最近しかも御逝去のたつた四日前に——四日前と言へば病床に呻吟される御容子をと普通なら考へられ相な所であるが、いつに變らぬ若々しい元氣旺盛な體軀を悠然と淡い好みの和服に包んで先生は私達門下生の或さゝやかな夕食の會に出て來られた。そのまた二十日ばかり前にも或宴會で私は先生と座を共にした。その時も和服に袴をつけて居られたが晩年の先生は和服がよく似合つて居た、その寛いで時々冗談を交へては傍のものを笑せながら談笑して居られた溫容は私の瞼の裏に一番瞭然と燒きつけられて居る先生の最近の畫像である。

夫れから遡つて私は色々な場合の先生の容姿を思ひ浮べるのであるが、一番古いもので、しかも非常に判然と私の印象に強く殘つて居るのは、たしか明治の36年であつたと思ふが、先生が最初の留學を終えて、私の母校京都高工に敎授として歸つて來られた當初の先生の俤である。高工も吉田に創立されたばかりの時であるし、先生もまだ若かつたに違ひないが（其時の生徒の吾々は無論先生を若いなどゝは毛頭感じなかつたばかりか、其頃新歸朝者と云へばその畏敬崇拜の度たるや到底今日の比ではなかつたのである）丁度アールヌーボーがセセツシヨンへと移り代つた時で、先生の講義と實習指導では線の妙味と云ふものが私の腦裡に深く刻み込まれた事を思ひ出すが、その力強い線を思はす様な恰形で、外國仕立ての襟のつまつたヅボンの細い黒つぽい洋服に黒いソフト帽を中折れでなく山をつまんで尖らしたのを被つて、紙巻莫を咥へて颯爽とした足どりで何か考へ事でもして居る様に一人で校庭をコツコツと大股に歩いて居られた、その特殊の形が非常に強く私の記憶に泌みこんで居て、今だに忘れられないのである。

此私としての最古と最近の二つの異つた先生の風貌容姿を思ひ較べると、一つは極めて尖鋭的な感じで、一つはまた極めて圓みと太さのある豐かなものであるが、此兩方を繋いで考へて見ると、其間にまた極めて自然にリズミカルな一つの力強い線の形成を考へて見る事が出來る。細く鋭い線からだんだんに圓みを加へ、太さを增してカーブを作るその線の行き方——これが亦丁度先生の仕事、生活、それに伴ふ時代相をも表現して居るかの様であるし、同時に學生の頃よく聽かされた所謂いゝ線を描きつゝあつたと思ひ併されるのである。

その線が然し太くなつたまゝでまことに突如として、急にポツンと消えてしまつた今の感じである。若し立場を替へて私が先生であつたなら、

「君、此線をコンナに急に切らないでもいゝぢやないか、もつと延長して見給へ」

と云つたに違ひない、地下の先生が之れを聽かれたら、果して何と云はれるだらうか。……

（昭13. 2, 19）

武田博士を追想す

松本儀八

ありし日の武田博士に就て追憶をものする様にとの事である。先生が建築家として學者として教育家としての公的方面の事に就ては餘りにも周知の事であり、又何れ他の方々から筆にさるゝことゝ思ふので、私は先生の私的方面に就ての一端を追憶して見度い。

二月六日朝まだきに京都からと云ふ電話で先生が昨夕急逝されたといふ知らせを聞いた私は、今更の如くに驚いた。それといふのも其一週間程前には私は先生と先生の常宿である東京赤坂の旅館に同宿して27日の晩の11時には東京驛まで先生の元氣な姿を見送つたので、夫れが最後の別れであつたかと思ふと何としても呆氣ない様な氣がする私が先生を知つたのは、今を去る30餘年前の事、當時私は學生として教えを受けた事に始まる。爾來今日まで永い年月何くれとなく指導を受けた。又殊の外昵懇にも願つて居つたが、先生は稀に見る几帳面で極めて情誼に厚い人だと常に敬意を拂つて居た。先生は又人と一端約束した事は必ず之を實行するといふ主義で終始された。そは當り前の事とは云ひ條、なかなか實行出來にくいむづかしい事である。が何事によらず人と約束する折には、手製で不細工な裝釘になるあの分厚いノートに必ず書き留るのを慣例とし、何時誰の前でも無遠慮にコマメに約束事項を記されて、オサオサ實行を怠らぬ様心懸けて居られた。夫れから手紙のやり取りにしても返事の必要なるものは無論のこと、格別返事を要せない事でも、即座に返事を出すといふ立前で、先生の言葉を以てすれば書面は口談の更りである、相手が話掛ければ事の如何に拘らず返答をする事が禮儀である、口談する時には返事を要し、手紙であれば返事がいらないと云ふ道理はない筈だと。之も一寸眞似の出來ない事で、先生をよく知る人は必ずや思ひ當る事だらうと思ふ。稍もすればズボラ勝に陷り易い吾々には何時も教えられた。大正三四年頃であつたかと思ふが、約二ケ年の日子を費して先生と共著で住宅建築に關する著書を公にした事がある。其當時校正や打合せを當方から一度出向けば次回には必ず先生の方から出向いてくるといふ風で、誠に義理堅い几帳面な所が横溢してゐた事が今に思出される。又人の面倒をよく見る人で、一度賴まれると斷る事をよくせないと云つた性格の持主であつた晩年でも其爲めに相當忙しい目に遇ひ、又夫れで頭も使つて居られた。又先生と一緒に屢々旅行をしたが、旅館に落付たり料亭などで夕食を共にした折々、召使、女中達が寄つてたかつて色紙や扇面を厚釜しく運んでくると、たとへ深夜に及んでも、厭な顔とても見せず乞はるゝまゝに堂に入つた得意の南畵をものしてやると云ふ按配であつた

又先生は接すれば接する程味のある人情味細やかな人で、晩年は特に一徹な所謂有勝な學者肌の殻から拔け出した様、如何なる方面にも如何なる階級の人達にも肌障りの良い三面六脊的な圓熟さを湛へて居られた。つまり間口の廣い、奥行の深い感じを一入深くした。そして包容力豊かで人を信じて人に任せ得る雅量ある人であつた。先生の所謂第三期の老後の住居たる（京都市上總町現在の家）を晩年構へるに際し設計から施工に至る擧げて自分に一任され、竣工まで殆んど無干渉の體であつた。本職の建築家で然かも自分の邸宅を人任せにするなどこうした事はなかなか出來ない事である。先生と旅行を共にして聊か風變りの感がするのは、何時も輕便な安全錠を持つを常として居られた。夫れは和風の部屋で寢に就く時内部から之を使つて部屋を絶對に遮斷して睡眠を完全にするといふ譯なので、建築家として面白い體驗をして居らるゝものかなと思つた事がある。先生は一面多趣味な人で、繪と云へば南畵、油繪共に素人の域を脫し、最近暇々には自畵自刀自版の木版

印刷にも興味を覺えて相當熱心であつた。尚演劇と云はずトーキーと云はずこうした色んな方面にも理解があり、夫々一家言を有して居られた事も思出さる。以上は在りし日の武田博士を側面的に私的方面から思ひ浮べた追想の一端に過ぎない。

兎角先生は稀に見る精力家でもあつた。常々先生が病氣と云ふ事はあまり耳にした事はなかつたのに、突然にも春未だ淺き二月五日と云ふ日を一期とし天壽を藉さず溘然として幽明境を異にするを想へば轉た人生の無情を禁じ難い切なるものがある。在りし日を偲んで之を追慕し謹んで冥福を祈る次第である。

武田五一先生

藤原義一

二月一日急に御氣分が惡くて法隆寺よりお歸りになつたと聞いて、少し氣がかりになつてゐたところ、段々良くなられたと承つて一先づ安心してゐました。それが忽然として亡られたのですから驚くにも悲しむにも未だ本當の氣がしません。

夢なら早く醒めてほしい。あの告別式のことも本誌の追憶のことも、皆夢であれ、嘘であれと日夜念じて居ります。先生の德をたゝへ思ひ起すといふにも、あまりに生々しすぎて云ふべき言葉も出ません。

先生の德を語れば、10年先生を知る人は10年かゝり、20年先生を知る人は20年を要するでせう。先生の御日常すべてが德であり、比類なき偉業でありました。

先生の御生活はまことに豐富多彩でありまして空行く雲も、路傍の草も、先生には研究の對象となり、興味を寄せられ、それが建築となり、裝飾となつた實例は數知れません。森羅萬象は先生の前には皆眞の姿をあらはし、皆それぞれの價値特色を認められました。これは恐らく先生の最も偉大なところであつたでせう。世のすべてのものを溫くうけ容れられ、それぞれ存在の意義を認められる。先生の寛仁大度に感激せぬものはなく、殊に自分等の如き取柄の少いものは、どれだけ有難かつたか知れません。

先生の居られるところはいつも春風漂ひ、潑溂たる青新の氣に滿ちてゐました。大學御退官後もまことに樂しくのどかな中にも、絕えず新鮮な發展を追究されてゐたのは、我々の常に感心し手本ともしてゐたところ、その古建築の權威とし、法隆寺をはじめ、大いに我が國寶建築の保存事業に貢獻せられ、一方には新しい建築界の高峰を仰がれ、豐かに華やかに、新鮮溢るゝ名建築の數々を創作されたことは世の知るところであります。

法隆寺佐伯定胤貫主の授けられた御法名「竹風院殿天來大建居士」はよく先生をあらはされたものと思ひます。

近年殊に御多忙を加へられた中にも、自然に處して愈々瀟達、その恬淡な御性格、天衣無縫の御心境はこれこそ眞の悟道三昧境かと存じ、天地が覆つても先生の御長壽を疑ふものはなかつたのであります。昨年來、私のことに關して一方ならぬ御心勞をわづらはせ申したことがあり、先生の御急逝は私としても感慨無量のものがあります。

（昭和13年2月20日）

武田先生を憶ふ

岡田孝男

先生の溫顏がまだ目の前に見えます。寒い時には、いつも「まあ此方へ來たまへ」と御居間の大きな炬燵に招ぜられて、興味深いお話を承つたものです。

先生は家庭でも、たえず何かして居られて、ぼんやり考へ込んだり、靜かに休んで居られるところを見たことがありません。スケツチしたり、手紙を書いたり、切り抜を作つたり、話をしながらでも樂しそうに手を動かして居られ、まるで疲れ

と云ふものを知られなかつた樣です。

いつまでも壯年の御氣持でしたが、肉體の方も不老で、頭髮も三四年前までは黑々としてゐましたし、又お眼も健やかで少しも衰へず、逝去の前日迄細かい字でも眼鏡なしで讀まれました。よく電車の中で部厚い文藝春秋など讀んで居られましたが、たえず新しい知識を求めて居られたことは驚くばかりで、展覽會や陳列會は大抵逃さず見に行かれるし、映畫も芝居もなかなか詳しく、よく見に行かれました。勿論、見學など喜こんで行かれるし、集會にも大抵は都合して出席されましたそして先生の居られるところ、必ず春風駘蕩として快い笑聲が起つて居ました。

記憶力が强く、一度會つた人はその姓と共に名を必ず覺えて居られました。從つて各方面に知人の多いことは驚く程で、誰にでも誠心誠意對談されましたから、會つた人はみな感服した樣です。

大ざつぱな所があつて、大學の書辨當に饅丼ばかり三年間も續けられ、小便に注意されて始めて「そうであつたか」と變へられた逸話があります

そうかと思ふと、氣に喰はねばさつさと引上げる稚氣もありました。まだラヂオが珍しかつた頃三越の屋上に放送室があつて、放送者はガラス張の室に入つて放送し、一般の人はこれを珍しそうに見た時代があります。先生は俺は見世物にはならぬと云つて、放送を斷はりさつさと歸られたので、放送局員が大まごつきしたことがありました今は物故された大阪市長の關さんが、その日の夕方これを知つて手を拍つて喜ばれたと云ふことをきゝました。

偉大な先生はこの外いろいろの優れた斷面を持つて居られました。事が私的方面に亘つて恐縮ですが、先生の門弟を慈しまれることは我子の如くで、就職の面倒から遂には嫁を見つけ出す心配までしていたゞきました。先生の御手數を煩はした者は建築學科を出た者だけで16組もあります。

先生はいつか對談に「夫婦喧嘩でもして別れ話を持ち込んだら、遠慮なく、離れ給へと云つてやる」と笑はれたことがありますが、幸に16組はみな圓滿にやつて居ますから、今のところその心配もありません。藤居、藤原、吉田の諸君が夫々落着いて最後に棚橋君が昨秋結婚してから、先生も傍近の獨身者の世話もいらなくなり、ホツトされたことゝ思ひます。私は先生により職を得又妻も得ましたので、老舖の暖簾を分けてもらつた別家であると心得、毎年12月13日には事始めの祝餅を持つて行く習慣でしたが、昨年は事の外喜ばれ、「古い習慣だがいゝ氣持のものだ」と漏らされたので、16組の人々にもこれを通知しやうと思つて居たところです。

先生の溫顏がなほ眼前に髣髴して逝かれた樣にも思へません。（13年2月15日）

武田先生

吉田信武

武田先生のお宅へは時々お伺ひした。それも夕食時の直前突然繰込むので始末が惡い。あとで考へて見ると恐縮の外言葉がない。それにも拘らず先生は微笑を以て例の「ヤー失敬々々」と歡迎して下さつた。我々の行儀の惡いことは先生よく御存じで、先生の前に正しく座らうとすると「君、樂にし給へ」と云つて下さる。あとで奥樣から聞いたのであるが、平素先生は殆ど正座されてゐたのである。我々が固くならないやうにと故意に先生も足を崩して御座り下さつたのである。又先生は近年喫煙をされないのに、我々が參上すると早速煙草をすゝめて下さつたのである。

先生は決して他人に物事を强ひられない。にも拘らず、我々の事をよく思ふて下さる。先達小さな單行本を先生の御校閱を得て出版したのであつたが、御多忙中にも拘らず一字一字目を通して下され、赤インクを以て入念に御訂正下さつた。先生は常に公務御多繁であり、知人門下生も數限り

ないのであるが、絶えず一人一人の事をよく考へてゐて下さつてゐて、將來の方針其の他萬事に就いて懇切に御指導下さつた。否今尚下さつてゐると信ずるのである。

永遠の青年

東畑謙三

武田先生にお目にかゝる時にいつも私は先生の歳のとられないことを不思議に思つた。誰しも還暦を迎ふれば氣分には勝氣を見せても、肉體的な老境はありありとわかるものであるが、先生には相變らず潑溂たる元氣で弟子の中には老眼鏡をかけたり、胃弱で苦しんでゐる人もあるにも拘らずそれを尻目にかけて微細なる圖面をみたり、人一倍健啖振りを發揮したりしてゐられたのである。豈に肉體のみならんや。先生は學者としてその建築計畫の態度において、又專門學の研究の態度において、又弟子に對する指導の態度において、いつも變らぬ若々しさをもつてゐられたことは私の思慕の念やまざる點である。あの齡で誰かあの青年らしさをもつ建築家があらうか。

若き時代の先生は諸先輩より噂に聞くのみであるが、私は大正の末期に學生として御教授をうけ引きつゞき數年親しく御指導にあづかつたものであるが、この時代の先生には計畫態度に大きなるなやみ、而も青年らしきなやみがあつた樣に思はれる。今日からみれば既に歷史に屬するが、大正の末と云へば新構造學の勃興時代で、ことに鐵筋コンクリート構造の發達は計畫意匠をいつ迄も舊套におくわけにはゆかなかつた。若き學生の中には親の心子知らず的振舞をする人もあつた。元來武田先生は水彩畫の非常に達者な方であり、又スタイルの御造詣の極めて深い方であつた。學生の意匠計畫の指導はすべてこのスタイルを以てせられた。ことにゴシツクやロマネスクのデテールに至つては圖紙の端にかゝれるスケツチすらも貴重な能率であつた。畫ごころのなき學生の中には先生ゟ教へを聞かない人もあつた。繪は一つの遊戲的存在であるとして。この時先生はいつも言はれた繪にしろ、スタイルにしろ、それは立派なる建築の型體を創作するための一つの手段にすぎない。立派なる建築の型體は建築材料の進歩や、移り變る時代の要求に超越して存在するものである。もし新知識を以て優秀なる作品が出來得るならば嬉しきことであるとて釋然とされてゐた。教をきかざる人をにくまず、弟子にはいつも又誰れでも白紙を以て指導する師こそ尊敬思慕の師である。否先生御自身もなやんでゐられたのだ、先生の机の上にはいつも日比さんの鐵筋コンクリート學の書物がのつてゐたのである。

過去を語らず現在を以て總てを律すると云ふことも齡老ひたる人には出來ないことである。建築も科學の一分野であるならば、建築家も亦過去を語らぬ科學の精神をくまなければならぬ。武田先生は不思議に青年の樣に過去を語られない方であつた。先生の遺作をみるときにその時代に出來た新材料を大膽に、然も勇敢に使用されてゐる。その上寂をつけづに剝出しに使用されてゐる。

新京極の街頭にあるスヅラン燈や同志社講堂にある葡萄型シヤンデリヤ等をみるとき、あの童心ある作品が還暦を迎へた所謂老教授の作とは誰れが思はれるだらうか。

近代建築の始祖と云はれるオツト・ワグネルをオーグスト・ルツクスが批評して永遠の青年と稱した。ワグネルの作品集をみると勃然とおこる戰闘意識がありありと見られるし、又實際ウインに於てその作品を目のあたりに見ると材料の使ひ方に非常な生々しさを感する。すでに日本流に云つた還暦をとくに迎えた人の作品とはどうしても思はれないものがある。武田先生こそ全くこのワグネルに匹敵さるべき永遠の青年である。思慕の念やまざるものがある。

武田博士遺作　京都電燈株式會社



日本赤十字京都支部病院





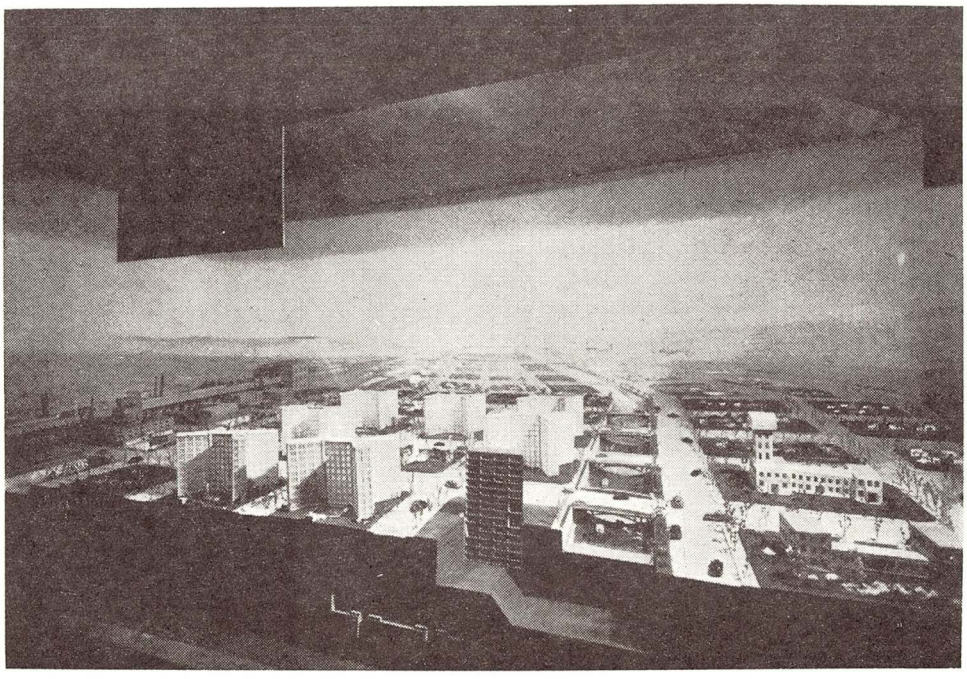
東方文化學院京都研究所



同志社女學校光榮館

防　空　展　覽　會　開　催

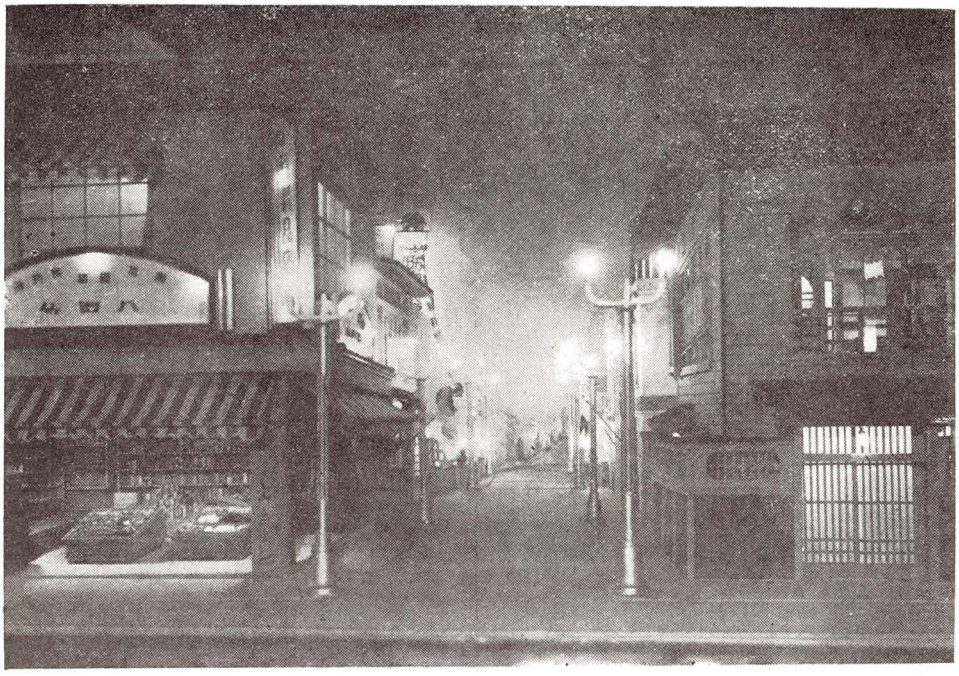
一般國民に對し、燈火管制、消防、防毒、救護等に關する實物、模型、標本、解說圖、寫眞、統計表等を展示し、特に實際に則したる防空上の智識の啓發を圖り、其の關心を昂めしむるを目的とする防空展覽會は、中部防衞司令部、大阪府、大阪市、日本赤十字社大阪支部の共同主催、大阪朝日新聞社、大阪毎日新聞社の後援を以て、自昭和13年3月1日至同6日の6日間、大阪市大丸百貨店に於て開催せられた。其の內容は之を大別して、防空概觀、燈火管制、消防、防毒、救護、實物住宅模型、其の他（防空と都市計畫、防空と建築、防空と工場）としたのであるが、何れも主催者並に後援者側よりの出品にかゝるものである。茲に其の數場面の寫眞を揭げ、防空の參考に資し度い。



明　日　の　都　市　試　案

之は衞生、交通、經濟上は勿論防空上の考慮を拂はれた都市建築への一提案である。都市中心部の構造物は總て之を耐震耐火構造となし、建築物は之を高層化して多分の空地を殘す。交通、通信、動力諸機關は可及的之を地下に埋設し、地下室と共に空襲下の安全を期す。向つて右手は住宅地帶、左手は工場地帶であるが、其の間を運河、綠地等を以て遮斷せんとするものである。

一街路を例に採り、平時、警戒管制時、空襲管制時に於ける、屋內屋外各種燈火の管制方法を模型



燈火管制の方法

にてあらはせるものである。各種管制狀況を順番に展開し、係員によつて詳細之を說明せしめたものである。



實物大住宅模型

老人1人主人夫婦子供2人計5名の家庭に於ける空襲時の人的配備並に物的施設をあらはしたものである。防護室の目張法、電燈の隱蔽法、遮光幕、防毒蚊帳、砂、水、梯子、防空箱、防毒箱、其の他消火、監視等に對する注意事項を具體的に展示せるものである。



ガス空襲の惨害狀況模型

毒瓦斯撒布に依る慘狀を示せるもので、完全に防毒設備資材を整備し、周到なる人的訓練を實施せる場合と無防備無訓練の場合とは比較展示せるものである。模型ではあるが防毒面、防毒衣の着裝狀況等をも正確に示したのである。

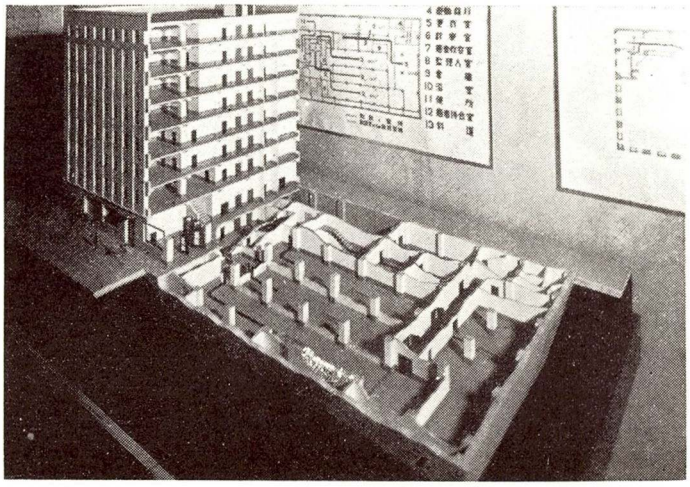
一般に高層建築の防護室を考へる場合は、新に建築さる建物に對するといふよりむしろ既設のものを如何にすべきやと云ふことが重要なことになつて來る。本案いさゝか此の要求に答へる意味の試案である。

計畫の條件として大體左記の如き假定を前提とした。即ち

1. 建物は鐵骨鐵筋コンクリート造にして、各窓には防火用鐵製シオツターが設備してあること。
2. 空氣調節の裝置及自家發電裝置を有すること。
3. 便所は凡て水洗式にして防護室用にも利用し得ること。
4. 收容する人員はビル內の人々に限定すること。

以上の如き好條件の基で、大阪市の或るビルを物色して、それに對して具體的計畫を進めた。

建築面積
2.064.9平方米
延面積
18.422.9平方米
構造
鐵骨鐵筋コンクリート造
階數
地上8階、地下2階、計10階
防護室の位置
地下1階
收容人員
950人



高層建築の防護室試案

之は大體30人を收容するものとして設計したもの概要次の如し。

1、構造、鐵筋コンクリート造、耐彈設備をなす。

2、面積、約24.3平方米

内　　譯

イ、出入口、1 平方米

ロ、前　室、約 3平方米

ハ、用水及器具類室 1.5平方米

ニ、收容室、約18平方米

ホ、便所及非常口、0.8 平方米

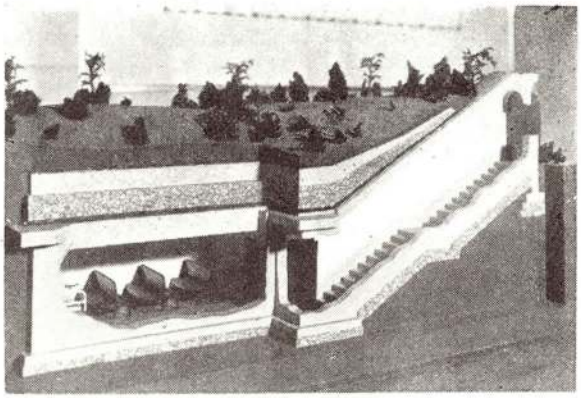
1.出入口及開口部

彈丸・燒夷彈・瓦斯彈等に耐ゆるべき鐵板製防護室扉を設け、防毒遮蔽裝置をなす。

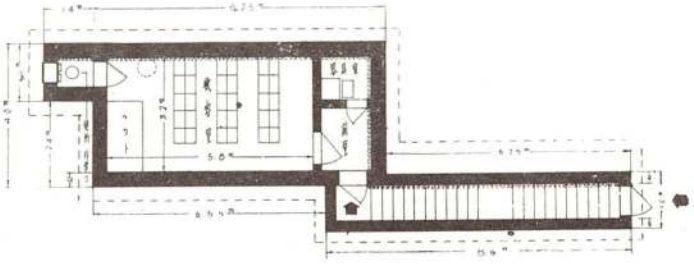
1.非常口、鐵梯子を使用する

1.收容室、家具類の他に衣類、戸棚、藥品箱、各種器具用品等を備ふ。

公衆用獨立防護室試案



同平面圖



本協會指導支那防毒室模型出品

大阪朝日新聞社主催「支那事變聖戰博覽會」は陸軍省、海軍省の後援によつて來る4月1日開場5月30日迄兵庫縣阪急西宮球場に於て開催される。本會は今回南京地方に於ける支那軍部にて現行の軍事委員會防空處製の各々避難所（防毒室）圖形を入手してあつたから之を提供指導の下に株式會社竹中工務店にて實物大模型を施工出陳することになつた。

中支方面防空施設視察員派遣

今回各省の中支方面視察團に本會も加はることとなり上海南京方面に向け左記三名を派遣した。

理事　中澤誠一郎氏　　監事　清水榮二氏　　會員　新名種夫氏

大體の日程左の通り　3月22日午後9時30分迄に大阪驛（西口）集合

同　　10時07分大阪驛出發（櫻）

同23日午後3時06分長崎着　　同24日午前11時長崎出帆

同25日午後1時上海着　　4月7日頃大阪驛着豫定



藤口甚吉

〔1〕**讀書法**　戸坂潤著　4.6版　253頁　昭和13年1月版　三笠書房　1.5圓。著者戸坂氏は、昭和4年に岩波書店の續哲學叢書の一編として「科學方法論」を處女作として書かれ、はなばなしく出發された方である。當時この書を讀んでその清新なる記述と精確なる論理に感服した一人であるが、その後氏は唯物論的方面に多大の興味を持たれたらしく、其の後の著作は見たことがなかつた。本書「讀書法」はその題目の故に、通讀するの機を得た。「讀書法」といふと書籍繙讀の案内書のやうであるが、本書は著者の序文にもあるやうに「ブックレビユー」論であり、又著者のこれまでやられた「ブックレビユー」集なのである。

著者が本書をまとめられたのは、その序文にもあるやうに「……ブックレビユーは之まで我國などではあまり重要視されてゐなかつた。評論雜誌は云ふまでもなく、學術雜誌に於てさへ卷末のどこかに雜錄風に載せられてゐるに過ぎなかつた。それもごく偶然に取り上げられたものが多くて、ブックレビユーといふことの、評論としての價値を高く評價してゐるとはどうも考へられないのである。これはどう考へても間違つたことだと思ふ現に外國の學術雜誌では……學術雜誌でなくても……ブックレビユーをもう少し重大視し、尊敬しなければならぬ。……」「……要するにブックレビユーなるものは出版物としての本を紹介批評するわけであるが、問題はその本が出版されることの文化上の意義、その本に含まれてゐる思想や、見解や研究成果の文化上の意義といふやうなことを評論することに横はるのである。……」と斯樣な意味の序文9頁に「讀書法日記」「論議」「ブックレビユー」「書評」「餘論」の五つに分けて氏がこれまでに「日本學藝新聞」「唯物論研究」其他の新聞雜誌に載せられた書物に關した隨筆を集められたものである。評論された書は、社會科學、自然科學關係のものが多い。讀んで面白かつたのは「讀書家と讀書」「論文集を讀むべき事」「如何に書を讀むべきか」「論文の新しい書き方」「飜譯について」等である。筆者通讀してから可成り時日がたつたので少し印象がうすれた。

〔2〕**史的研究日本の特性**　栗田元次著　菊判428頁　昭和12年11月版。賢文館　3.5圓　建築評論の世界にも日本的といふ事が多く論ぜられるが讀んでみて、その日本的といふのが如何なる內容を持つのか、はつきり受取れぬやうなのが多い。それは史的研究の行き渡らぬ爲である。本書の著は廣島文理科大學の日本史の教授で、今まで多くの通史を出版されてゐるが、本書はその通史の概論のやうなものである。第一編を民族の特性として國史と國民性、自然性、實際性（非形式性）實踐性（非論理性）血族性、連綿性、全體性、親和性、順應性、受容性、同化性について具體的の史的事實を通じて論じられ、第二編は國家の特質として、國民性と國家、國體、政治、社會組織について述べてゐられる。第一編に相當するものは芳賀矢一博士の「國民性十論」あたりから論ぜられてゐるものであるが、第二編の方は倫理哲學方面に於て論ぜられてきたが、史的事實にもとづいての記述は割合にとぼしかつた。この點本書の特徴が存する。第三編は附錄のやうなもので、日本精神の顯現と題して「最も古くして最も新しき日本」「聖德太子と日本精神」「楠公精神」「豐太閤と日本精神」「五箇條の御誓文の意義」「御大典の由來と其の意義」の五文が集められてゐる。我々が讀んで面白いのは寧ろこの第三編で、大阪に關係深い豐太閤を甚だ痛快にほめてゐる。「……

豊太閤の我が國民に最も愛好された所以は、その天馬空を行くが如き活動や、驚心駭目すべき事功の偉大さも一原因には相違ないが、更に根本的なものとしては、彼が最も偉大なる日本精神の具現者であり、發揮者であつたためと自分は確信する……豊太閤は一言も日本精神を説いては居ないが三百餘年前に立派にこれを體現して居たのである。換言すれば彼は最も偉大なる眞の日本人であつた。彼を尊び、彼を愛せざるものは日本國民を愛せざるもので、眞の日本人ではないと云つても過言でない。日本精神とは我國民固有の性情の精粋に外ならぬ。我國民の性情の最も根本的なものは自然な素直な心であつて、このため形式に泥まず實際的であり、理論に捉はれず實行的である。……形式に泥まず實際的であつたこと秀吉の如きは古來稀に見る所であつた。……」私も日本人の特性をその論理思想の方面よりとらへやうとして日本人の論理思想の最も發達して表はれた和算（日本數學）より得やうとして、以前からしらべてゐるが、なかなかまとまらぬ。日本人の特性を美の方面よりとらへてゐる金原省吾氏の業績等建築家は今より一層注目するの價値あらう。

〔3〕 **日本國勢圖會**　矢野、白崎兩氏著　菊判 468頁　昭和13年2月版　國勢社發行　1.5圓

本書は昭和2年版、4年版、6年版、8年版、10年版、と出され昭和13年版は6版に相等する。建築家の方々は全部本書の必要を痛感されてゐると思ふし、又御備へになつたことゝ思ふが、まだの方があれば是非一讀をすゝめたい。由來建築家は常識家である。しかもその常識に系統あらしめ、常識の密度を平均せしむるに本書に及ぶものはない。その道の人なれば主として統計を集めた年鑑風のものによつて、その大觀を得られるであらうが、我々には多くの説明のある本書の方が便利である。私は昭和2年版からの讀者で大いにこの書によつて啓發されたものである。内容は大和民族の中心世界の國々、領土の增減、人口の增減、經濟ブロック……より貿易、農業、工業、商業、物價、金融、保險、海運、教育、平均餘命、災害、附錄に滿洲國の產業、北支の資源等の記述がある。各項につき最新の統計を示し、この統計は種々のグラフによつてその增減が一目にてわかるやうに示されてゐる。記述は極めて平易で、一般人の知識としてこれだけのことを頭に入れて置けば、日常生活には何等の不足を感ぜしめない程度である。我々建築家によつて關係深き項目も數多く、材料の需要供給について、一般經濟事情について教へられる所が多い。雜誌を讀むかはりに讀まれたら大いに有益と信ずる。

〔4〕 **應用彈性學の參考書**　普通の構造力學とラーメンの如き不靜定構造の解法の勉强の中間に彈性學 Theory of Elasticy 或は應用彈性學 Applied Erasticity を讀むことが、ラーメン學をよく理解するに必要のことである。以前は邦文のものなく勉學に困難であつたが、近來飜譯したもの著作のもの等出て勉强に便利になつた。

① **材料强弱及彈性學**　南日實氏著　495頁。昭和8年。養賢堂。邦文彈性學では最も早い書と思ふ。著者は仙臺高工機械科教授。記述平易數値例題も多い。

② **應用彈性學**　野口尚一著　46倍版　339頁　山海堂出版部　4.5圓、本書は①より程度高く數値例題もない。高等數學の豫備知識が可成り必要である。著者は東京帝大教授。

③ **彈性學**（上下）清水篤麿著、菊判、上348頁　下 349—726頁、上昭和11年下 昭和12年版、工業圖書株式會社。上3.7圓下4.5圓、著者は福井高工教授。程度は②と同じ位。說明は②より詳しい。

④ **彈性體の力學**　テイモシエンコ原著、井阪、井崎、森三氏譯、昭和10年に建築工學海外名著集にて譯されしもの。程度は②に相當するが、テイモシエンコ氏のものは實用的で理解が容易である。この外プレスコツトの應用彈性學が土木工學

海外名著集に譯されてゐる。私はテイモシエンコ氏のものゝ方がわかりやすく感ずる。

⑤ **Applied Elascity** Timosenko and Lessells 本書は1925年のもので程度は①に相當する位であるが、甚だ理解しやすいものである。Malkin 氏によつて Festigkeitslehere と題して獨譯されてゐる。私も數年前自分の勉強のため本書を半分以上譯したことがある。④はこれとは別の新著の譯であるが、理解は⑤の方容易である。テイモシエンコ氏の Strength of Materials Part I. Part II. は⑤の講義錄樣のものであるが、此度機械工學海外名著集に飜譯されることになつた。

⑥ An introduction to the **Theory of Elasticity** Southwell 本書は1936年版、509頁の大册であるが、純數學的でなく、實際問題に對する實例もあるので理解は割合に容易である。

⑦ **The Analysis of Engineering Structures** Pippard and Baker.1936年版。本書は純彈性學の書でないが、不靜定構造、殊に立體骨組の解法にはよき書の Pippard の Strain Energy Methods of Stress は1928年版であるが、⑦よりも平易で又實用性大なる書。

⑧ **Mathematical Theory of Elasticity.** Love 本書は彈性學の古典で、上記の何れの書もこの書への入門である。私も十年程前、學校を出るとすぐ買つて勉強しやうと思つたが、このむつかしい本を讀まず、雜書、亂讀で年を經たのである。

〔5〕 **餘 錄** 校正刷に餘白が出來たので、應用數學の程度の低い書二三に對する感想を附して餘白をうづめる。元來、日本に於ける數學教育は純理論であつて、その論理性の純粹のみを尊び我々工學を學ぶものにとつて、その實用性は極めて乏しいものであつた。近時二三の飜譯、創作等の實用數學が表はれたことは喜ばしい。「萬人を數學者にするやうな數學教育は間違つてる」といつた英人ペリーの言と「萬人を技術者にするやうな數學教育も間違つてゐる」といふ高木博士の言も共に眞理だ。然し我々技術者の方には技術者向きの數學の必要はしみじみ感ぜしめられる。次に建築家にとつて參考になりさうな應用數學の書について記さう。

① **工業數學** 福田武雄著菊版501頁 昭和9年版、山海堂出版部 3.8圓本書の著者福田博士は土木の教授で、鐵筋コンクリートの學者であるから我々建築家にとつても大いに參考になる。內容は數値計算より代數、一次、二次等の曲線三角函數微積分まで實用的を失はずに記述がある。

② **實踐數學** 柴垣和三雄著 菊版 636頁 昭和9年版 丸善 5.5圓、著者は日大教授、高等數學初步と實用數學を綜合的に記述されたもの。①よりは內容が多いが、幾分辭書風の書である。

③ **最小二乘法の用ひ方** 久野重一郎著 四六倍版280頁 昭和11年版、養賢堂 3.9圓最小二乘法は實驗公式の算出等には必要。最小二乘法の書を數多くあるが、本書はわかりやすい書である。

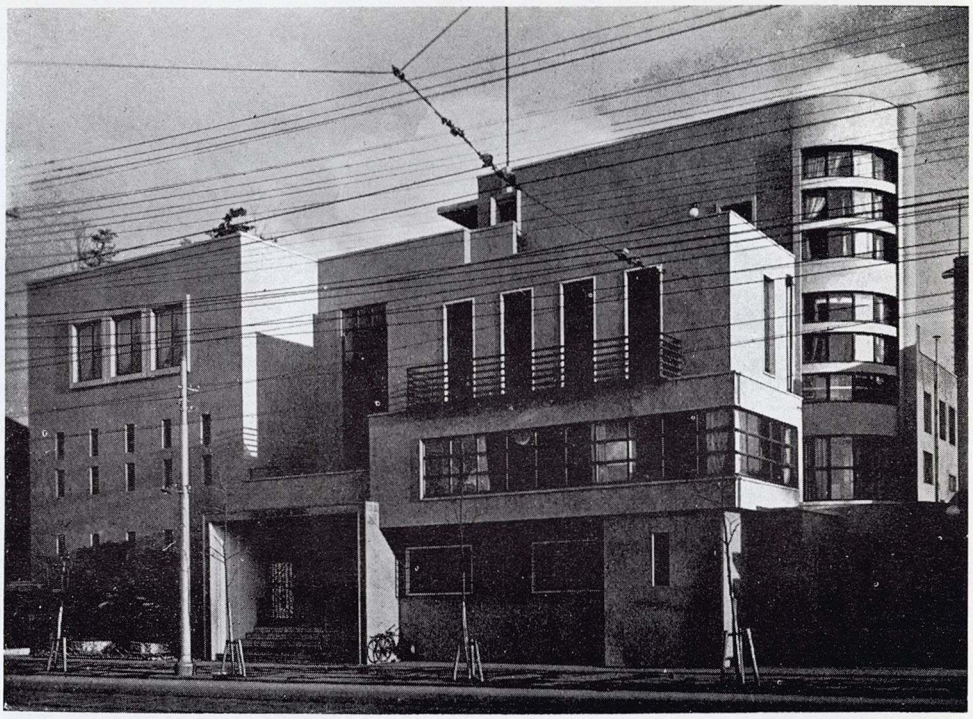
④ **新實用數學** 內田浩著、菊版213頁 昭和11年版三省堂 1.8圓 ①より程度低く理解容易。

其他飜譯書ではペリー初等實用數學、ザンデン實用解析學、圖計算の書では、小倉氏の圖計算及び圖表、谷村氏の圖表學、浦口氏澤圖式及び用器計算法、實驗學には波多野氏應用實驗學梗概、淺川氏實驗工學、竹內氏測定と圖表、松井氏著、工業化學數値計算法等がある。工業數學の少し古いものでは梶島氏工業數學又特色のあるものではスタインメツツの工業數學等がある。

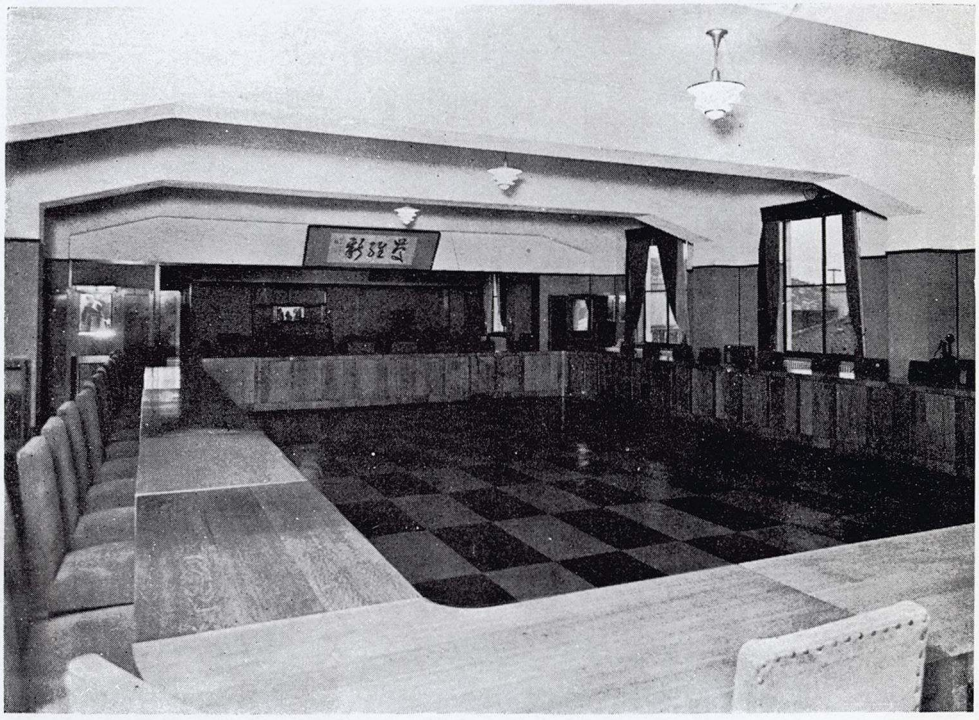
私も菊版 150頁の工業教育高等數學といふ小さい書を、在來の書より可成り變つた材料にてまとめて、本年4月に東京から出版した。

※ ※

※ ※



外　觀



會　議　室

"港　區　役　所"　設計・大阪市經理部營繕課・施工・鴻　池　組



應　接　室



圖　書　室

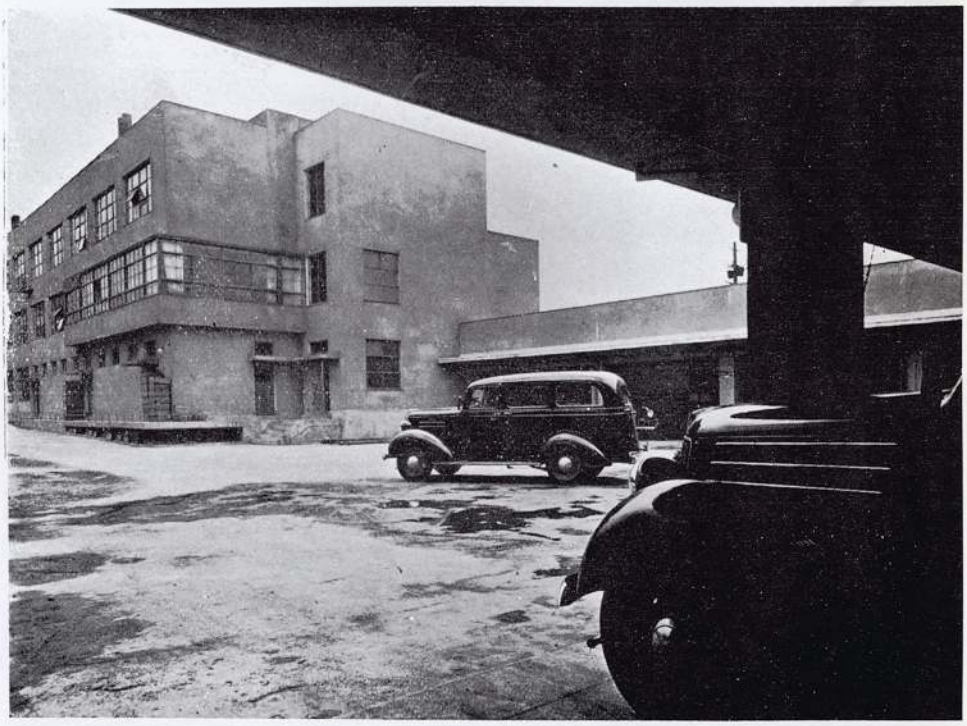
位　　置　港區市岡元町4丁目13ノ2
建築面積　1193.07平方米
延 面 積　3469.794平方米
構　　造　鐵筋コンクリート3階建
　　塔屋及地下室付

IV 2　"港　區　役　所"　設計・大阪市經理部營繕課・施工・鴻　池　組

外　　観



背面及ガレーヂ



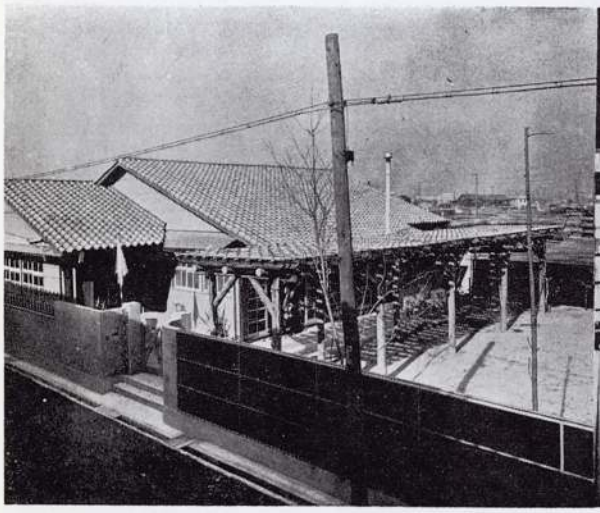
位　　置　天王寺區東上町22番地
建築面積　本館、車庫、汽罐室、藥品庫共
　　970.943平方米
延面積　1.997.073平方米
構　　造　鐵筋コンクリート造



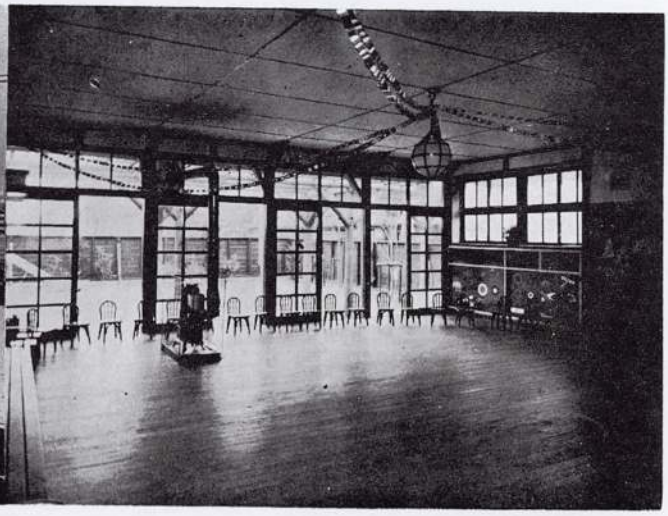
野里質舗外観

位　置　西淀川區野里町
建築面積　125.5平方米
延建築面積　341.8平方米
構　造　鐵筋コンクリート造3階建塔屋付
施工者　大室義一

泉尾託兒所
位　置　大正區泉尾濱通4丁目3番地
建築面積　174.59平方米
構　造　木造平家建　屋根S瓦葺
外部縦羽目ペンキヌリ及一部モルタル掻キ落シ仕上ゲ
設　計　大阪市經理部營繕課
施　工　合資會社宇和島組

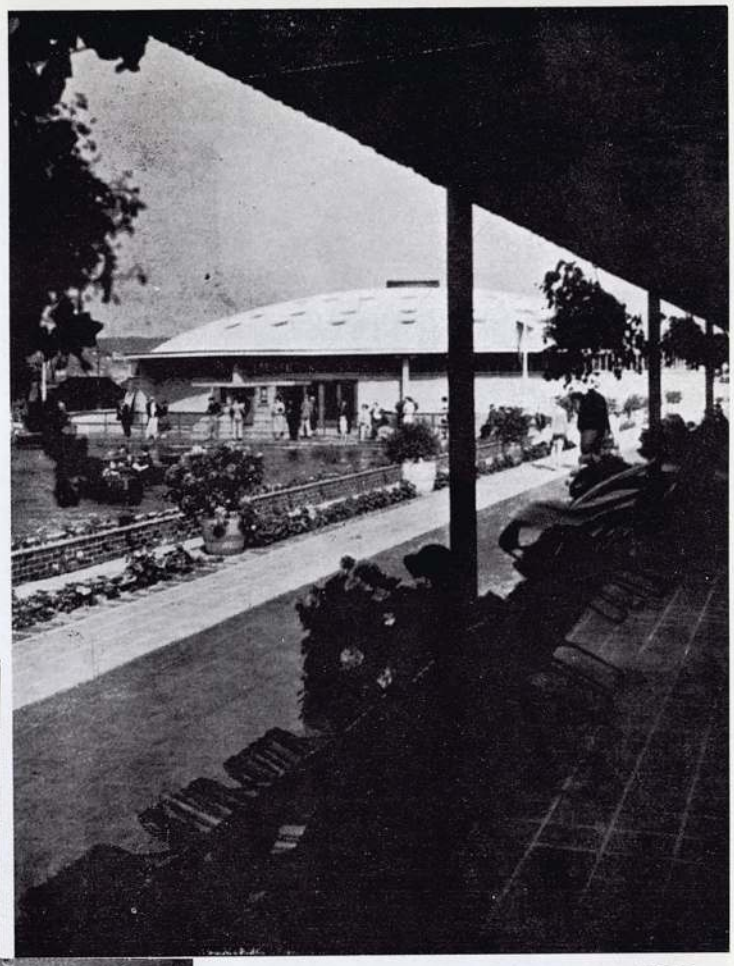


泉尾託兒所外観

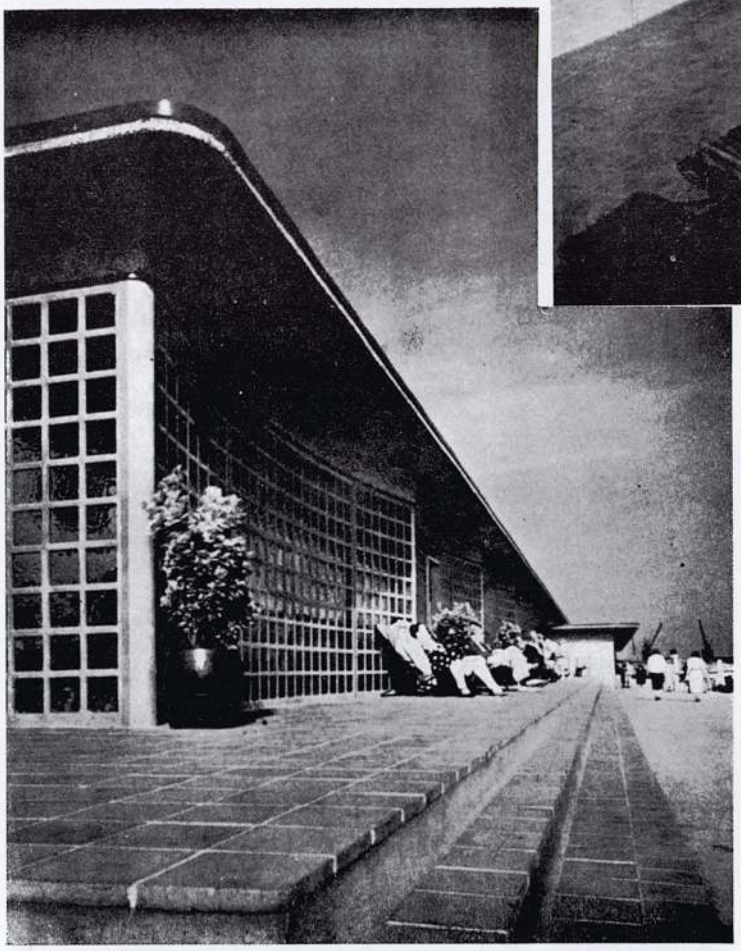


保育室

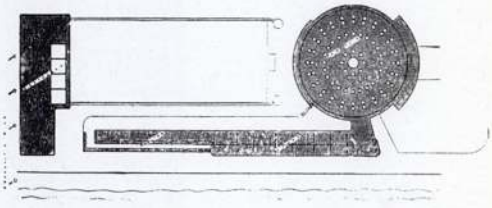
Architectural Review, Feb., 1938 より



海側より休憩所を望む



プール及圓形遊戯場を望む

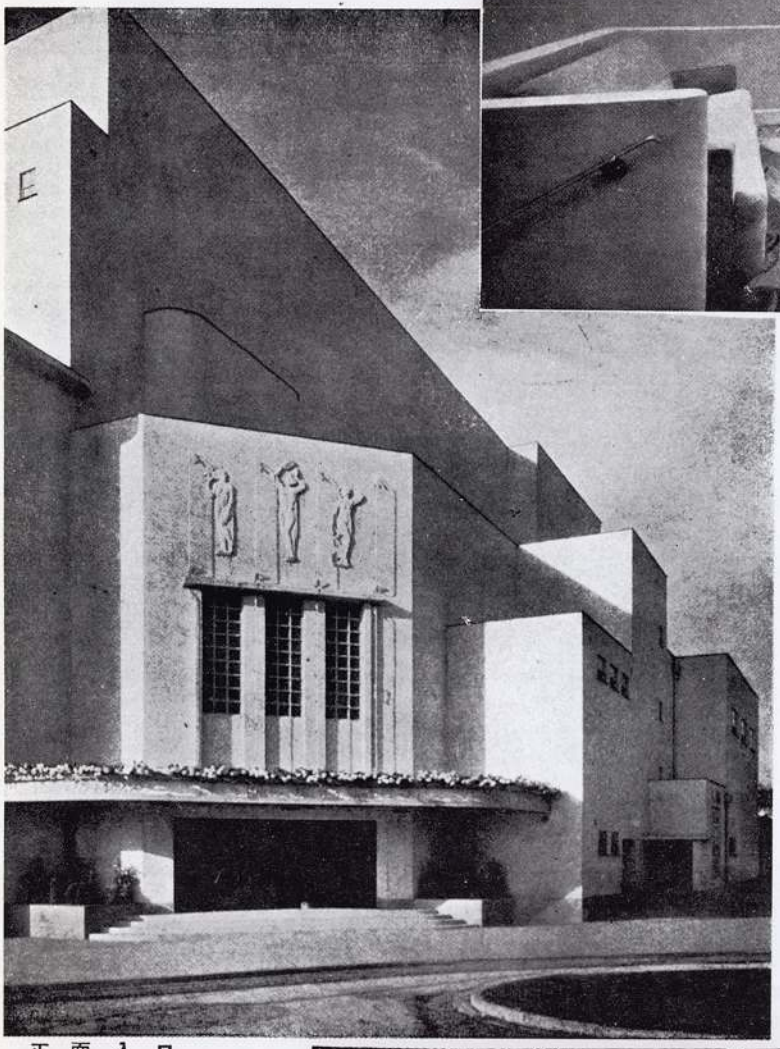


配置圖

（イギリス） Foreshore海水浴場の娯樂設備　　建築家 D. Pleydell - Bauverie



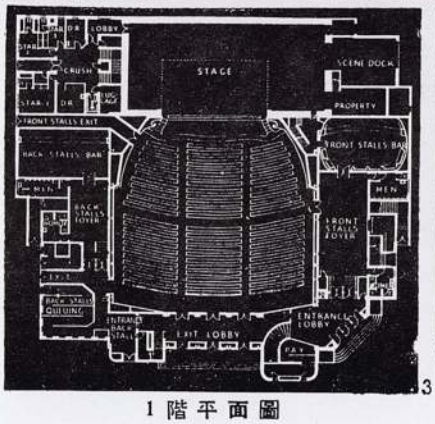
2 階遊歩塲及ミルク・バー



正 面 入 口

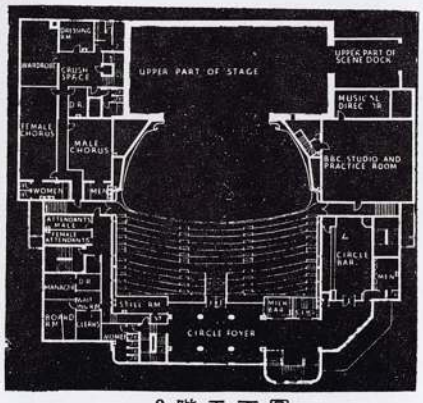
劇塲兼用の映畵塲であるため、大道具部屋、男女コーラス部屋、放送兼音樂練習室等があり、又客用のバーが2ケ所もある。オーディトリウムの音響設計は Hope Bagenal 氏の手になつたもの。

(Architectural Review, Jan., 1938 より)



2

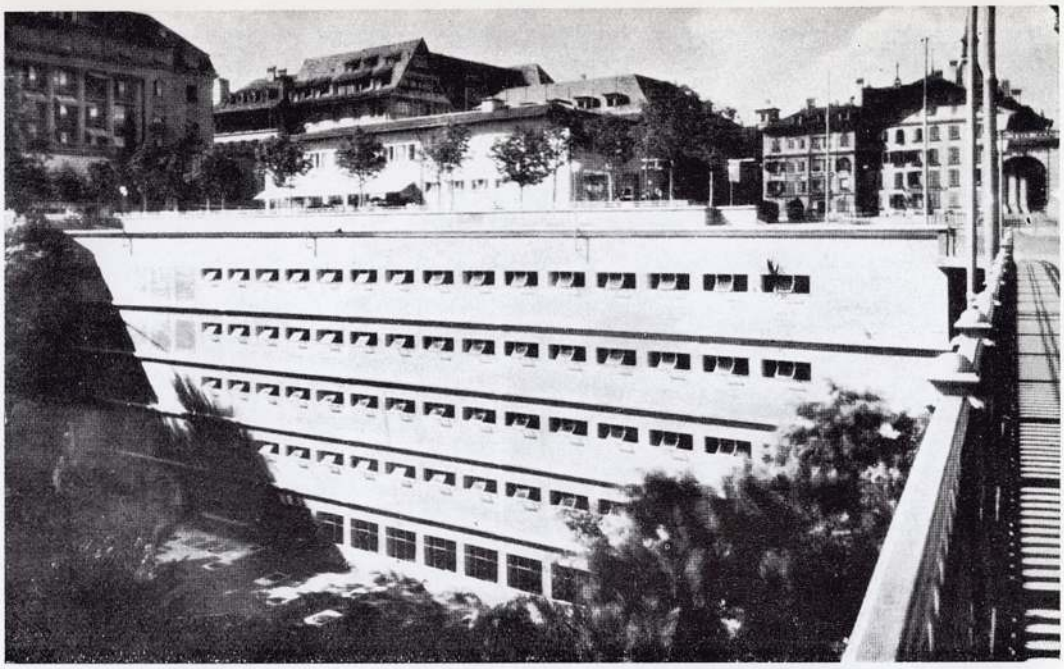
1 階 平 面 圖



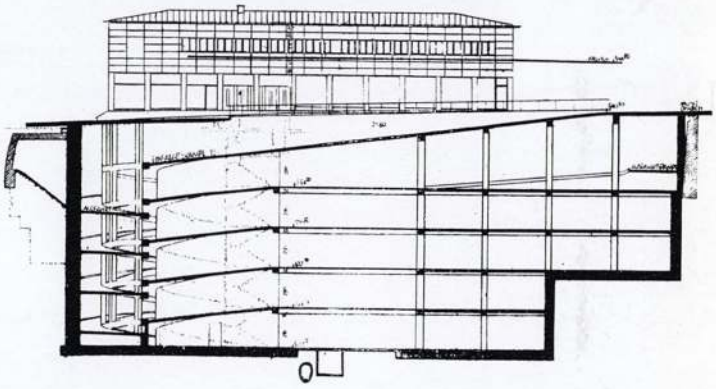
3

2 階 平 面 圖

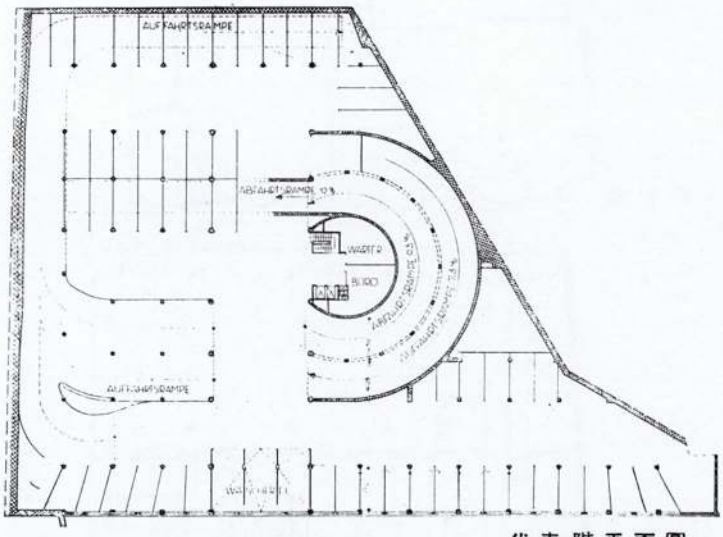
IV 6 (イギリス) 映 畵 館 建築家 W. S. Hattrell



外　　觀



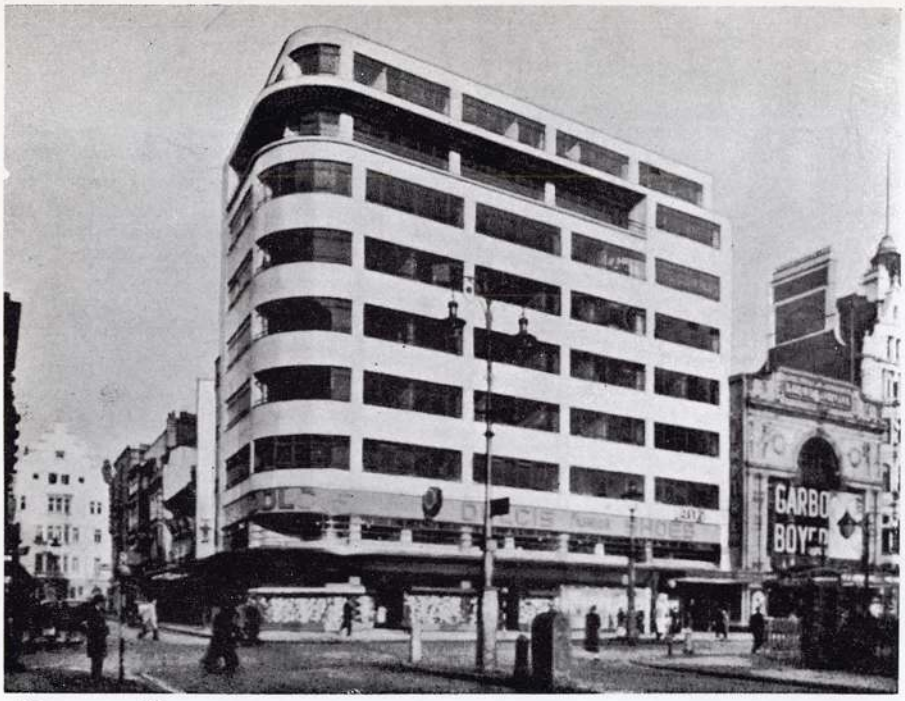
斷　面　圖



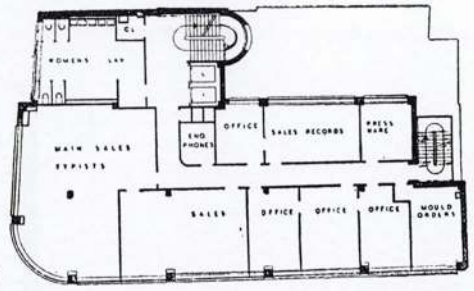
代表階平面圖

路面より下にあるガレージは珍らしい例である。ベルン市のカジノ廣場に出來たもので河は治水されて洪水の來る恐れが無くなつたのだらう。河岸の凸所を利用し、一面を河岸にさらして居る。從つて3方はコンクリートの壁で1方の窓のみから自然採光して居る。

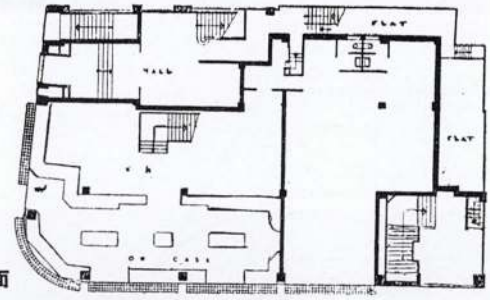
(Moderne Bauformen, Fec., 1938 より)



外　　観



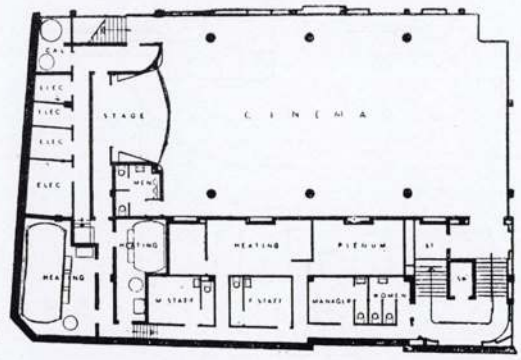
2階平面



1階平面

一階は商店，上階は事務所地階には映畵館がある。外装はポートランド石のブロック張。

（Architectural Review, 1938より）



地階平面

IV 8 （イギリス） レセスター街の事務所建築　　建築家 Winperis, Simpson 及 Guthrie



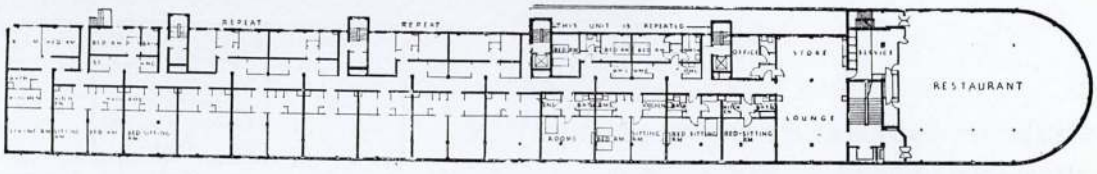
外 觀 1



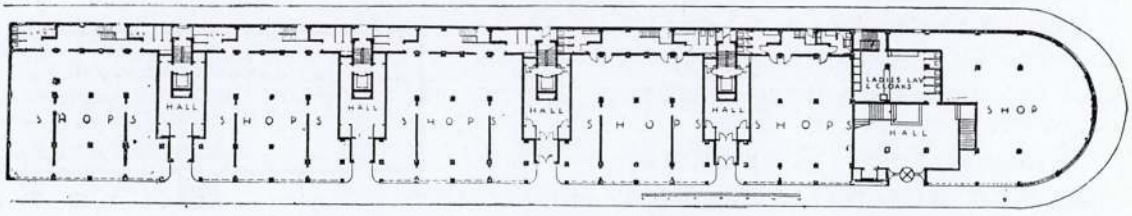
外 觀 2

建築家 Dalgliesh 及 Pullen 鐵骨煉瓦造床空洞ブロック建14階建のアパートで敷地の關係上、建物は非常に細長い。1階は店舗、2 3 階東端はレストラン 4 階東端は喫茶室、其他の部分がアパートである。

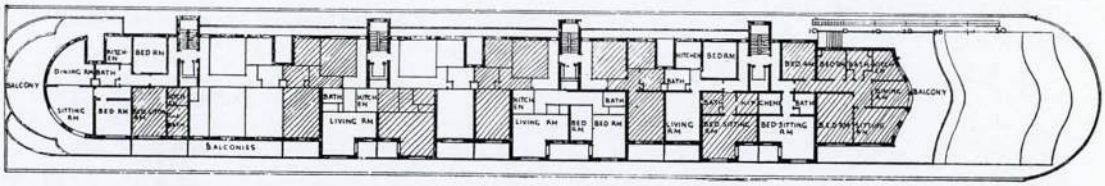
(Architectural Review, Feb., 1938 より)



10 階 平 面 圖

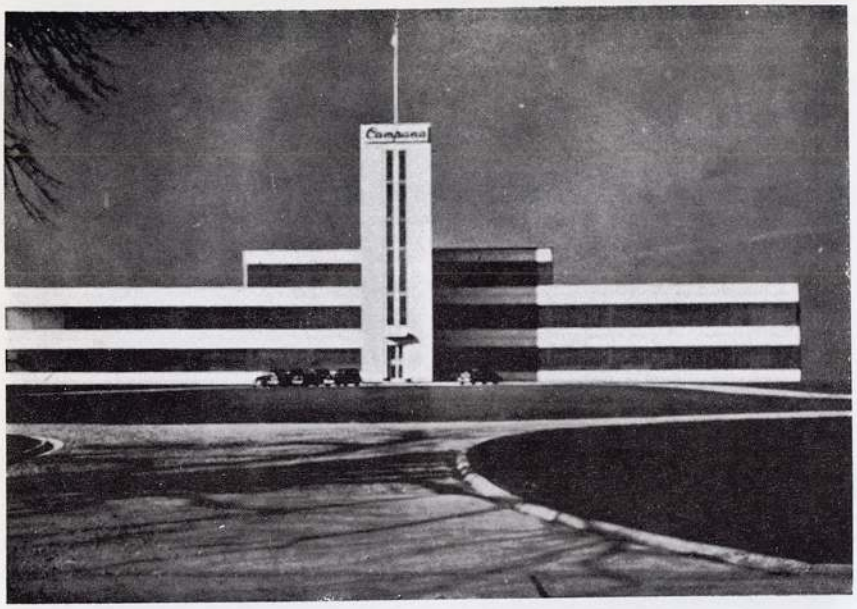


2 階 平 面 圖

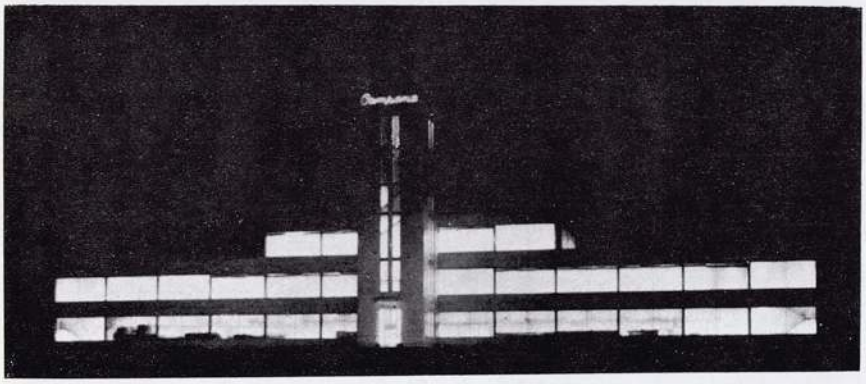


1 階 平 面 圖

(イギリス) 海岸のアパートメント　　建築家 Dalgliesh 及 Pullen　9 IV



外　　觀



夜　　景

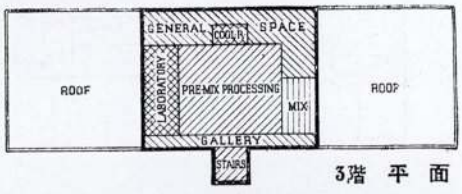
幹線道路に面した曠拓な敷地に建てられ、その特異な外觀が、工場内で製造せられる化粧品の廣告に非常に役立つてゐる。

工場内の生産工程は全く機械化せられ、建物も完全にエヤコンデイショニングが行はれてゐるから、窓は全部グラス・ブロツク嵌込みになつてゐて一向差支ない。

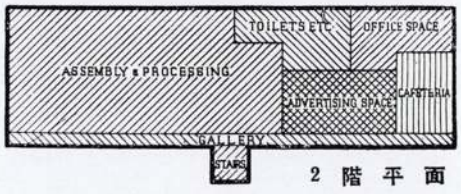
1 階は全部倉庫になつて居り、2 階及 3階に工場、研究室、事務所、食堂等が設けられてゐる。2 階、3 階のギヤラリーからは總ガラス張のスクリーンを隔てて、内部の製造過程が見られる様になつてゐる。

鐵骨コンクリート造、白色テラコツタ・タイル仕上

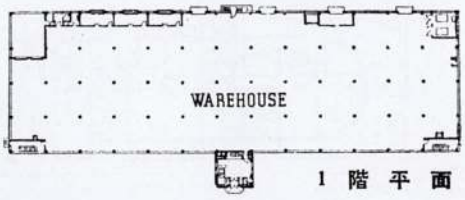
(Architectural Forum, Feb., 1938 より)



3階 平 面



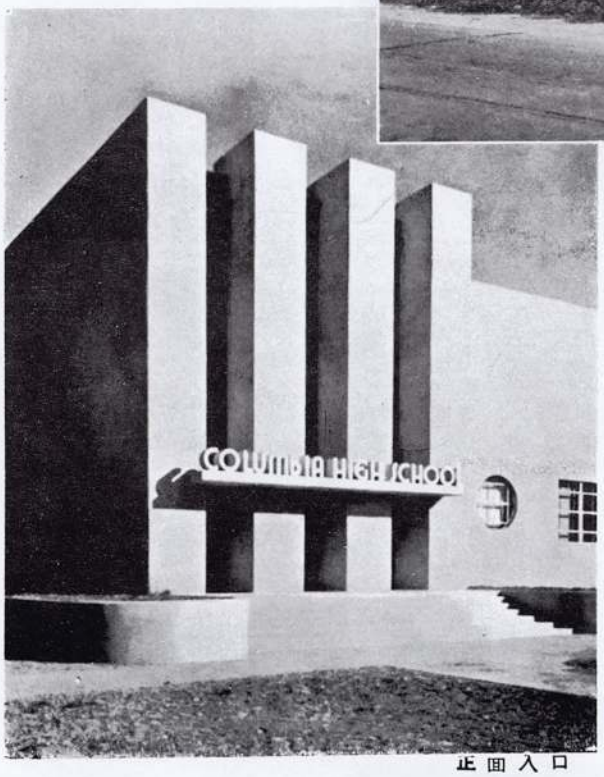
2 階 平 面



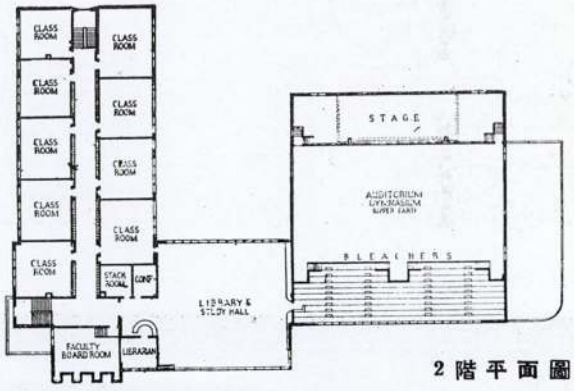
1 階 平 面



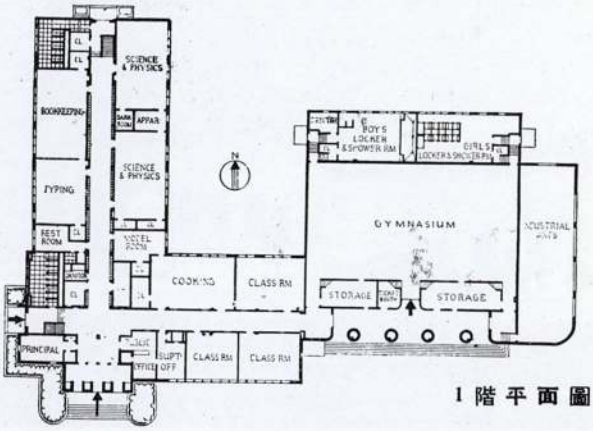
外　観



正面入口



2階平面圖



1階平面圖

傳統的なアメリカ西部地方（ミツシツピ州）に建てられた、モダーンな學校建築として興味がある。

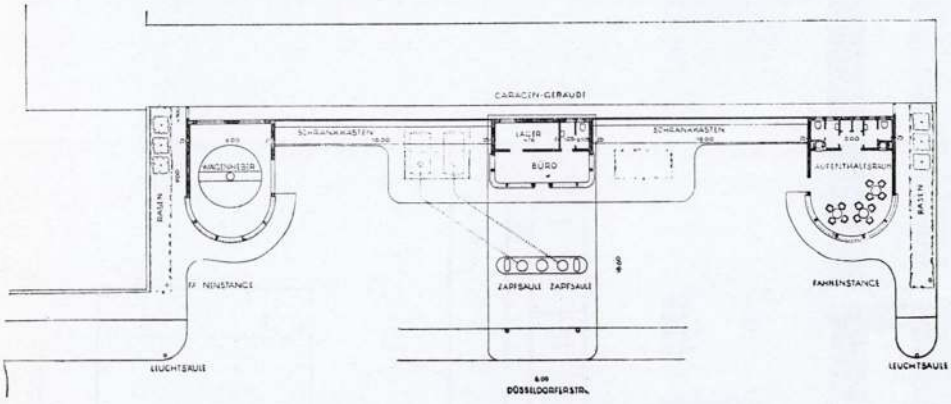
アメリカの新しい學校の大部分がそうである様に、この學校も公會堂の目的にも使用せられ、その爲にギムナジウム・オウデイリウムは教室の部分と完全に區分出來る様に別個の出入口を有してゐる。

構造は鐵筋コンクリート造、白色モルタル仕上。容積1,143,883立方呎、工費127,401弗。

（Architectural Forum, Feb., 1938 より）

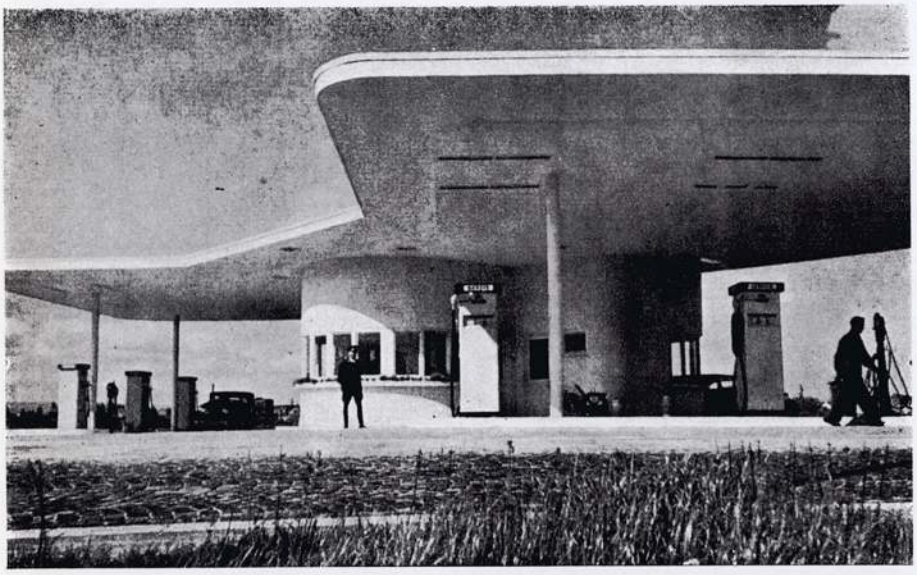


1



2

1 は獨逸帝國染料會社の Leuna-Benzin を賣るスタンド、デュッセルドルフとケルンの間にある。有名な Bayer の商標が附いて居る。2 はそのプラン。

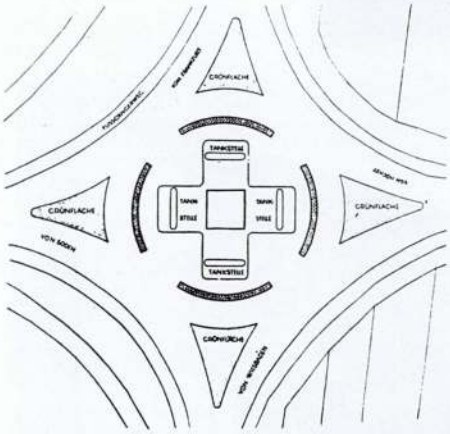


3

フランクフルトの自動車路にあるスタンド



4



5

4 はフランクフルトとウイスバーデン間の十字路にある給油スタンド。5 はその十字形のプランで中央に 2階建の事務所がある。建築家 Martin Simon 設計。6 フランクフルト市内のスタンド Ernst Balser 設計。

(Moderne Bauformen Feb., 1938 より)



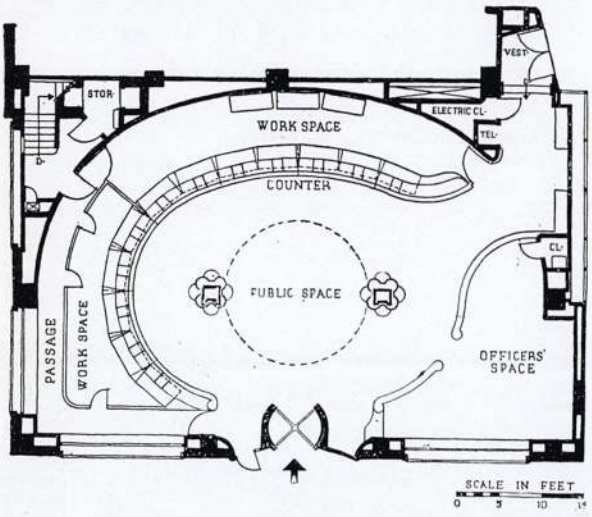




6



外　　觀



平　面　圖



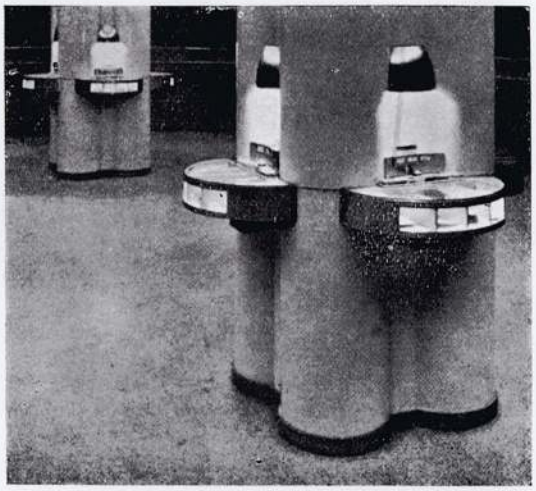
出　入　口

2つ共ロツクフエラー廣場に新しく竣工したもの。挿圖に見られる如く、プランから各部の意匠まで、同じ系統の銀行支店であることを表現する爲に、兩者非常に相似た取扱ひを行つてゐる。特にプランに於ける客溜りと營業室との取扱ひは面白いと思ふ。

兩者相似た取扱ひの例を擧げると——スクリーンのないテラゾー仕上げのカウンター、客溜りの爲立柱の陶器樣エナメル引鋼鐵被覆、同樣な出入口、類似の色彩や照明器具等。

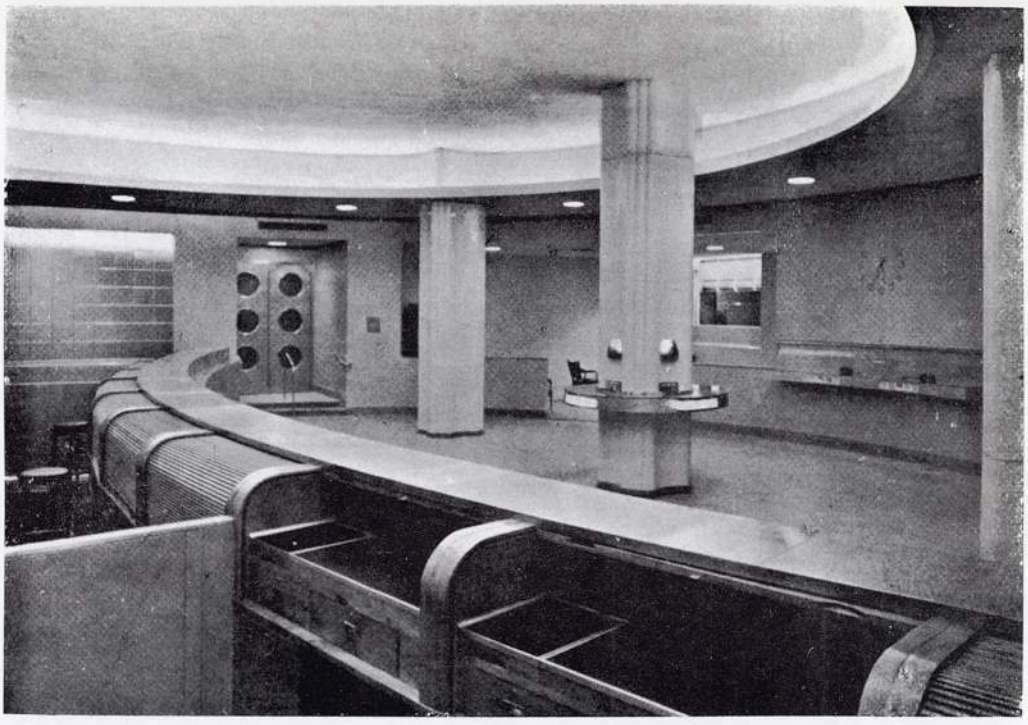
中でもニツケル・シルバー張のニツチ狀の出入口、特に獨立柱のエナメル引鋼鐵被覆は材料の新しい用法として注意に値する。

(Architectural Forum, Feb., 1938 より)

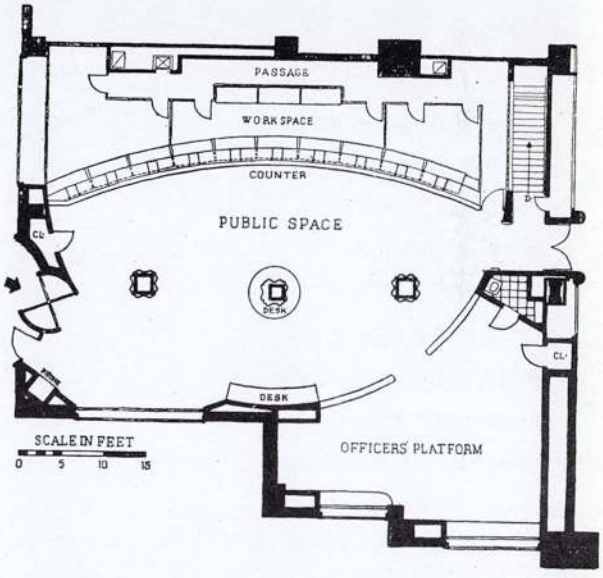


獨立柱の照明裝置

IV **14** （アメリカ） チエース・ナシヨナル銀行の新支店——第9ロツクフエラー廣場のもの
建築家 Reinhard 及 Hofmeister



外　　觀

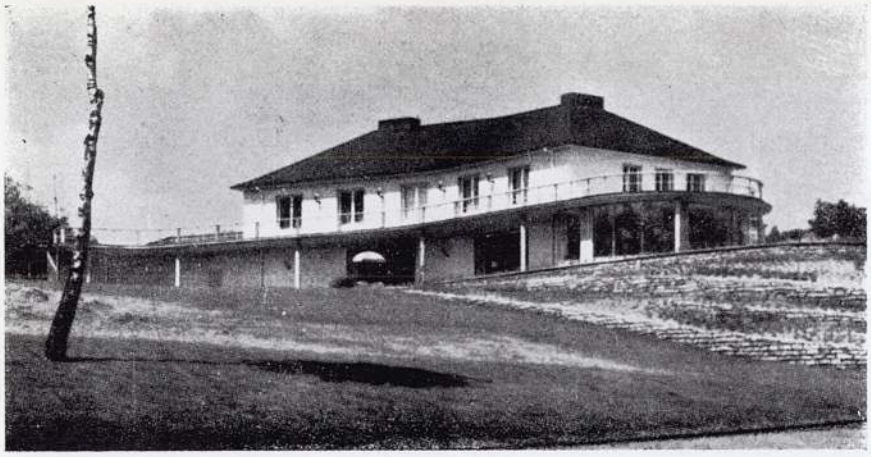


平　面　圖



出　入　口

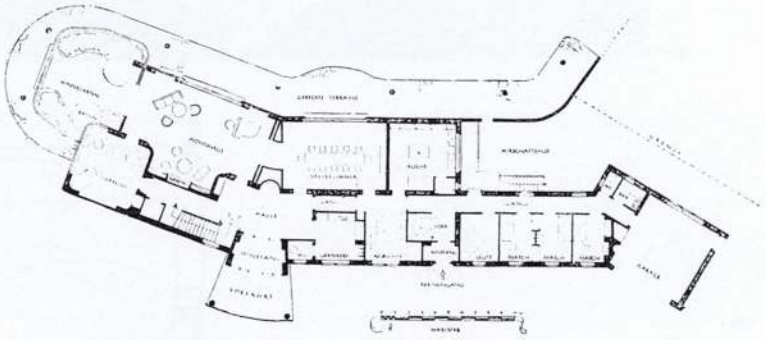
（アメリカ）　チエース・ナシヨナル銀行の新支店——第45ロツクフエラー廣場のもの
建築家　Reinhard 及 Hofmeister



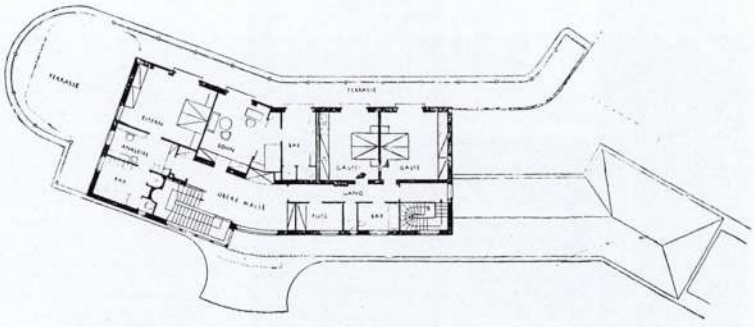
外　　觀

ブレーメン號の内部裝飾で名のあるBreuhaus教授の作ひと頃盛んにもてはやされた陸屋根の、インターナショナル系の住宅に代つて、ナチス・ドイツになつてからは、所謂傳統派の急傾斜の屋根を持つた住宅が、雜誌に澤山載る傾向がある。此住宅は丁度その中間を行くもので外觀は大きな屋根小さい窓の獨逸傳統式であるが、内部は明け放しのインターナショナル形式を持つて居る。

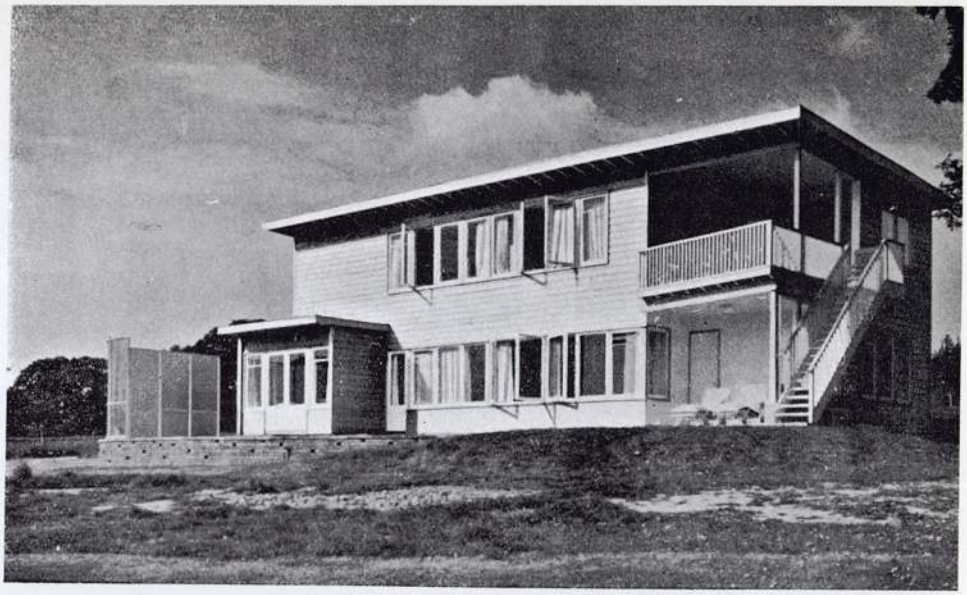
(Moderne Bauformen, Jan., 1938 より)



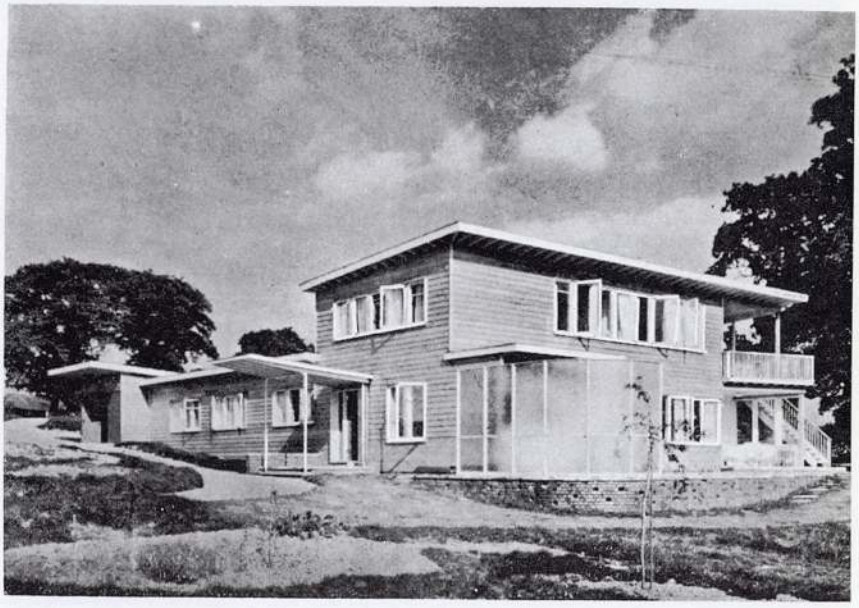
1階平面圖



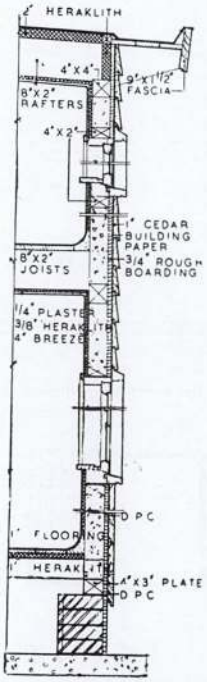
2階平面圖



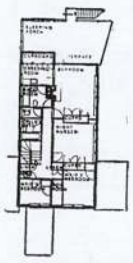
南側外觀



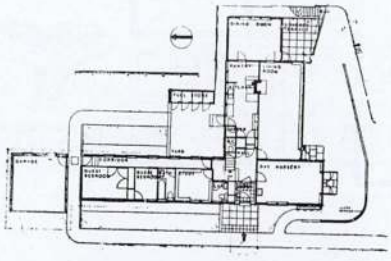
西側玄關



矩計圖



2階平面圖



1階平面圖

軸組、外壁、建具共木造で、外部下見板は杉生地のまゝペンキを塗らず、子供室外の塀は半透明ガラスで、風除けの目的で設けられたものである。

(Architectural Review, Feb., 1938 より)



門よりの遠望

廣いそして或程度不規則な敷地に建てられた近代的住宅。

鋼鐵と煉瓦とを用ひ、最近の建築に有り勝ちの「現代的」な裝飾の一つもない極めて素直なデザインである。

窓割も外觀に捕はれることなく室内の必要をその儘に表現したもので、階上及階下のテラスと共に自然な外觀を作り出してゐる。

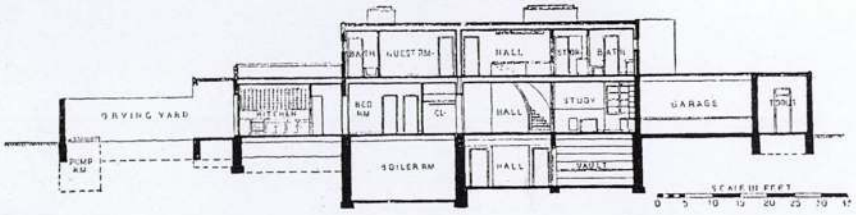
室内も外部と同樣に簡單な意匠に終始し、照明器具、ラヂオ等も建築の部分として取扱はれ、殆んど全て取附けの家具は勿論、その他の卓子や椅子等まで全體の調和を亂さない樣に注意が拂はれてゐる

この意匠及裝飾の合理的取扱ひの代表的なものは居間であらう。裝飾的要素は最小限度に限られ、室内雰圍氣の主調をなすものは廣い窓からの眺望である。

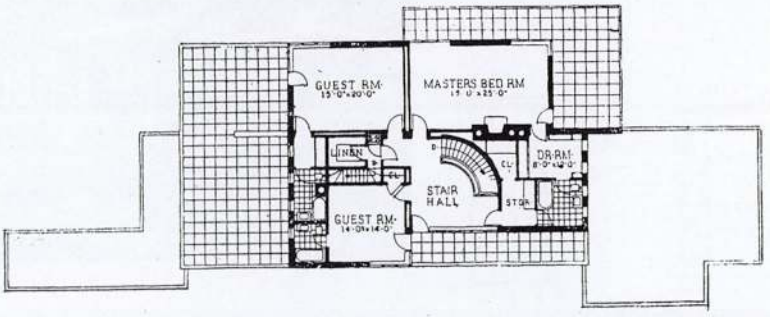
室の配列も非常に便利且コムパクトに出來てゐるが、中でも最も注意すべきは書齋や調理場の樣に外からの騒音、内からの臭氣等を防止する必要のある部分に特にグラス・ブロックを使つた點である

自然石の基礎の上に鋼鐵で補強された煉瓦造。

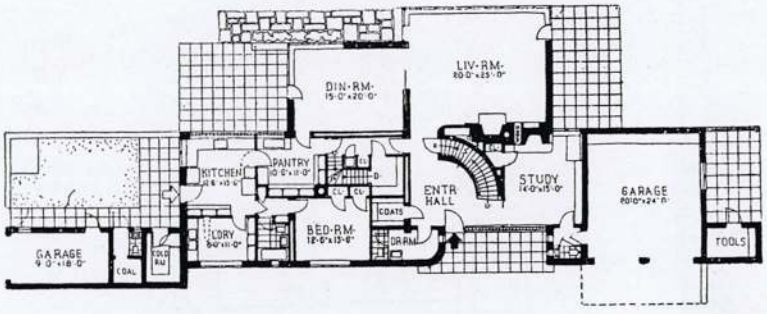
(Architectural Forum, Feb., 1938より)



断面圖



2階平面圖

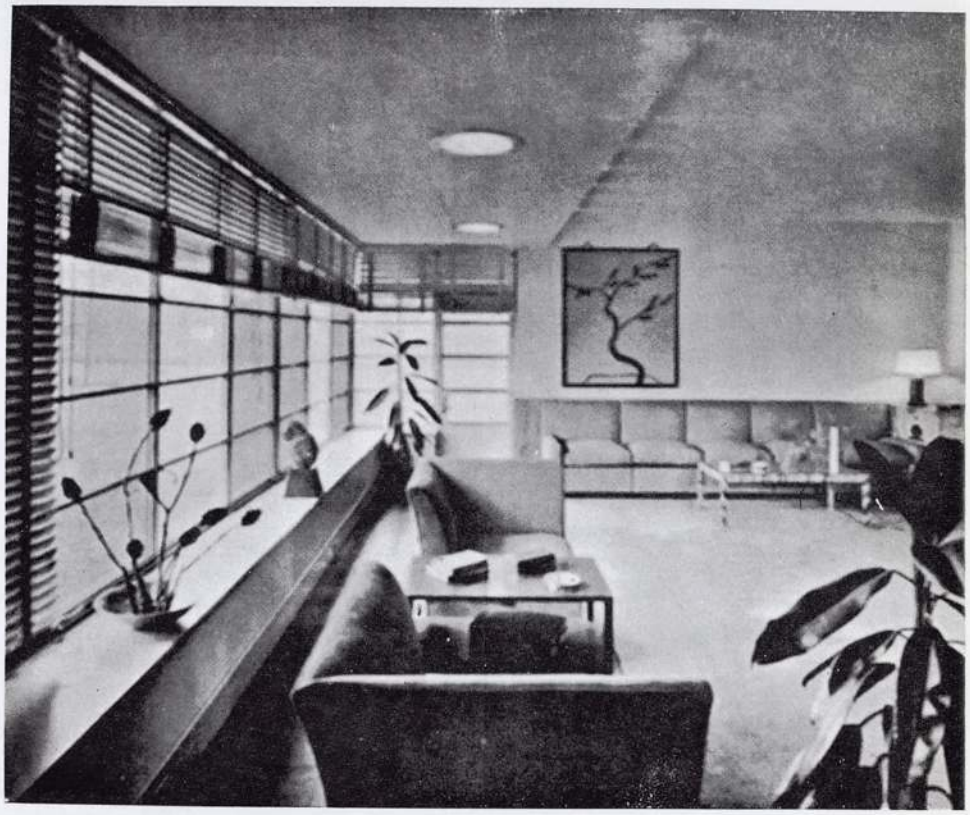


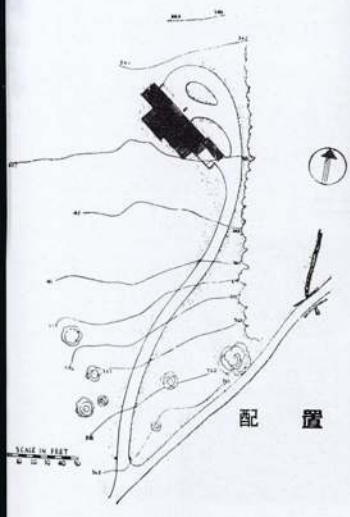
1階平面圖

庭園側外觀



居　　間





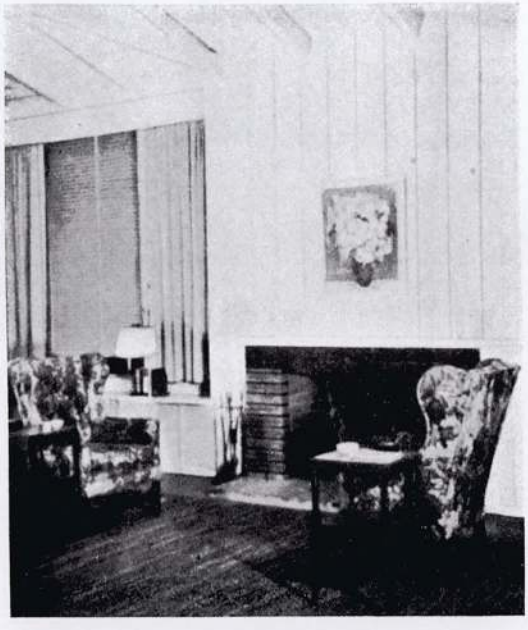
配　置　圖



外　　觀



平面圖



居　間

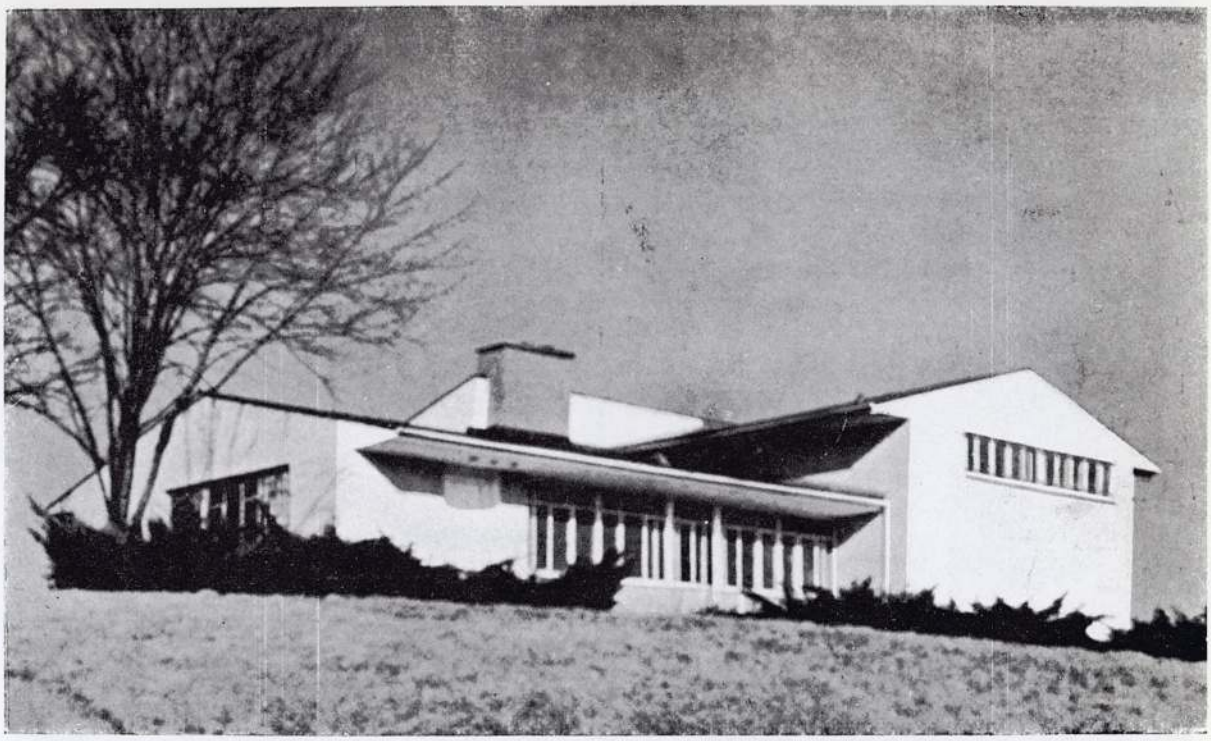
カリフオルニヤ西部の片田舍の住宅。地方色と近代色とが、その設計の上に面白く現はれてゐる。

低い屋根、庇のある廣いポーチ、水平に擴がつたプラン、これ等のものが峨々たる背景に不調でなく取扱はれてゐる。

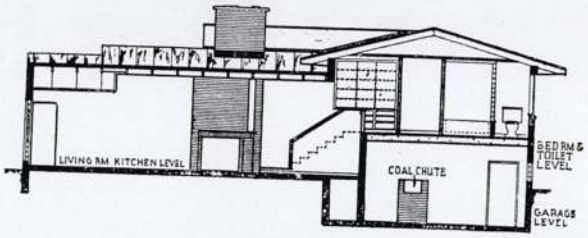
ホロー・セメントブロック造。容積は32,300立方呎、工費 12,500弗、毎立方呎に就き39セントである。

(Architectural Forum, Feb., 1938 より)

IV 20 (アメリカ) パーム・スプリングの住宅　　建築家 Robert H. Ainsworth



外　　觀



斷　面　圖

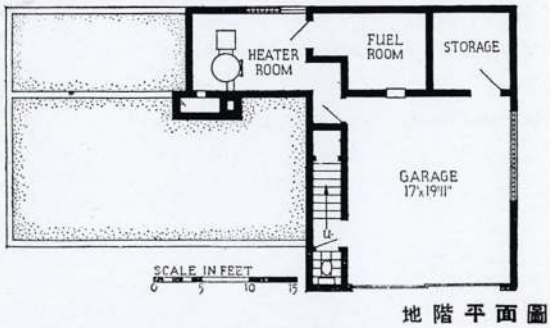
コンクリート・ブロック造の住宅。上部破風の部分のスタッコ仕上で下部のコンクリート・ブロックとがよき調和を示してゐる。

斷面圖に見られる様に室内に 2つのレベルを作つたことは、坪方の費用を節約し同時に室内部に面白い變化を與へてゐる。

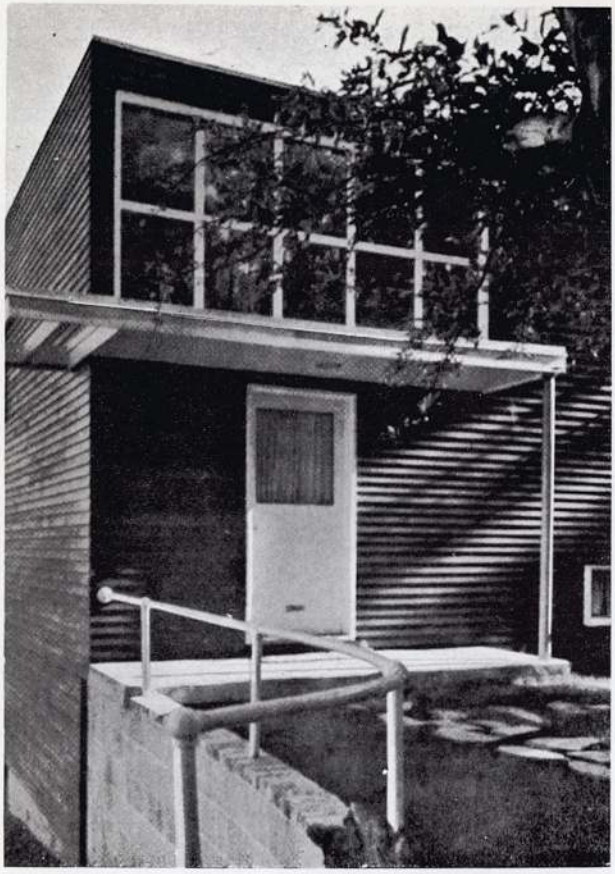
容積22,000立方呎、工費10,500弗毎立方呎に就き約48セントである。
(Architectural Forum, Feb., 1938 より)

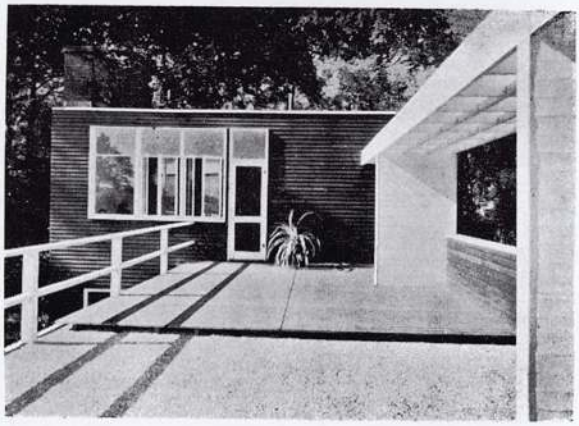


1 階 平 面 圖

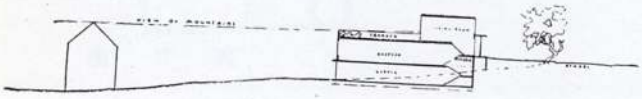


地 階 平 面 圖

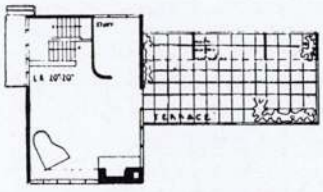




居間前のテラス



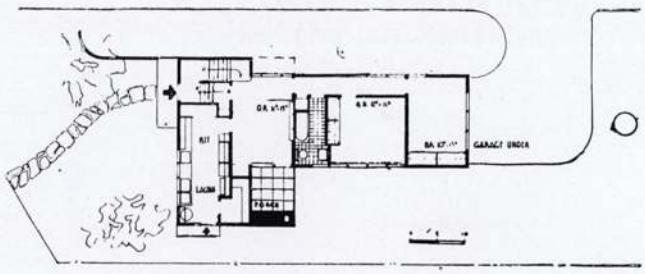
略斷面圖



2階平面圖

之も全部木造である。ゆるやかな傾斜地に建つてゐて、丁度玄關が 1階と 2階の中間位の高さとなつてゐる。從つて踊場が玄關となつてゐる一寸變つた面白い平面である。尙地階は車庫となつて居り、2 階の居間は、職業柄非常に大きい。

(Architectural Review, Feb., 1938 より)



1階平面圖

會　　員

故　正三位勳二等
　　工學博士　**武田五一氏**



昭和13年2月5日會員工學博士武田五一氏病を以て逝去せらる。

武田博士は大正6年3月本會が關西建築協會として呱々の聲を擧げるや創立の一員として參劃し爾來理事並に副會長の役員に當選其間各種の委員會委員長を依囑せられ、當協會發展のために多大の努力を續けられて幾多の功績を遺されたのである。

然るに突如肯に冒され急逝せらる、洵に哀悼に禁へず茲に肖照と略歷を掲げ謹んで弔意を表す。

1. 明治5年　11月15日福山市西町に生まれ、廣島縣士族なり。
1. 明治30年　7月東京帝國大學造家科を卒業し、直に同大學大學院に入學。
1. 明治32年　7月退學、東京帝國大學工科大學助教授に任ぜらる。
1. 明治33年　6月圖學研究の爲英獨佛に留學を命ぜられて。
1. 明治34年　3月出發す。
1. 明治36年　5月京都高等工藝學校教授に轉任し、7月歸朝す。
1. 明治37年　9月京都府技師に兼任せらる。
1. 明治40年　9月京都帝國大學文科大學講師を囑託せらる。
1. 明治41年　5月大藏省臨時建築部技師に兼任せられ、帝國議會及諸官衙建築調査の爲歐米へ派遣の命を受けて、出發し。
1. 明治42年　3月歸朝す。
1. 明治45年　6月巴奈馬太平洋萬國博覽會事務取扱を囑託せられ、7月米國へ出張を仰付けられて、出發し。
1. 大正元年　10月歸朝す。
1. 大正2年　4月東京大正博覽會審査官を囑託せられ、6月大藏省臨時建築部技師兼任を解かる。
1. 大正3年　5月巴奈馬太平洋萬國博覽會事務取扱の囑託を、9月京都帝國大學文科大學講師の囑託を解かる。9月東京大正博覽會審査官として米國へ出張を命ぜられて、出發す。
1. 大正4年　2月工學博士の學位を授與せらる。3月歸朝し東京大正博覽會審査官の囑託を解かる。
1. 大正5年　4月法隆寺壁畵保存法調査委員を囑託せられ。
1. 大正6年　5月古社寺保存會委員を仰付けらる。
1. 同　　年　日本建築協會理事に當選任期滿了。
1. 大正7年　4月名古屋高等工業學校長に轉任し、7月大藏省臨時議院建築局技師に兼任せらる。
1. 同　　年　日本建築協會理事に當選任期滿了。
1. 大正8年　5月京都帝國大學工學部建築學科創設委員を囑託せらる。11月大阪市區改正調査事務を囑託せられ。
1. 大正9年　7月都市計畫名古屋地方委員會委員を仰付けらる。9月京都帝國大學教授に轉任し、11月都市計畫京都地方委員會委員を仰けらる。12月高等官一等に叙せらる。
1. 大正11年　3月京都帝國大學建築顧問を。
1. 大正12年　5月京都都市計畫事業顧問を。
1. 大正13年　3月法隆寺防火設備工事委員を囑託せらる。
1. 大正14年　5月營繕管財局技師工務部勤務を命ぜらる。
1. 大正15年　10月第三回汎太平洋學術會議議員に推薦せられ、12月勳二等に昇叙せらる。
1. 昭和元年　12月大阪市區改正調査事務の囑託を解かれ。
1. 昭和2年　1月大阪市都市計畫及高速鐵道

設計建築物に關する事務を囑託せらる。

1. 昭和3年　5月京都市大禮奉祝事務局顧問を、

1. 昭和4年　1月京都帝國大學營繕課長事務を、8月大禮記念京都美術館建築設計委員を、9月外務省事務及、東京帝室博物館建築設計委員を、11月京都市都市計畫に關する事務を囑託せらる。同月國寶保存會委員を仰付けらる。

1. 昭和6年　5月海外出張を命ぜられ、10月歸朝す。

1. 昭和7年　7月日本赤十字病院京都支部病院建築事務を囑託せらる。12月本官並兼官を依願免官せられ、同月昭和7年度工學部講師を囑託せらる。同月正三位に叙せらる。同月國寶保存會委員を仰付けらる。

1. 同　年　社團法人日本建築協會副會長理事に當選任期滿了。

1. 昭和8年　3月日本學術振興會學術部常置委員會委員を委囑さる。6月大阪市土木部臨時ホテル建築事務所主幹を囑託せらる。

1. 昭和9年　1月東京府廳舍建築設計審査會審査員に任ぜらる。4月法隆寺國寶保存工事事務所長を囑託せらる。

1. 昭和10年　2月關東局建築に關する事務を囑託せらる。6月日本赤十字社京都支部顧問を囑託せらる。9月朝鮮總督府始政二十五年記念博物館建築設計圖案委員會委員を仰付けらる。

1. 同　年　社團法人日本建築協會副會長理事に當選任期滿了。

1. 昭和11年　5月大阪府産業工藝博覽會審査總長を囑託せらる。

1. 昭和12年　1月萬國博覽會會場計畫委員を囑託せらる。2月朝鮮總督府博物館建設事務顧問を囑託せらる。4月內閣工業審査委員に任ぜらる。

1. 昭和13年　2月5日逝去さる。享年67歳。

昭和13年2月8日京都市百萬遍本堂に於て佛式を以て葬儀執行本會よりは下記弔詞並に香花を靈前に供ふ

弔　詞

茲に社團法人日本建築協會會員一同を代表して恭しく故正三位勳二等工學博士武田五一氏の英靈に告ぐ

我日本建築協會が大正6年建築界の振作革進を以て關西の一角に其旗幟を樹つるや氏は馳せて籍を會員の一員に置き爾來本會の理事副會長或は委員長等に屢當選せられ斯界の功績鮮からず殊に我協會が將來の施設に於て氏に俟つ處亦尠からざるものあるの秋忽然として幽界に歸せらる痛惜焉そ禁へん爰に會員一同の赤思を捧げ切に哀悼の意を表す

英靈夫れ髣髴として來り饗けよ

昭和13年2月8日

社團法人日本建築協會會長

工學博士　片岡　安

會　報

都市武裝促進委員會（第2回）

時　2月28日午後6時30分—9時10分
所　建築材料陳列場別室
出席者　委員長　竹　腰
幹　事　鳥　井
委　員　清　水、棚　橋、內　藤
松　井、村　野、森　田
横　山、今　林

協議事項
1、市街地建築物法令の改正に關する意見提出の件

災害强度委員會（第2回）

時　3月1日午後6時30分—8時30分
所　建築材料陳列場別室
出席者　委員長　渡　部
幹　事　黑　田、山　田
委　員　中　井、堀　口、矢　田
横　田、中　島、西　島
益　尾

協議事項
1. 地質調査に關する件
2. 防空施設に關する件

設備委員會（第3回）

時　3月1日午後6時30分—8時
所　協會倶樂部室
出席者　委員長　酒　井
幹　事　伊　東、增　井
委　員　岩　尾

協議事項
1. 土木建築工事場安全規則に關する件

材料委員會（第4回）

時　3月3日午後6時30分—9時10分
所　建築材料陳列場
出席者　幹　事　楠　瀨、松久保
委　員　秋　田、小　川、島　田
三　浦、道　田、木野山

協議事項
1. 日本建鐵、理研鋼材見學に關する件

教化委員會（第2回）

時　3月10日午後6時—8時30分
所　建築材料陳列場別室
出席者　委員長　永澤
幹　事　篠原
委　員　坂本　田中
中村　宮崎

協議事項
1. 「メートル」法一元制實施に關する協會案立案の件
2. 大工徒弟養成に關する件

住宅委員會（第4回）

時　3月11日午後6時30分—9時
所　建築材料陳列場別室
出席者　委員長　石　川
幹　事　岡　田、矢　田
委　員　小　林、中　野、田　中
角　尾

協議事項
1. 住宅防護室原稿に關する件
2. 阪口樓新建築見學の件

常務會（第5回）

時　3月14日午後5時30分—8時
所　建築材料陳列場別室
出席者　理　事　片岡會長、竹腰副會長
中澤副會長
監　事　清水監事
常　務　井上主記、伊藤主記、樋口主記
山手主記、松井主計、三浦主計
伊藤編輯、堀口編輯、八木編輯
吉田編輯

議　事
1. 3月例會並見學會に關する件
2. 南京防空施設見學に關する件
3. 都市武裝促進委員會より委員3名增員方要求の件
4. 法制委員會より第8次改訂市街地建築物法令原稿作成に關し具申の件

5. 災害强度委員會より風壓分布報告書拔刷代請求の件
6. 上海視察報告書拔刷代請求の件
7. 會誌寄贈先及交換先整理の件
8. 大阪出品協會申出に係る「銃後を護る博覽會」援助に關する件
9. 都市計畫委員會より報告に係る第2回全國都市美協議會へ提出の研究原稿の件
10. 非常時立法措置に關する聯合委員會に關する件
11. 會誌印刷請負契約に關する件
12. 度量衡制度改正の「諮問から答申まで」に關する件
13. 時事問題研究の件
(1) 防空上より見たる建築物外裝に關する意見書の件
(2) 大阪市役所に於て技術向上運動開始の件
14. 會員詮衡

報　告

2月分會計報告

法制委員會（第4回）

時　3月14日午後6時10分—7時40分
所　協會倶樂部室
出席者　委員長　玉置
幹事　松井、山口
委員　板井、武田、本田

協議事項

1. 市街地建築物法令改訂第8版原稿完了に付發刊に關する件

災害强度委員會（第3回）

時　3月15日午後6時40分—8時30分
所　建築材料陳列場別室
出席者　委員長　渡部
幹事　黒田、山田
委員　中井、矢田、横田
大隅、菅、恒岡
中島、平野、益尾

協議事項

1. ボーリングに關する件
2. 風壓に關する件

緊急常務會

時　3月16日午後5時30分—6時30分
所　建築材料陳列場別室
出席者　理事　竹腰副會長、中澤副會長
監事　清水監事
常務　井上主記　伊藤主記
山手主記　三浦主計
伊藤編輯　堀口編輯
八木編輯

議　事

1. 中支方面視察に關し人選の件

本件は大阪府市中支方面視察團に參加の爲本會より左記二氏選ばれて團員となり派遣さることとなる

理事（大阪府建築課長）　中澤誠一郎氏
監事（清水建築事務所主）　清水　榮二氏
會員（大阪市營繕課設計係長）新名　種夫氏

2. 支那事變聖戰博覽會出品に關する件

大阪朝日新聞社主催右博覽會開催に付本會指導竹中工務店施工として支那防毒室模型を出陳することゝなる

材料委員會（第5回）

時　3月17日午後7時—9時20分
所　建築材料陳列場別室
出席者　幹事　楠瀬、松久保
委員　秋田、小川、島田
道田、木野山
石綿スレート工業組合、長澤

協議事項

1. スレート研究に關し組合側と懇談す
1. 見學會開催に關する件

倶樂部室幹事會（第2回）

時　3月23日午後6時—7時
所　建築材料陳列場別室
出席者　幹事長　須賀
幹事　加田、鈴木

協議事項

1. 親睦會開催に關する件

三月例會

時　3月24日(木)午後6時30分—8時
所　協會倶樂部室
出席者　黒田　茂、西島　勇、小川安一郎
板倉　達、根津　盛三、藤江　道造
大坪　哲夫、鈴木文次郎、長尾　清一

大岩　近八、遠藤　司、廣瀬誠司郎
寺石　重正、福知　秀夫、關原　猛夫
岸本　幸治、高津壯太郎、池田　宮彦
伊藤幸太郎、田中　信夫、柿本　清治
中島　敏雄、浦　英之助、奥野　時三
大下順三郎、中島　智喜、中川　了文
島田　眞馨、大隅　武夫、酒井勇三郎
鈴木　孫市、本多　正道、山田　誠
高坂信次郎、藤川　忠男、後出　清範
金井　洋三、尾龜清四郎、次第不同38名

1. 午後六時30分開會黒田災害强度委員會幹事は役員及委員長を代表して開會の辭を述べ次て講演者大阪市國大學助教授小谷寛之亮氏を紹介して着席す夫より
小谷講師は左の題下に幻燈を應用して一時間半に亙る長講演あり
風壓研究の諸問題（内容は追て會誌にて發表の豫定）
1. 講演後座談的に質問應答ありて午後八時黒田幹事より講演者に對する謝辭あり一同拍子を以て之に和し盛會裡に散會す

會員動靜

入會者

會員

西島源次郎君　府下豊能郡豊津村垂水（大阪市役所）
宮脇　泰一君　神戸市須磨區松風町2ノ14ノ7（神戸市役所財務課）
石原　政三君　住吉區田邊東之町6ノ13（合資會社勝呂組大阪支店）
岡田　愛一君　北區都島本通　4ノ51（岡田建築事務所）
小宮　賢一君　神戸市灘區備後町　1ノ16六甲道アパート（兵庫縣建築課）
後藤和太郎君　京都市上京區小山下總町50（後藤建築事務所）
檜皮　正隅君　住吉區濱口町　402（大阪市教育部建設課）
藤井　正隆君　西成區南吉田町50（長谷部竹腰建築事務所）
三好　貫一君　兵庫縣御影町檀1138（大阪市教育部建設課）
三好　悌吉君　兵庫縣武庫郡瓦木村甲子園口　173（兵庫縣建設課）

地方會員

太田　義夫君　新京市大同大街　205（大德公司技術課）
齋藤　小司君　釜山府大新町780ノ2（釜山府技手）
瀨川　廉平君　金澤市袋町59瀨川鐵之助方
久保田秀諭君　靜岡市安東町3ノ144（靜岡縣技手）

特別賛助員

木下　昌次君　兵庫縣武庫郡鳴尾村濱甲子園31（建築材料販賣業）
牧野　眞三君　西成區姫松通　1ノ39（名古屋製陶株式會社大阪支店）

普通賛助員

淺野　幸吉君　京城府黄金町1ノ101（株式會社清水組京城支店）
大寄　正雄君　戸畑市本町3ノ747大林組戸畑出張所
多田政次郎君　京城府黄金町1ノ101（株式會社清水組京城支店）
谷脇　清泉君　北區山崎町　18ノ1（岡田建築工務所）
池田　吉光君　府下吹田町1473（住友金屬工業株式會社伸銅所）
乾　　正男君　廣島縣安藝郡江田島村海軍兵學校生徒舘增築工事寫清水組作業所
河淵元三郎君　神戸市外鈴蘭臺鈴蘭臺ハウス新築工事寫大林組詰所
北川　　憲君　東淀川區國次町　275（大植建築事務所）
工藤　雅三君　南區難波新地３番町48（東建築工務店）
阪本　政一君　天王寺區細工谷町　103（大阪府防空課）
定村　丈夫君　福岡縣京都郡稗田村下稗田685（建築設計大分舍）
高田　正男君　府下三島郡玉櫛村水尾　751（須藤建築工務所）
富吉　眞之君　此花區中江町30（富吉組）
富山　隆明君　府下中河内郡加美村旭町　269（大高工務店）

濱谷　芳松君　東淀川區十三西之町 5ノ13
速水　逸夫君　堺市向陽町 206（大阪市水道部下水建設課）
福山　政夫君　西區靱北通 2ノ26
八尾　正次君　西成區粉濱東之町 4ノ13（土木建築請負業）
吉本　濤渡君　浪速區戎町1丁目川合アパート3號（橋本工務店）

退　會　者

會　員

飯田爲二郎君　上東　辰澄君　西村　榮祐君
宮武　幸雄君

地方會員

田中　浩君　日置　邦範君　福野　政夫君

特別賛助員

木下　謹三君　黒川　雄平君

普通賛助員

有田　啓三君　林　力造君

轉　居　轉　勤

會　員

田中　秀彦君（勤務先）大阪府警察部工場課
芦田　政一君　住吉區北田邊町 787
匂坂　弘美君　府下吹田泉町3232
田中　彌一君　名古屋市熱田區熱田東町澤上10佐和加美アパート（都市計畫愛知地方委員會）
根津　盛三君　西淀川區野里町 119
森　三郎君　東京市神田區須田町2ノ8
森脇　圭三君　岡山市大供町 1ノ22
伊藤　康夫君　東淀川區十三南之町3ノ7
池田彌之助君　神戸市湊區下三條町 199
石澤　潔君　東京市目黒區柿之木坂 230
石田　慶一君　住吉區旭町1ノ1大林組天王寺出張所内
板垣精治郎君　兵庫縣川邊郡園田村森
糸井直太郎君　天王寺區筆ヶ崎町79
栗岡　忠夫君　東京市淀橋區戸塚町2ノ192
小池　錦三君　西宮市滿池谷町37
手代木善根君　府下吹田町高畑1421
出村　治作君　東淀川區三國本町76
西澤　隆助君　東京市板橋區成増町2103
増田幸次郎君　北區常安町 5　中之島寮
山本　千吉君　西宮市森具字久出542ノ19 エム、ジー、ステイスカル方
山本　正重君　旭區新森小路南 1ノ98
吉野　修祿君　東京市杉並區馬橋2ノ169
劍持　剛君　西宮市今津町高潮21

地方會員

石井　長夫君　旭區南島町9
佐々木義夫君　西宮市川西町 41ノ5

特別賛助員

落合　武繁君　（勤務先）大阪窯業セメント株式會社

普通賛助員

大久保信一君　神戸市兵庫區水木通 3ノ21三輪星商會内
太田　醇君　西宮市川東町59
垂水　馨君　東成區生野田島町209ノ8
服部　保君　京都市中京區西ノ京星ヶ池町18ノ1
吉澤　千吉君　名古屋市東區上竪杉町4ノ2村瀬方（株式會社竹中工務店名古屋支店）
鹽崎　政雄君　和歌山市13番丁 5
田中　數雄君　兵庫縣加古川町加古川中學校前
寺井　廣義君　神戸市葺合區熊内通4ノ16ノ2
細川　一雄君　兵庫縣川邊郡伊丹町平松町 5丁目
村田　眞一君　府下長野町古野4ノ1
森田常一郎君　京都市伏見區深草極樂町 777
四日　正義君　倉敷市旭町北通660 藤木工務店倉敷支店

改　姓　名

會　員

加藤　勝彦君（舊名　新）
高波　隆助君（舊姓西澤）

特別賛助員

勝田榮次郎君（舊姓名　吉野兵三郎）

普通賛助員

林　醇君（舊姓太田）

死　亡

特別賛助員

礒田　竹次君（昭和13年3月1日逝去）
（謹んで哀悼の意を表す）

編輯後記

★本月號は故武田博士の追憶を主として編輯した。片岡會長始め諸家の文はいづれも友人として或は弟子として貴い情愛に滿ちたものである博士が我國建築界に印された偉大なる足跡に就ては今更喋々を要せぬが諸家の追憶記を讀んで博士の高潔な人格に對し追慕の情いやまして深きを覺える。

★時局は愈々長期永續の形態を整へて來た。さきには北支新政府が成立し更に最近中支新政府の誕生を見るに到つた。之に伴ふ經濟機構の整備と共に建設の歩が着々と進められつゝある。建築にたづさはる者の眼は一齊に之に向けられはじめた。

★北支中支に進出して建設の部門に參加することは固より結構我等の重要な責務である。と同時に落付いて國内に眼を注ぐことも根幹を培ふ意味に於てゆるがせにすべからざるものと思ふ防空の事の如き或は又鐵鋼其他諸材料統制の問題の如き協會員として深き關心を以て考慮し積極的熱意を以て善處すべき事柄がある。

★此時に當つて本會が清水榮二、中澤誠一郎、新名種夫の三氏を南京に送つて防空に關する施設の調査を委ねたのは誠に時宜に適したものと言はざるを得ぬ。數日の内に歸阪される三氏の報告は我國の防空施設に必すや大なる刺戟と有益なる示唆とを與ふるに違ひない。恐らく六月號には貴重なる報告の發表がある事と思ふ。諸君の御期待を乞ふ次第である。（八木憲一）

建築と社會
第21輯　第4號

毎月1回1日發行　定價　1冊　50錢（郵稅3錢）　12冊　6圓（〃　36錢）
昭和13年3月25日印刷　昭和13年4月1日發行

發行・編輯
印刷人　小板常男
大阪市北區朝日ビル日本建築協會内
印刷所　プラトン印刷社
大阪市西區江戸堀南通2丁目13番地
發行所　財團法人　日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル
電話長北濱(23)4501番(9)
振替口座大阪39975番
特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋西
電話土佐堀2440番
振替口座大阪2084番

禁轉載
本號に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告掲載料金

普通	1頁	1回	15,00
普通	½頁	1回	8,00
普通（前附第1頁）	1頁	1回	45,00
普通（前附第2頁）	1頁	1回	40,00
普通（後附第1及最終頁）	1頁	1回	25,00
アート（中挿）	½頁	1回	20,00
表紙2	1頁	1回	60,00
表紙3	1頁	1回	45,00
表紙4	1頁	1回	80,00
建築事務所錄	1欄	1回	1,50
（建築關係業者案内）	1欄	1回	5,00

廣告掲載御申込は本會へ直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ、振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

建築と社會第21輯第4號　廣告索引

ア　旭硝子株式會社……33
　　有田製陽所……14
　　淺野スレート株式會社……16
イ　岩元工業株式會社……26
エ　榮進社……35
　　英進商會……25
　　荏原製作所……40
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
　　大阪伊丹商店……24
　　大阪組立コンクリート製作所……30
　　大野製作所……表紙 2
　　奥村重兵衛商店……23
キ　桐田商會……22
ク　久保商店……18
コ　小林式盜難豫報機製作所……11
サ　佐渡島英祿商店……13
　　佐久間パブコ工業株式會社……21
　　坂本商會大阪支店……25
　　三機工業株式會社大阪支店……表紙 2
　　坂田ベンチレーター製作所……11
ス　須賀商會……37
セ　政正合資會社……28
　　清光社……10
タ　田島應用化工株式會社……前附 2
　　大和工業株式會社……7
　　大洋組建材部……24
　　ダンロップ護謨株式會社……中挿
ト　東洋リノリユーム株式會社……表紙 3
　　東京電氣株式會社……36
ナ　內外土木建築材料合資會社……17
　　南滿鑛業建材合資會社……19
ニ　日本建築紙工株式會社……26
　　日本放熱器商會大阪支店……34
　　日本機械工業株式會社……38
　　日本陶織社……11
　　日本ドアーチエック製作所……12
　　日東物產株式會社……15
　　西原衛生工業所……29
　　西孫商店建築金物部……17
ノ　野澤幸三郎商店……31
ヒ　平松釣戶車製作所……39
ホ　邦光化學工業所……8
マ　松井商店……30
　　松下電器株式會社コンヂット部……9
ミ　三井物產株式會社……27
ヤ　矢橋大理石商店……14
　　大和護謨製作所……32
ヨ　横河橋梁製作所……20
　　米本商店……18
　　米原商店……28
リ　理研鋼材尼崎工場……前附 1
　　リーダ建材工業株式會社……中挿
レ　玲光社(木內眞太郎)……19